

338.3  
Y563s



2

0029550-000

338.3-Y563s

昭和金融政策史

矢尾板正雄・著

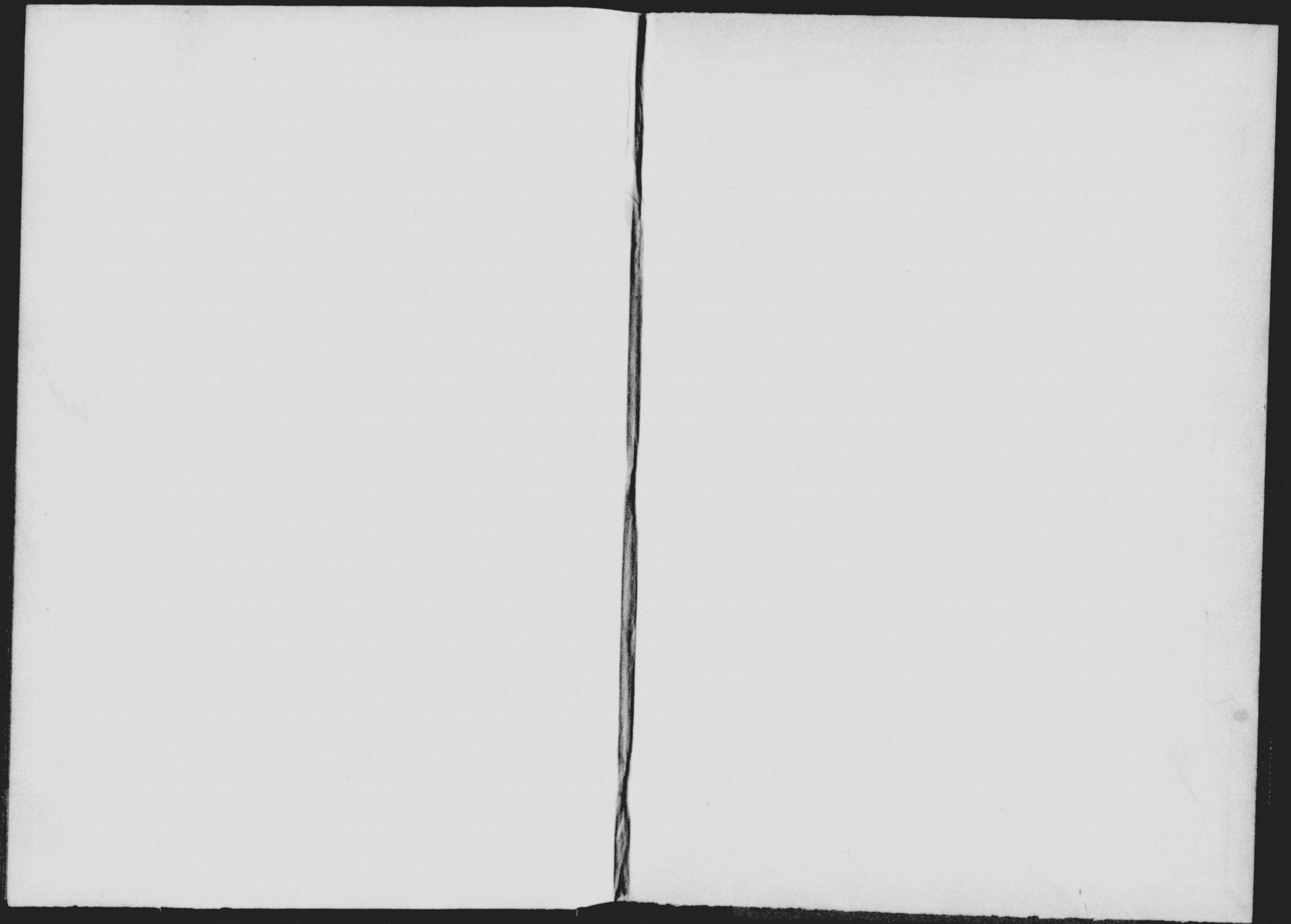
皇国青年教育協会

1943

ADI

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月23日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。







矢尾板正雄著

昭和金融政策史

皇國青年教育協會發行

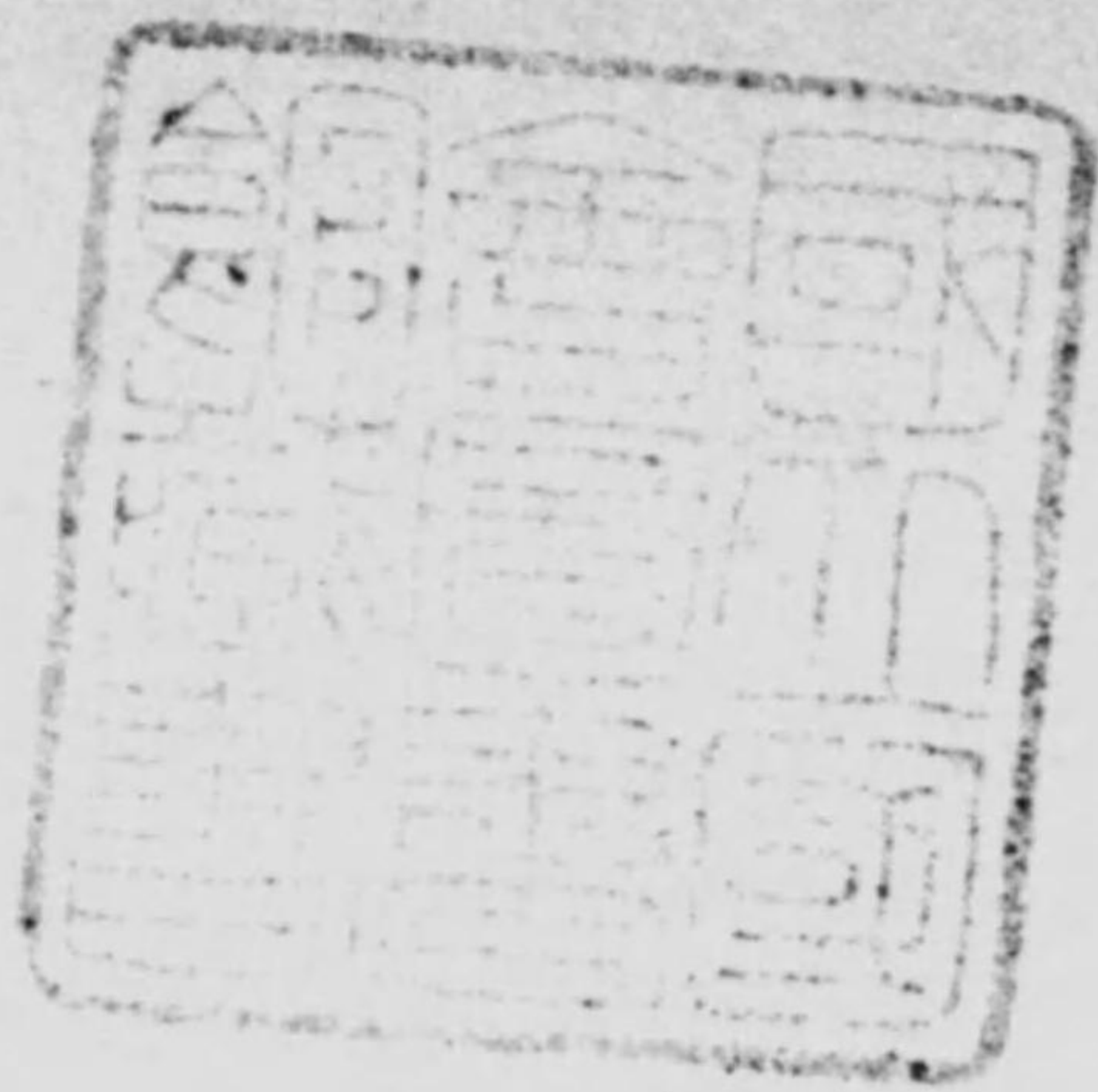


338.375830

### 凡例

- 一、叙述の簡略を旨とし、敬稱及び敬語を省略した。
- 一、金融、経済上の用語等に就いては煩を避くるため、略稱、略語を用ひた。例へば日本銀行、横濱正金銀行、日本興業銀行、日本勸業銀行、北海道拓殖銀行、朝鮮銀行、臺灣銀行を夫々日銀、正金、興銀、勸銀、北拓、鮮銀、臺銀、日本銀行特別融通を特融、シンジゲート團をシ團とし、生産力擴充資金を生擴資金と云ふが如き類である。
- 一、年號に關し特に元號（例へば明治、大正の如し）を冠せざるもの（例へば單に「二年」、「十五年」等の如し）は、總べて昭和を省略したものである。
- 一、参考資料として東京銀行集會所發行の銀行通信錄を主とし、それに各銀行の年誌並に各金融團體の資料を用ひた。特に大藏省關係の資料を全面的に取入れたことは勿論である。
- 一、讀者の便宜の爲卷末に索引を附した。

凡例



276590



緒言

聖戦こゝに五ヶ年、今や、世界新秩序の黎明を告ぐる曉鐘は鳴り響き、雄大なる大東亞共榮圏の建設譜が高らかに奏でられてゐる。

かゝる建設譜は所謂戦時体制の強行となつて現出し、我が國經濟界は偉大なる大變革を遂げ、未だ曾て經驗なき新機構の下に、戦争完遂を目指して躍動しつゝある。就中、金融界に於ては六十年の長き歴史を有する株式会社日本銀行は改組せられ、東亞金融圏の盟主としての新日本銀行が誕生し、全金融機關は各系統別金融統制會の下に一元化されて、自律的統制に邁進しつゝある。

この偉大なる大變革は一朝一夕に成つたものでなく、時代の推移に伴ふものであることは勿論ながら、其の根幹には政府の指導統制が力強く動いてゐたのであつて、これが昭和年代に入つて銀行行政上極めて顯著に具現されたのである。

即ち、從來銀行の監督機關は、左の如き變遷を見たのであるが、何れも部局の一課として隸屬するに過ぎず、大正五年に至つて現在の銀行局が創設され、同時に其の權限が擴張されて、全金融機關の検査監督調査を其の所管としたのであつた。

本局銀行課

明治十一年一月

(同時ニ紙幣寮廢止)

書記局銀行課

同 十二年十二月

(同本局廢止)

銀行局

同 十三年五月

(同書記局銀行課廢止)

監査局銀行課

同 二十四年七月

(同銀行局廢止)

大臣官房第三課

同 二十六年十月

(同監査局廢止)

監督局銀行課

同 三十年四月

理財局銀行課

同 三十一年十月

(同監督局廢止)

大臣官房銀行課

大正二年六月

銀行局

同 五年四月

斯く銀行監督の行政機關は幾變遷したが、銀行整理淘汰の方針は一貫されてをり、又それは歴代政府當局の傳統的政策として我が國金融政策の一大特色をなすものであつた。

殊に昭和の時代となつて、新銀行法の公布に依り普通銀行の形態が明らかとなり、銀行局に検査課が設けらるゝに及んでこゝに初めて銀行強化の方針が確立せられ、金融統制の第一歩を印するに至つた。後年、全金融機關の戦争完遂體制を形作るに有力なる基因となつたものは實にこの新銀行法の制定である。

尤も金融機關自體としても、昭和二年の金融恐慌、金輸出解禁、六年の再禁止、滿洲事變等の試煉



を経て、戦時體制下微動だにせざる堅實性を育成するに至つたのであるが、政府當局の方針がこの堅實性を倍加したことは見逃し得ないところである。

この間、終始一貫して金融擔當の新聞記者として歴代當局者の警咳に接し、其の政策を聞知し來つた者であるが、金融統制會設立の一段階を機として、専ら歴代當局者の事績と業界の動向を詳記するに努め、これが批判と論議を避け、以て斯界の參考に資せんがため本書を上梓したのである。

上梓に際し、歴代銀行局長、銀行局各關係官並に大藏省各局長より極めて懇切なる御指導を賜つたことを謹んで感謝すると共に各金融機關並に團體よりの御支援に對し深く感謝する次第である。

昭和十七年晩秋

著者

## 目次

第一章 松本脩局長時代（昭和二年）	
第一節 昭和二年の金融恐慌	一
第二節 恐慌後の善後處置	三〇
第三節 銀行更新に關する三方策	四四
第四節 新銀行法の公布	五二
第二章 保倉熊三郎局長時代（昭和三年—五年）	
第一節 新銀行法の施行	七三
第二節 銀行検査の實施	七六
第三節 銀行の整理方針	七九
第四節 恐慌後の後始未了	八六
目次	一



第五節 特種終結後の金融情勢……………九〇

第六節 政府の匡救策……………九四

第七節 金解禁直前の銀行界……………一〇三

第八節 金輸出解禁……………一〇八

第三章 大久保債次局長時代(昭和五年—九年)

第一節 國家補償法の發動……………一一六

第二節 金融の梗塞化……………一二〇

第三節 政府の低金利利用策……………一二四

第四節 金融機關の自治的協調……………一二七

第五節 日本興業銀行の進出……………一三五

第六節 朝鮮銀行浦鹽支店引上げ……………一四三

第七節 第五十九帝國議會……………一四六

第八節 議會後の銀行政策……………一五三

第九節 金輸出再禁止……………一五六

第十節 低金利政策の遂行……………一六九

第十一節 日本銀行發券制度の改正……………一七八

第十二節 外國爲替の變動……………一八五

第十三節 時局匡救策と不動産銀行の活動……………一九〇

第十四節 金再禁止後の銀行界……………二〇三

第四章 川越丈雄局長時代(昭和九年)

第一節 川越局長の銀行政策……………二二八

第二節 關西風水害……………二三八

第五章 荒井誠一郎局長時代(昭和九年—十一年)

第一節 第六十七帝國議會……………二四六

第二節 金利平準化運動の再然……………二四九

第三節 赤字公債樂觀論の擡頭……………二五九

第四節 日本銀行特別融通期限の切迫……………二六三



第五節 日本興業銀行の中小商工業金融新方策決定……………二六五

第六節 臺灣、朝鮮兩行の進出……………二七〇

第七節 不動産銀行の貸付金利低下……………二七三

第八節 銀行界の動靜……………二七五

第六章 和田正彦局長時代（昭和十一年—十二年）

第一節 第二次低金利の展開……………二七八

第二節 銀行政策の強化……………二八六

第三節 合同懲還の成果……………二九五

第四節 積極化する勸農合併……………三〇七

第五節 全國地方銀行協會の設立……………三一六

第六節 第六十九帝國議會……………三一九

第七節 朝鮮の金融機構問題……………三二一

第八節 爲替政策の強化……………三二四

第九節 結城藏相の財政金融政策……………三三〇

第十節 日本銀行條例の改正……………三三六

第七章 入間野武雄局長時代（昭和十二年—十五年）

第一節 支那事變の勃發……………三三九

第二節 日本銀行の金融政策轉換……………三四五

第三節 日本興業銀行の活動……………三五三

第四節 外國爲替政策の進展……………三五九

第五節 臨時資金調整法の實施……………三七八

第六節 臨時資金調整法の施行狀況……………三八五

第七節 公債の消化策……………三九五

第八節 貯蓄の奨勵……………四〇一

第九節 本邦資本の對滿支進出……………四〇七

第十節 擔保附社債信託法の改正……………四一九

第十一節 中小商工業轉失業問題……………四二一

第十二節 日本興業銀行の機能擴大……………四三二



第十三節 通貨膨脹に對する措置……………四三九

第十四節 不動産銀行の機能變化……………四四七

第十五節 第二次歐洲戰爭の勃發……………四五六

第十六節 銀行政策の轉換……………四七三

第八章 松隈秀雄局長時代（昭和十五年）

第一節 經濟諸統制の強化……………五〇三

第二節 爲替政策の轉換……………五二一

第三節 中小商工業者轉廢業對策……………五二四

第四節 業績向上を迫る特殊銀行……………五二九

第五節 金融緩和和工作……………五三一

第六節 全國金融協議會の結成……………五四〇

第九章 相田岩夫局長時代（昭和十五年—十六年）

第一節 三發券銀行の發券機能改革……………五四五

第二節 不動産銀行の機能擴大……………五五三

第三節 爲替政策の戰時體制への移行……………五五九

第四節 貯蓄獎勵の前進……………五七二

第五節 銀行合同の進展……………五八五

第六節 金利の調整……………六〇五

第七節 起債對策の前進……………六一五

第八節 金融新體制の確立……………六二六

第九節 臨戰態勢下の金融界……………六三八

第十章 山際正道局長時代（昭和十六年—十七年）

第一節 大東亞戰爭の勃發……………六五一

第二節 第七十九帝國議會……………六六〇

第三節 戰時金融金庫並南方開發金庫の設立……………六六七

第四節 日本銀行制度の改正……………六七五

第五節 不動産銀行法の改正……………六九〇



第六節 全國金融統制會の設立……………六九四

第七節 金融事業整備令の公布……………七一〇

第八節 第八十帝國議會……………七一四

第九節 十七年上期の金融情勢……………七一八

附録

一 自昭和二年至同十六年行政處分銀行……………七二一

一 大藏省銀行局分課規程……………七三一

一 大藏省銀行局創始以來の局課長……………七三四

索引



第一章 松本脩局長時代

(在任大正十二年四月—昭和三年一月)

昭和年代に於ける、松本脩局長の在任期間は短かつたが、其の功績は昭和銀行史の大半を占むると云つても過言でなからうと思ふ。即ち昭和二年の金融恐慌勃發より其の後始末並に新銀行法の發布に依り、銀行體形に一紀元を劃し、それが後に金融統制の根源を成すに至つたからである。

第一節 昭和二年の金融恐慌

當時の金融情勢

昭和新政下の我が經濟界は平穩と好望の裡に明け、今年こそは、金輸出解禁と云ふ劃期的な事柄を以て記念されるであらうと云ふのが、朝野一致の疑ひもない期待であつた。事實當時の金融界は春風駘蕩裡に越年し、前年十月日銀公定歩合引下以來の懸案であつた民間銀行の利下げが、何日實行されるかと云ふのが興味を中心であつた。それも二月九日に至つて實現し、東西銀行並に各地共定期五厘



下げ、日歩計算一厘下げと決定した。これは大正十一年四月の金利引上げ以來實に五十八ヶ月目で、漸く金利低下の機運に際會したものであつた。

東西預金協定利率

甲種	定期預金 (年利)		特別又ハ小口 當座預金(同)		通知預金及別 段預金(同)	
	當座預金及内 國預金(日歩)	六分	五分以下	〇・五以下	一・〇以下	一・二以下
乙種	六・〇	〇・六	一・二	一・二	一・二	一・二

斯くて金利は依然として政府の緊縮政策を反映し、緩慢裡に推移した結果、日銀では更に其の公定歩合を變更して各一厘乃至二厘方の引下げを行ひ、三月九日より實施することとなつたが、この公定歩合引下げに就いて注目すべきは、從來商業手形の割引率は國債擔保貸出最低利率に等しき歩合であつたのが、今回より優良なる手形に對しては更に低利の融通を爲すに至つたことである。之を日銀の割引政策上より觀るに、明治三十九年三月以來商業手形と國債保證手形の割引歩合とは常に同一歩調であつたのが、二十餘年を経て始めて兩者の歩合を區別し、日銀割引政策上に新方策が加味されたのであつた。

かやうに若槻内閣に依る緊縮政策は金解禁問題を前提する低金利政策の實行にあつたが、而も預金利子引下げが實施されたに拘らず、貸出利率は左の如く涉々しく低下するに至らなかつた。その原因

は實に臺銀のコール大幅の吸収にあつたのであつて、昭和二年の金融恐慌の伏線を成すものである。

東京銀行集會所組合銀行貸出金利

元 年	最高		最低		平均
	錢	銭	錢	銭	
十二年	三、四〇	一、六四	二、五九		
二年	三、四〇	一、六四	二、五九		
一月	三、四〇	一、二〇	二、五七		
二月	三、四〇	一、六四	二、五五		
三月	三、四〇	一、六四	二、五六		
四月	三、三〇	一、六四	二、五五		
五月	三、三〇	一、六四	二、五五		

原因

昭和二年の金融恐慌が現實に現れ始めたのは、第五十二議會に於ける、所謂震災手形整理に關する二法案の審議からとされてゐるが、當時銀行自體としても内部的に缺陷を藏し、遠からずその窮狀を暴露する運命にあつた。即ちその缺陷とは大正九年の財界動搖と十二年大震災の打撃とが鬱積して所謂「震災手形」となり、金融界に凝結してゐたことにあるが、大正十四年以降の圓貨急騰によつて物價が激落したことに亦一半の原因がある。



圓爲替は大正十四年一月、政府が爲替相場の維持策を取り上げると忽ち上昇に轉じ、その間一時政府は正貨現送の中止等の手段に依つて抑制したにも拘らず内外スエキレターの圓買は容易に終熄せず、而も解禁論者と噂された片岡直温氏が大正十五年九月藏相就任と共に、相次いで行はれた日銀の利下、正貨現送再開等が益々それを刺戟して、十四年二月迄三十八弗半にあつた圓爲替は早くも十五年八月には四十八弗臺となり、恐慌直前の昭和二年三月には四十九弗四分の一の市中レートさへ現れる急騰振りを示した。

この結果物價は崩落し、財界は深刻な打撃を受け、諸銀行の内容も亦急激に悪化したのであつた。恐慌の直接導因となつた臺銀の鈴木商店に對する貸出も、震災當時九千餘萬圓であつたものが、十五年四月には三億八千萬圓となり、恐慌當時には三億五千萬圓に達してゐたと云はれてる一事を見ても大正十四年以降の財界不況が如何に深刻であつたかを知ることが出来る。その上、當時は無擔保コールが盛行はれ、一部の銀行は是に依つて内容を彌縫する傾向があり、之が銀行の徹底的整理を阻み、且つその急回收が金融動亂に拍車を加へることとなつたものである。

### 震災手形整理案

二年の金融恐慌の發端をなした震災手形法案の内容を先づ知つて置く必要がある。

抑も大正十二年九月の大震災に依つて、我が國一般の經濟界に及ぼした影響は深刻なものがあり、就中被害地たる關東地方に於ける金融は全然梗塞するに至つたから、政府は取敢へず支拂猶豫に關する緊急勅令を發布して應急策を講じたのであつた。然し乍ら、この勅令の有効期間が経過すれば、再び金融上の困難を來すことは明白であつたから、政府は日銀をして臨機非常手段として常例に依らざる手形の割引を爲さしむることとし、之に依つて將來同行の受くることあるべき損失に對しては一億圓の範圍内に於て、政府が補償することとしたものである。

この法令は大正十二年九月二十七日勅令第四百二十四號震災手形再割引補償令として公布せられ、その融通期限は大正十四年九月三十日であつたけれども、一方震災に因る損害の復舊が進捗しない爲に、其の融通期限は大正十四年法律第三十五號及び大正十五年法律第三十三號に依つて再び一年づつ延長せられ、昭和二年九月三十日に其の期限が到來することになつた。

然し右勅令及び法律に依つて定められた震災手形に對する特別融通制度は、單に震災後の金融界に於ける、非常事變を一時無事経過せしめようとする制度であつて、震災手形の後始末を如何にすべきかを定めたものでなかつた。即ち、早晚如何なる手形を損失と見做すか、一億圓の範圍内に於て補償すると云ふが、その補償方法——現金補償か公債交付補償かと云ふことは右勅令や法律に規定なく、況んや補償された残りの震災手形を如何に處理するかは後日の問題として殘されてゐた。



然らば震災手形は何程市中にあつたかと云ふと、當初四億八千餘萬圓を算したのが其の後幾分返済されたとは云へ、昭和元年十二月末現在日銀に對する未決済手形額は猶二億六百八十萬圓餘の多額であり、その内譯は特殊銀行一億二千八百八十餘萬圓、普通銀行千五百餘萬圓で、この外、市中銀行に手持せる震災關係の手形もあつた。これらの手形處理のため商工業者に與へたる苦痛は甚大なるものがあつたと共に、銀行自體としても運轉資金等に困憊する向も少くなかつた。

斯くの如く震災手形が銀行並に商工業者を壓迫するものであり、又政府としても何等かの立法を講ずる必要に迫られたので、遂に問題の重要性に顧み震災手形整理を決意するに至つた。この外、政府として特に當時の片岡藏相をして整理案樹立を決意せしめた特別の事情があつたことは見逃すことは出来ない。之は金輸出解禁並に物價問題に對する輿論の勃興、各國の情勢並に海外爲替相場回復等の事實に鑑み、金輸出解禁の機運熟しつゝあるを看取せる一方、財界の痛である震災手形の解決を急務としたからである。

斯くて整理案樹立の前提條件として、手形整理の實績に就いての調査を必要とした大藏省銀行局は、各銀行に對し震災手形の所有高、再割引高、整理高、整理方法等十數項目に涉る回答を求め、その回答を根據として立案に着手し、二年一月の省議に於て左の通りの最後の確定案を得た。

一、勅令及び法律に基いて政府が、日銀に對して損失を補填するため一億圓を限度として公債を

發行する案を決定す。

二、震災手形の整理をなすため別に一案を決す、その要項左の如し。

(イ) 震災手形の未整理の状態で残れるものが日銀最近の調査によれば二億七百萬圓に達し、其の内日銀の損失となつて政府より補償を受くる金額を差引きたる殘額を標準として公債を發行し、之を震災手形を所持する銀行に對し貸付の爲交付すること。

(ロ) 震災手形を所持する銀行は手形債務者との間に其の手形債務を更改するため最長十ヶ年の年賦償還貸付契約を締結した場合に限り、政府に對し右貸付方を請求することを得ること  
(ハ) 其の貸付條件は利率年五分以上、期限十ヶ年以内とする外、詳細なる條件は大藏大臣之を定むること

(ニ) 右貸付金が漸次辨済され来るに従ひ、其の辨済金は國債整理基金に繰入れて速にこの公債が償還せられるやう工夫すること

右省議散會後、片岡藏相は、右整理案を發表すると同時に、これに關聯して次のやうな補足的説明をなした。

一、日銀の損失を決定すべき際には果して其の手形が損失となれりや否やを審査するため、大藏省内に内規を設けてこれを決定すること



- 二、震災手形債務者が支拂不能に陥り、裏書銀行の損失となれるものは、銀行の積立金の繰入れ、資本減少、未拂株金の徴收等により出来るだけ銀行自身をして損失を補充せしめ、然る後其の手形金額を損失と認むること
- 三、而してなほ當該銀行が損失を補充する能はざる時は、親銀行たる一流銀行をして犠牲を拂はしむる場合あること
- 四、日銀損失額が一億圓に達せざる時は、其の残額は貸付分に振替へること
- 五、手形所持銀行に對する貸付公債は、政府が一定契約に基き日銀に貸付け、日銀の責任と危険とに於て手形所持銀行に轉貸せしめ、政府は債權未回収に關する危険は一切負擔せざるること
- 六、各手形所持銀行に對する公債貸付條件は、各銀行の信用により茲に掲げる要綱の範圍内て必ずしも一定せざること
- 七、右貸付を決定するため、大藏日銀兩當局並に第三者を委員としたる審査委員會を組織し、委員會の議を経て條件を決定すること、この委員會組織には省令を公布すること
- 八、貸付公債の市場賣出しは之を禁止するも、コール擔保其の他には制限を附せざること
- 九、日銀への交付公債は九月末日限り一時に交付すべきも貸付公債は日銀の請求に應じ分割發行すること

一〇、手形所持銀行への貸付最長期は十年であるが、別に据置期間は置かぬこと

一一、交付公債の価格は時價を參酌し、大藏大臣之を定む

一二、震災手形所持銀行と雖も、整理の見込なき銀行へは公債を貸付けぬこと

この藏相の説明の内、第五項公債貸付の危険負擔の點は、元來立案者たる大藏當局者も全然意圖せざる處であつて、藏相の説明を聞いて最も驚いたのは日銀と銀行局であつた。然し乍ら、右危険負擔者が何れてあるかは重大問題であるので、其の後藏相を中心に日銀並に大藏省當局間の協議の結果、藏相の説明は全然藏相自身の獨斷であることが明らかにされ、議會提出の政府原案に於ては、日銀は唯貸付事務を行ふに要する經費を負擔するに過ぎざること訂正せられた。

又右藏相説明の第二項、第三項並に第十二項に見ゆる如く、この整理案の適用を受くる銀行（主として東京、横濱等の震災地の二、三流銀行）に對する大藏當局の意向は可成り嚴重であつて、本整理案の適用を機會に之等の銀行内容に適當なる改善を施さんとする意圖を十分に含んでをり、當時大藏省内部に於て震災手形の整理を機會に震災地の二、三流銀行大整理の強要を企圖し、之等銀行を徹底的に整理すると共に、別に一大整理銀行を新設して之等を合併するか、或は一流銀行に夫々合併せしむるか等の案を攻究してゐた模様であつたが、金融恐慌終熄と同時に後述の如く銀行の内容検査は嚴重を極むるに至つた。



斯くて、震災手形整理に関する法律案は「震災手形損失補償公債法案」竝に「震災手形善後處理法案」として、二年一月第五十二議會に提案されたのであつたが、後述の如く、震災手形所持銀行の内幕が曝露せらるゝと共に、貴族院に於て二法案可決に際し、

一、二法案の運用に就き審査委員會を設けること

一、臺灣銀行調査委員會設置のこと

の附帯條件が加へられ、前者は三月法律第十九號、後者は法律第二十號を以て夫々公布を見た。

### 發 端

一月下旬震災手形善後處理法案と震災手形補償公債法案とが衆議院に提出されてから、二月末頃迄、右震災手形關係の二法案に就いての是非は議會に於て目立つて論ぜられなかつたが、二月十四日廣部銀行の休業、二十三日に於ける四國方面の銀行取付と、政權を廻ぐる政黨の葛藤から、政局は俄然色めき立ち、三月に入つて震手法案は政争の具となると共に急に論戰の的となつて來た。殆ど連日衆議院及び貴族院で論争が續いた結果、政府の方でも、突つ込まれるに従つて、震災手形そのものに關する具體的事實をば可成り立ち入つて洩らすに至つた。而も議會に於て發表された震災手形關係の事實は次第に議會外にも洩れて行つた。斯くて、三月中旬となると一部預金者の間に震災手形所持銀行に對する取付を僅か乍ら行ふやうになつた。東京渡邊銀行の如きは、重役の關係事業に對する固定貸付のため資金の運轉に窮してゐた際、右の如き事情から震災手形を多額に背負ひ込んでゐることが次第に洩れて、緩慢ながら取付を受けつゝあつた。

斯くて十四日に至り、同行は愈々交換尻三十三萬七千圓の決済に窮し、一旦支拂を停止することとなつて、其の旨同日午後一時頃田大藏次官に報告した。處が後刻決済資金の調達が出来て、午後三時の手形交換締切時間迄に合ひ、その日は表向きには平常通り開店を續けてゐたのである。然るに他方片岡藏相は田次官の報告に依り、東京渡邊銀行は既に決済不能に陥つたものと推察したと同時に、豫算總會に於ける震手法案の審議が豫定通り進行せぬ關係から、この効果を願ふ餘り議員の質問に應じ「東京渡邊銀行は取付に遭ひ破綻云々」の答辯を爲した。これが以外の逆効果を生み、東京渡邊銀行は同夜の重役會に於て協議の結果、翌十五日から當分休業の已むなきに至り、その姉妹銀行たる「あかぢ貯蓄銀行」も同様休業と決定、こゝに金融恐慌の幕は切つて落された。

同日以後の議會の論鋒は宛然片岡藏相の失言問題に集中されたかの觀を呈し、この間東京渡邊銀行支拂停止に關する真相を田次官の名に於て發表する處があつたが、既に同銀行が休業してゐる以上何等の効果もなかつた。

又議會外に於ても震手法案は一、二の特殊銀行を救済するものに過ぎないとして、震手法案反對の



國民大會が開かれ、その席上に於て、震災手形に関する内幕が暴露されるに至つた。

東京渡邊銀行の休業以來不安を感じてゐた一般預金者は、右のやうな事情も加つて不安状態を醸し、従來の緩慢な取付は漸次露骨を呈し、これに伴ひ、十九日中井銀行の休業が傳はると、取付の風はますます盛んになり、同時に流言もその氣勢を煽つて二十一日左右田、八十四、中澤の三銀行、二十二日村井銀行と所謂二流銀行が門を鎖すに至り、東京及びその附近は一流銀行數行を除き殆ど全部に取付が行はれ、金融恐慌は最高調に達した。當時の東京渡邊銀行外六行の預金高合計は約六億圓に達し、その上これ等の銀行取引者、預金者は主として、中小工商业者又は中産階級者以下に屬する者が多かつたから、その狼狽振りには推察に餘りあるものがあつた。

其の後に於ては、地方の小銀行が二、三破綻しただけで表面的には、これ以上大きな銀行休業は起らなかつたが、不安そのものは決して全然無くなつたといふ譯でなく、各銀行共愈々警戒を嚴重にし、コールの放出を慎しみ、日銀に貸出を仰いて手許準備を豊富ならしむるところがあり、他方東京市中有力銀行家は、十九日及び二十二日の兩度に涉り日銀に會合して、時局對策につき協議を遂げ、又二十一日から日銀が非常貸出を斷行する等慌しきものがあつた。然しこの金融恐慌は、バニツクそのもの原因が、大體震災手形關係にあることからして、東京及びその附近に限られてをり、又この恐慌は一時金融界を不安状態に陥ち入らしめたが、一般財界と云ふ大局から觀れば、その打撃は大したものでなく、一應これ落付くものと見られた。

### 臺灣銀行の休業

然るに、震手問題が、第五十二議會で論ぜられてから、臺灣銀行と鈴木商店との關係が明るみへ暴露せられると共に、世論は鈴木對臺灣銀行の問題に對して攻撃の矢を向け始めた。

抑々この震災手形の最大所持銀行は臺灣並に朝鮮の兩特殊銀行で、朝鮮銀行約三千萬圓、臺灣銀行はこれに對して約一億數千萬圓を擁してをり、内、鈴木關係の震災手形は約六千五百萬圓であつたから、法案審議の進むに隨つてその内容が外部へ漏洩するに至つたことは無理からぬ次第である。

當時鈴木商店の直系及び放資會社は全國六十餘社に上り、資本金合計約四億八千餘萬圓、内拂込三億六千餘萬圓の巨額を算してをり、更に夫等會社の總債務額は四億五千萬圓と傳へられ、その鈴木商店及び關係會社の債務は臺銀三億五千萬圓、其他正金、興銀、三井、第一等に一億圓合計四億五千萬圓と云はれてゐた。

斯くの如き實狀から、政府に於ても、臺銀に對し鈴木商店關係との絶縁を迫るに至り、臺銀も遂に三月十七日鈴木商店に對し新規貸出を中止すると、鈴木商店でも、結局金融杜絶から内外市場に於ける一切の新規取引を一時中止するの已むなきに立ち至つた。融資の途杜絶せる鈴木商店整理の困難な



るは言ふまでもない。その配下の直系傍系の諸會社とても所詮資金難に陥ることは想像に難くなく、前述の如く、之等鈴木系の總債務額四億五千萬圓に上るを見て、鈴木關係の融通手形は高利子と云ふ事實と相俟つて、金融市場に廣く散布されてゐたのであるから、各銀行は自行の所持する鈴木系手形に對して不安を抱くと共に、又世間でも、鈴木系手形を多く持つてゐると思はれる銀行に對して同様の不安の眼を以て見ると云ふことになつた。一方臺銀については、鈴木商店との絶縁が傳はるや、鈴木銀の整理難は結局臺銀債權の取立不能となり、従つて臺銀の整理困難となると見て、平常臺銀に對してコールを放出してゐた市中銀行は、急にコール回収、再割手形の買戻を迫るに至り、偶々四月四日臺銀調査會官制が決定し、五日以後該調査會が開かれるや、臺銀整理の困難なる事情が喧傳される一方、市中銀行からの督促は急となり、預金者も徐々に預金引出を行ふに至つた。

斯くて東京地方に限定されてゐた銀行休業は、鈴木の本店が神戸にあるところから、問題の中心は關西方面に移動し、四月八日神戸の鈴木關係の六十五銀行が取付けに依り休業に至るや、住友、三十四等の一流銀行にさへ取付騒ぎが演ぜられた。

政府當局は臺銀問題の事態意外に急なるに驚き、四月十二日首相官邸の協議、翌十三日日銀當局、井上臺銀調査會々長に對し意見聴取、更に緊急臺銀調査會等開催の結果、同十三日の臨時閣議に於て左の如き臺銀救済の緊急勅令案を決定した。

- 一、昭和三年五月末日迄臺銀に對し、日銀より無擔保貸出を行はしめる
- 一、且つこれに依り損失を生ぜし場合は政府は二億圓を限度として補償す

然し乍らこの日銀非常貸出及び損失補償は同十七日の樞密院本會議に於て、憲法條項の要件を具備せずとの理由で否決され、延いては、若槻内閣の總辭職となつたものであるが、當時片岡藏相が樞密院本會議で説明した臺銀の債務狀況は、

政府及び日銀分	約四〇〇、〇〇〇千圓
民間銀行分	約四九〇、〇〇〇千圓
計	約八九〇、〇〇〇千圓

て右のうち十八日以降營業を續けて行くには

十八日に期限到來するもの	約一三、〇〇〇千圓
内地預金	約一五、〇〇〇千圓
計	約二八、〇〇〇千圓

少くとも二千八百萬圓の準備資金を要するとされた。政府案否決の結果臺銀は政府日銀及び市中銀行の援助も絶望となつて、全く他に資金調達途の途を断たれた結果、臺銀では十八日拂曉の重役會に於て、十八日より向ふ三週間帳簿整理を理由として、内地及び海外支店は休業し、臺灣の本支店は臺灣統



治上及び發券銀行たる關係上營業を繼續するに決定した。斯くて島内の本支店以外の内地及び海外支店のみは休業したが、然るに臺灣本店に於ける狀況は、内地よりの入電其の他の情報が原因して取付開始され、一面大藏省はこの前例なき内地海外支店のみの閉鎖を不公平なりとして之を認むるに至らなかつたから、臺銀では、又十八日重役會を開き、臺灣島内の本支店及び出張所も十九日より休業することに一旦決定したが、これに對し、總督府からの勸奨に依り、重役會の決議を無視して臺灣統治の爲依然營業は繼續された。

### 全國銀行の一齊休業

臺銀救済案が、樞密院本會議に於て否決となるや、若槻内閣は最後の臨時閣議に於て「政府の臺銀救済案は、樞密院との間に憲法上の解釋に於て意見の相違を生じたるを以て、責任を負ふて骸骨を乞ふ」ことに決定し、總辭職するに至り、片岡藏相は辭表捧呈後、即ち四月十七日午後八時半より日銀樓上に市來、土方正副總裁其の他民間銀行首腦部の參集を求め、緊急勅令案否決に至る迄の詳細なる報告を爲せる後、政府としては既に何等の策をも講じ難きを以て、宜しく日銀及び各銀行に於て最善の策を施されたしと述べて退出したので、各行代表者は東京銀行集會所及び同手形交換所の各理事に參集を求めた上、善後策に付き協議する處あり、其の結果日銀は翌十八日聲明書を發表して極力資金

の融通を圖り、以て金融界の動搖を未然に防止せんと試みたが、同日特殊銀行たる臺銀休業し、同時にシンジケート銀行の一員たる關西の近江銀行も休業を發表するに至つては一片の聲明書は何の効果もなく、預金者の恐怖は極度に達し、全國到る所玉石の區別なく取付が行はれ、十九日、二十日には滋賀縣、大阪府、廣島縣、岡山縣、山口縣の各地方に於ける小銀行の休業が續出し、二十日組閣の大命は政友會總裁田中義一男に降つたが、その次の日即ち二十一日には、一億圓の資本金を擁し所謂五大銀行の一として、又宮内省の本金庫として東都銀行界の第一線に立ち、僅々數日前迄は他銀行の救済其の他に奔走しつゝあつた十五銀行は、突如整理休業を發表し、世人をして呆然たらしめた。かくて預金者の不安は其の絶頂に達し、遂に大銀行にまで一齊殺到して預金を引出すに至り、コール取引の如きは殆ど杜絶し、爲替、株式及び商品市場も盡く惡化し、事態憂慮に堪えざるものがあつた。この現狀に鑑み、同日午前、東京銀行集會所並に同交換所では聯合理事會を開催協議の結果、田中首相並に高橋藏相に對し左の陳情書を提出すると共に、串田集會所會長及び池田交換所理事長より「我が財界は既に危險に瀕せるを以て、本日夜半迄に適當の措置を採るに非ざれば、遂に崩壞に陥る無きを保せず、故に若し日銀の損失を補償して非常貸出を斷行せんとするならば、其の額は五億圓以上を要す」べき旨を委曲陳情するところあつた。

各地の情報を見るに、今や全國各銀行は一齊に預金の引出に遭ひつゝある現狀にして、之を安定



せしむるは、日銀をして徹底的に是等銀行を救済せしむる外無し、就ては之が唯一の對策は國家をして日銀の損失を補償せしめ、日銀をして徹底的に之を救済せしむる外途無きを以て、政府は速に臨時議會を召集せらるゝか、又は之に等しき最も有效なる施設を即時講ぜられんことを切望す。

右東京銀行集會所及び東京手形交換所理事會の決議に依り具陳致候也

昭和二年四月二十一日

是に呼應して大阪手形交換所も委員長八代則彦氏の名を以て、首相及び藏相に對し「本日は當地及び關西方面、銀行全般に亘りて預金の取付け烈しく、金融界大混亂を來し、商工業者亦危機に瀕せんとす、是非今日中に政府に於て鎮壓非常手段を講ぜられたし、然らざれば到底收拾の道無きに至らん。而して右非常手段とは、東京側の所謂日銀損失補償令なり」との意味を電請すると共に、東京、大阪兩商業會議所を始め、全國取引所聯合會、日本工業俱樂部等の經濟團體も亦政府に對して「此の非常時に際し臨機緊急の處置を採り以て我が財界を未だ崩壊せざるに救済せられたき」旨の陳情をなすに至つた。

他方政府に於ても、朝來各方面の情況を持寄り慎重考慮の結果、二十一日午後十時に至り、政府より徹底的救済の方策を採ることに決し、其の手續に著手せる旨の聲明があつた。爰に於て東京銀行集

會所並に同手形交換所では聯合理事會を開催し、政府の措置を俟つため、二十二、二十三の兩日は臨時休業することに決定し、全国各地の手形交換所に對して電報又は電話を以て其の趣を通告する一方、大藏省に於ても、又その趣を各地方長官に打電するところあり、右兩日は全国各地の銀行は一齊に臨時休業となつた。

### 支拂猶豫令の發布

斯くて政府は、財界に對して徹底的の救済策を講ずるため、四月二十一日夜臨時閣議を開いて協議の末、先づ其の手續きに著手せることを發表すると共に、全國銀行の臨時休業を認容し、且つ尋常一様の手段を以てしては到底實效無く、又勿論臨時議會の召集を俟つ能はずとして、その緊急對策として帝國憲法第八條第一項に依り全國（殖民地を除く）に亘り三週間の支拂猶豫令の緊急勅令案を決定した。翌二十二日樞密院通過と共に我が金融史上は勿論、世界金融史上にも戰時或は變災以外殆ど類例なき支拂猶豫令は、勅令第九十六號を以て即日發布施行せられ、更に二十五日に及んでは勅令第九十八號を以て右支拂猶豫令を臺灣を除き、朝鮮、關東州（南滿洲鐵道附屬地を含む）及び樺太にも施行することとした。なほ緊急對策樹立の爲五月三日より臨時議會を召集することとなつた。

この緊急勅令案は、絶対秘密裡に取運んだものであつた。



即ち勅令案發布に至る迄には、事前の手續として樞密院へ御諮詢になるのであつて、果して一日、二日の間にその運びとなるや否やは疑問であり、若し政府が支拂猶豫令を出すと云ふことが世間に傳つたならば、之は却て、預金者の取付けを誘發する動機を與へるやうな結果になり、若し猶豫令が發布になる迄になほ引續き預金引出が盛んとなつた場合、恐らく全國の銀行の六分通りは休業するの已むなきに至るであらうと見られた程で、この猶豫令の効果の全きを得たるは、全く二日間の銀行休業に依り民心の興奮を緩和することができたからであつた。

この外政府は、四月二十四日の臨時閣議に於て、銀行休業明けの場合に於ける對策を協議し、預金者の不安を一掃するため「財界安定の應急的處置として、支拂猶豫令を公布したるも、其の根本的政策は、臨時議會に一般預金者及び銀行業者を徹底的に救済するの提案を爲し、以て極力財界の安定を圖る方針」なる旨を黒田大藏次官談話の形式を以て發表すると共に、更に同次官をして、同夜ラジオを通じて、支拂猶豫令に關する講演を爲さしめた。又一方預金引出しの幅狭を考慮して、大藏省告示第六十六號並に六十七號を以て、二百圓、五十圓の二種の新兌換券を發行することとなつた。日銀ても政府に呼應して二十四日臨時重役會を開き、

- 一、取引銀行以外の銀行に對しても資金を融通すること
- 二、取引銀行と取引以外の銀行との取扱上の差別を撤廢すること

三、此の際見返擔保の範圍を擴張すること

四、擔保に對する評價及び掛目は之を寛大にすること

等の諸項を決定し、この内容に沿ひたる聲明書を發表し、各銀行間でも夫々休業明けの對策に付き協議するところがあつた。

斯くて二十二、二十三の兩日臨時休業、二十四日の日曜を經、二十五日各銀行は不安の裡に一齊再開した處、支拂猶豫令施行後とて各地共頗る平穩に推移し、其の後四月末迄に一、二地方の小銀行で休業を發表したものがあつたが、所謂昭和二年の金融恐慌なるものは、二十二日の支拂猶豫令の發布を以て終熄したものと見做される。これがため財界待望の金輸出解禁は無期延期されることとなつた。

なほ金融恐慌の結果、休業した銀行は三十六行に上つたが、二年十二月末に於ける整理狀況は左の如くであつた。

銀行名	資本金	預金	摘要
東京渡邊	五、〇〇〇千圓	三七、〇〇五千圓	
あかち貯蓄	五〇〇	五、一七九	解散
中井	五、〇〇〇	四、五八九	整理確立







## 金融恐慌に依る金融界の變化

今回の金融恐慌は、其の規模からして從來の金融に相當の變化を與へたことを指摘しよう。

即ち預金者の自覺に伴つて營業方面に於ける大銀行の發展は益々目覺しきものがある反面、二、三流銀行殊に地方の銀行は各方面に亘つて相當變革を來すべき状態に置かれ、當時に於てすら左の如き現象が看取されつゝあつた。

一、政黨關係の分離——從來地方の銀行は、政黨關係に依りて對立の結果、其の政争甚だしき場合に於ては、これがために休業の已むなきに至るものをさへ生じ、且つ其の營業の如きも政黨關係に依りて支配せらるゝ傾向があつたが、金融恐慌は漸次政治と銀行業務とを判然區別するの必要を自覺せしめ、且つ銀行業者も政治關係より離脱するの傾向を生じた。

一、責任觀念の増大——銀行破綻の場合に於て、經營者は從來、單に法律的責任を負ふに過ぎなかつたものが、恐慌後に於ては、休銀整理の場合、重役は皆に法律的責任のみならず、私財提供をも行ふにあらざれば社會的正義の觀念と相容れざるものありとの自覺を生じたる結果、單に名義のみの重役でなく實質的に銀行業務に寄與し、又其の責任者たらんとする傾向を生じた。

一、支拂準備の充實——預金に對する支拂準備の充實を痛感せるため、各銀行は特に短期資金の運用に留意し、商業金融及びコール等の運用に注意の眼を向けると共に、長期固定貸に就いては、成るべく其の回収に努めたが、地方銀行としてはその本質上ある程度は已むを得ざるものとした。

一、産業資金の缺乏——長期固定貸のため、何れも産業資金の缺乏に苦しんだが當時財界不況の結果、それも多額を要するわけではなかつたので、一旦景氣恢復した場合、直に産業資金を要することを考慮し、豫め大銀行との連絡に腐心するに至つた。

一、地方的合同促進——預金者の自覺と相俟つて、小銀行の預金吸収は漸次困難となるは想像される處であり、これがため地方銀行は、各々地方的に合同を行ひ、以て其の資金の充實を圖ると共に大銀行との對抗を策する傾向となつた。

## 金融諸統計の變化

二年の金融恐慌が空前の出來事であつただけに、以上の外、我が金融市場に與へたる種々なる變化は注目すべきものがあるが、當時の情勢につき、主なる變化を參考の爲めこゝに摘録することとする。



(イ) 通貨流通量(單位千圓)

月	日	兌換券發行高	餘力(△限外發行高)	一般貸出高
三	・一四	一,〇八八,〇三六	九〇,〇九六	二七,九六五
三	・一五	一,〇九五,六三三	△一,五二〇	一三四,九四〇
三	・二二	一,三四二,八八九	△一六三,六九五	五六一,一四七
三	・二三	一,四〇八,七七一	△一三〇,六二七	六三〇,〇六六
四	・二四	一,三六五,一〇三	△一八七,〇六九	六〇五,〇三〇
四	・二七	一,二二三,八三二	△一〇五,六九八	四九三,五〇四
四	・二九	一,一九九,六二九	△三,四九七	四八七,四〇九
四	・三〇	一,二四三,六八五	△六五,五五三	五五,一五九
四	・三一	一,一〇一,一四一	△一四,一〇九	五二六,五五五
四	・三二	一,一〇三,八二九	△二五,六九七	五五〇,〇三二
四	・三三	一,一三三,五七一	△四七,四九九	五八〇,五三四
四	・三六	一,四九七,三三六	△三九,一〇四	△七〇,三七四
四	・三八	一,六六六,三三三	△五〇一,三三四	一,〇〇一,六九一
四	・三九	一,六七九,四六五	△一,一四〇,三五六	一,〇六一,七五五
四	・四〇	二,三二八,四八八	△	一,六六四,五四五

四	・二五	二,六五九,五三三	△	一,二一九,五七五	二,〇九五,九九一
四	・二六	二,四八八,一六五	△	一,二五三,四三〇	一,九三二,三七〇
四	・二七	二,二二六,三三九	△	一,〇三三,六三四	一,六九三,六三四
四	・二八	二,〇〇一,三九九	△	八九八,六七三	一,五五九,二二五
四	・三〇	二,〇三七,〇六〇	△	八五四,三四四	一,四八四,一四四
五	・二	一,九二六,六二〇	△	七三三,九〇五	一,四〇五,五五五
五	・三	一,七九六,一九四	△	六三三,四九九	一,三〇九,一三六
五	・四	一,七七七,二四九	△	五四四,五五五	一,二六〇,〇二六
五	・五	一,六八四,五六七	△	五〇一,八五三	一,一三七,〇〇六
五	・六	一,六五六,八四八	△	四七四,一三四	一,一三七,〇三七
五	・七	一,六三三,五四三	△	四八八,八八八	一,一〇三,一六六
五	・九	一,六一〇,三三四	△	四七六,六〇〇	一,一〇四,〇二〇
五	・〇	一,五九七,六五二	△	四六九,九六六	一,一三三,三四四
五	・一	一,六二九,七二三	△	四四六,九九九	一,一四三,〇〇七
五	・二	一,七四四,四九九	△	五二一,七四四	一,一四七,七四六
五	・三	一,七三三,八六七	△	五四四,一五三	一,一三六,四四四
五	・一四	一,六二九,〇二六	△	四四六,三二一	一,一三〇,一九一



一、四〇、一三三

△ 三〇、五九九

二八

一、一八、〇一九

(ロ) 全國手形交換所(二十ヶ所)組合銀行代理交換銀行の諸勘定

項目	預金		貸出	
	五月末	三月末比較	五月末	三月末比較
定期	二、四六、三三三	△ 三、〇四七	六九、〇三一	△ 六、五七七
當座	七〇、一三五	△ 三、六〇二	二、七二、八五五	△ 二七、七六一
特別	八三三、〇〇四	△ 天、〇七一	四七、七九七	△ 五、五〇九
通知	五二、四九九	△ 二、五三三	九二、七七四	△ 四七、四二八
諸預計	二、七四、六六七	△ 三、二四二	四、八七七、四四六	△ 九〇、一六六
合計	四、八七五、六八〇	△ 四、四、八七九	三、〇三、五九九	△ 二、四八、六五〇
金銀在高			五七、五三三	一四、三二一
コールド貸			三〇三、五九九	△ 二、四八、六五〇
合計			四、八七七、四四六	△ 九〇、一六六
割引			九二、七七四	△ 四七、四二八
貸越			四七、七九七	△ 五、五〇九
手形貸			二、七二、八五五	△ 二七、七六一
證券貸			六九、〇三一	△ 六、五七七

(△印減、單位千圓)

備考 休業銀行を含まず

(ハ) 二月—五月末全國銀行勘定(單位千圓)

▲預金

項目	二月末					三月末					四月末					五月末				
	二月末	三月末	四月末	五月末	比較	二月末	三月末	四月末	五月末	比較	二月末	三月末	四月末	五月末	比較	二月末	三月末	四月末	五月末	比較
特殊銀行	一、三〇、三三八	一、四七、一三五	一、八六、七七七	一、九六、九三三	△ 一〇、五五五	三、〇六〇、一五二	三、二二一、二六九	四、二六九、六三三	三、七六、七五〇	△ 一、九六、九三三	八、九〇、一六二	八、八五、六四四	八、七二、三三八	八、五四、六六一	△ 一、九六、九三三	一、〇六、八六三	一、〇六、八六三	九四七、六九九	九七〇、五五五	△ 二、二八、六九二
普通銀行	八、九〇、一六二	八、八五、六四四	八、七二、三三八	八、五四、六六一	△ 一、九六、九三三	九、二八四、二三元	九、一三二、六六一	九、二一〇、三六六	八、六八、〇六六	△ 一、九六、九三三	三、〇六〇、一五二	三、二二一、二六九	四、二六九、六三三	三、七六、七五〇	△ 一、九六、九三三	三、〇六〇、一五二	三、二二一、二六九	四、二六九、六三三	三、七六、七五〇	△ 一、九六、九三三
貯蓄銀行	一、〇六、八六三	一、〇六、八六三	九四七、六九九	九七〇、五五五	△ 二、二八、六九二	三、〇六〇、一五二	三、二二一、二六九	四、二六九、六三三	三、七六、七五〇	△ 一、九六、九三三	三、〇六〇、一五二	三、二二一、二六九	四、二六九、六三三	三、七六、七五〇	△ 一、九六、九三三	三、〇六〇、一五二	三、二二一、二六九	四、二六九、六三三	三、七六、七五〇	△ 一、九六、九三三
▲貸出																				
特殊銀行																				
普通銀行																				
貯蓄銀行																				

(ニ) 郵便貯金の増加趨勢

項目	二月					三月					四月					五月				
	二月	三月	四月	五月	比較	二月	三月	四月	五月	比較	二月	三月	四月	五月	比較	二月	三月	四月	五月	比較
新規人員(千人)	三〇六	三〇六	三〇六	三〇六		三〇六	三〇六	三〇六	三〇六		三〇六	三〇六	三〇六	三〇六		三〇六	三〇六	三〇六	三〇六	
全拂人員(千人)	二八四	二八四	二八四	二八四		二八四	二八四	二八四	二八四		二八四	二八四	二八四	二八四		二八四	二八四	二八四	二八四	
預入口數(千口)	六、七五	六、七五	六、七五	六、七五		六、七五	六、七五	六、七五	六、七五		六、七五	六、七五	六、七五	六、七五		六、七五	六、七五	六、七五	六、七五	
拂出口數(千口)	一、八七	一、八七	一、八七	一、八七		一、八七	一、八七	一、八七	一、八七		一、八七	一、八七	一、八七	一、八七		一、八七	一、八七	一、八七	一、八七	
預入金額(千圓)	七〇、三八	七〇、三八	七〇、三八	七〇、三八		七〇、三八	七〇、三八	七〇、三八	七〇、三八		七〇、三八	七〇、三八	七〇、三八	七〇、三八		七〇、三八	七〇、三八	七〇、三八	七〇、三八	
拂出金額(千圓)	六八、七五	六八、七五	六八、七五	六八、七五		六八、七五	六八、七五	六八、七五	六八、七五		六八、七五	六八、七五	六八、七五	六八、七五		六八、七五	六八、七五	六八、七五	六八、七五	

第一節 昭和二年の金融恐慌



## 第二節 恐慌後の善後處置

### 臺灣銀行調査會

政府は議會の公約に従つて、官民合同の臺灣銀行調査會を組織することとなり、四月五日勅令第六十九號を以て臺灣銀行調査會官制を公布した。その内容は、大藏大臣の諮問に應じて臺銀の基礎鞏固に關する方策を調査審議するにあつて、同日會長を井上準之助氏とし、貴衆兩院並に關係官廳より夫委員が任命された。

斯くて同日臺灣銀行調査會の第一回會合が行はれ、その後同調査會は引續き屢々開かれたのであるが、種々調査を進めてゐるうち、その調査内容に付き世間に種々なる噂を生ずると共に、調査委員の口から臺銀の前途に對し悲觀說等出るに至つて、臺銀の休業に一層の拍車を加へたことは見逃すことが出来ない。

右調査會は數回に亘り幹事會を開き、臺銀提出の資料に基き調査檢討を重ねた結果、七月十四日の

第三回會合に於て、幹事會の原案通り決定を見るに至つた。右整理案の内容は大要左の如きものであつたが、臺銀爾後の經營に相當示唆する點が多い。

第一、臺灣銀行今後に於ける營業方針は本來の使命たる臺灣に於ける産業資金の供給を以て中心とし、その餘力を以て南支、南洋方面に於ける外國爲替業務に當らしむること。

第二、臺灣銀行の資産に包藏する缺陷に對しては、左の方法に依り之が補填の資源を求むるを適當と認む。即ち資本金を三分の一に減じ、諸積立金を取崩す外、震災手形中同處理委員會の議を経て相當債務額の免除を受くること、及び臺灣融資法に依る融通金中特別融通損失審査會の決定を経て、相當債務額の免除を受くること。

第三、臺灣銀行の將來に於ける經營に關しては、左の改善を加ふるの要ありと認む。即ち内地に於ける貸出金及び内地市場に於けるコールの吸収を爲さざること、且つ店舗の縮少、廢止並に役員、行員の減員等に依り極力經費の節約を圖ること。

第四、臺灣銀行の鈴木商店に對する貸出金回收整理のため、同行内に整理部を設くること、なほ今後同店に對し一切の貸増を爲さざるは勿論なること。

第五、臺灣銀行のコール返済は、其の基礎を鞏固ならしむる所以なるを以て、速に臺灣の金融機關に對する資金融通に關する法律(二年五月第五十六號)に依り融通の上返済を爲さしむること



と、其の他臺灣銀行券の保證發行に付き其の準備を一層堅實ならしむること、竝に臺灣銀行に關する金融制度上の改正に付ては、金融制度調査會の調査に俟つを適當とすること。

この調査會成案は計數上の根據に關する調査報告書と共に、大藏大臣に答申せられ、七月十九日の閣議に於て決定を見、臺銀は直に右案に基き整理に着手することとなつた。

即ち二年前上期中の損失金一千二百七十八萬圓竝に同期末の固定貸銷却一千五百三十八萬餘圓、合計二千八百七十七萬餘圓の純損金を計上し、之が補填のため諸準備金積立金を取崩す一面、資本金三分の二即ち三千萬圓、拂込資本金二千六百二十五萬圓の減資を行ふの方針を以て二年九月の株主總會に減資整理案を提出承認を得、株主配當も遂に無配當（元年下期迄五分配當）と爲すに至つた。なほ同調査會官制は其の後任務終れるを以て四年十二月勅令第三百四十號を以て廢止せられた。

### 震災手形善後處理法決定

震災手形整理に關しては前述の如く、二年九月に期限到來する日銀未決済手形約二億七百萬圓（關係銀行五十一行）の處理に就いては政府は震災手形補償令を九月に打切ると同時に、日銀の損失を明らかにすると共に金融界の困難を未然に防止するため、第五十二議會に善後處置案を提案するに至り、二年三月二十九日法律第十九號を以て震災手形損失補償公債法を、同日法律第二十號を以て震災

手形善後處理法を夫々公布した。その内容は前者にあつては

- 一、補償法の最大限度の一億圓を限り公債を以て公付すること
- に規定し、後者にあつては時の藏相片岡氏の議會提案理由に依れば、
- 一、元年十二月末現在の日銀手持の震災手形約二億七百萬圓を基準に善後處置の方法を講ずる。
- 二、回收不能と認められる日銀の損失に歸するものは公債法の一億圓を交付する。
- 三、回收不能と決定せず、日銀の損失に歸せざる手形は、日銀より割引を受けたる銀行に對し、手形額面以内に於て震手補償法と通じ二億七百萬圓を限度とし、期間十ヶ年以内の條件を以て公債を貸付ける。

- 四、これに依つて銀行は震災手形の代りとして公債擔保の形式に依り日銀より貸出を仰ぐ。
- 五、震災手形債務者は銀行との間に十ヶ年以内の年賦償還貸付契約を締結する。
- 六、貸付國債の利子負擔は貸付金利の收入に依つて補填する。

旨を骨子として成案されてゐる。而して九月三十日期限満了の日に於ける、日銀の再割補償法に依る割引高は約一億八千四百萬圓（關係銀行三十三行）を算し、この損失補償基準に關しては、右法案の附帶決議に依つて、政府は官民聯合の委員會に於て協議せしむることとし、二年六月三日勅令第五百十五號を以て震災手形處理委員會官制を公布、同年七月に至つて左の如く補償基準が決定された。



第一、日銀が震災手形に依り特別融通をなしたる金額中補償をなす金額は左記(イ)の基準により之を決定すると共に、震災手形善後処理法による貸付に關し左記(ロ)の方針を採ること。

一、銀行が破産又は清算中の場合に於ては

(イ) 日銀が割引せる震手中其の擔保たる震手の取立により回収不能と認めらるゝ金額に就き、銀行の全資産に對し他の無擔保債權者と同様の地位に於て債權を行使し、なほ回収すること能はずと認めらるゝ金額を補償すること。

(ロ) 善後処理法の貸付をなさざること。

二、銀行が休業中の場合、又は之に準ずべき場合に於て、其の整理存續(合同を含む)の見込なきものに就きては(イ)補償をなす金額を決定する金額は一の(イ)に同じ

(ロ)善後処理法による貸付をなさざること

三、銀行が休業中の場合、又は之に準ずべき場合に於ての整理存續(合同を含む)の見込あるものに就きては

(イ) 日銀の割引せる震手中其の擔保たる震手の取立により回収不能と認めらるゝ金額を少くとも左記條件により補償すること。右補償金額は該銀行の整理存續上必要なる限度内たるべきこと

るべきこと

(一) 積立金の全額を取崩すこと

(二) 銀行の整理存續を害せざる程度に於て十分なる減資減配をなすこと

(三) 銀行の重役が相當私財の提供をなすこと

(ロ) 善後処理法による貸付をなすこと

四、銀行が營業を繼續中なるも少くとも三の(イ)の(一)及び(二)の整理條件を實行したる場合に於ては

(イ) 日銀の割引させる震手中其の擔保たる震手の取立により回収不能と認めらるゝ金額を補償すること、右補償金額は該銀行の整理存續上必要なる限度内たるべきこと

(ロ) 善後処理法による貸付をなすこと

五、銀行が營業繼續中にして別段整理をなすの要なしと認めらるゝ場合に於ては

(イ) 日銀の割引させる震手の擔保たる震手中回収不能なるものあるも補償をなさざること

(ロ) 善後処理法による貸付をなすこと

第二、政府が日銀に對し補償をなしたる時は、日銀は之に相當する震手及びこれが擔保たる震手を保有し入金ありたる時は政府に納付すること



斯くて、前述の一億八千四百萬圓は後述(恐慌後の整理進捗)の如く處理せらるゝこととなつた。

### 日本銀行特別融通及び損失補償法の公布

政府はこれと共に、五月三日から開催することに決定した臨時議會に日銀補償法案を提出することとなり、これに就いて審議を進め、豫て藏相及び日銀間で折衝中であつた補償限度も略五億圓と決定したので、政黨各派の代表者を招いて諒解を求め、臨時議會に提案し、協賛を経て、日本銀行特別融通及び損失補償法として五月九日公布した。

この關係法規は左の如くてある。

- 一、法律第五十五號日本銀行特別融通及び損失補償法
  - 二、勅令第六十六號特別融通審査會規則
  - 三、省令第十二號特別融通法第一條に依る特別融通に關する規程
- 一の法案が大體の骨子をなすもので、その内容は八ヶ條を以て成り、
- 一、第一條に於て、預金拂戻停止中に非ざる銀行が支拂準備充當の爲日銀に資金融通を求めた時は手形割引の形式を以て特別融通を行ふ。又拂戻停止中の銀行と雖も將來營業繼續の見込あるものについても適用する。然しこの貸付に就ては審査會の協議を要する。

- 一、第二、第三條は、手形割引期間は一年とするが書換の爲の振出手形は十年以内とする。
  - 一、第四、六、七、八條に於て政府補償限度を五億圓以内とし、その補償金は五分利國債で交付し、交付価格は時價を參酌する。
  - 一、第五條に於てこの融通に依り日銀が損失を受けた場合は特別融通損失審査會に於て決定することとする。
  - 二は迅速を要する點から日銀總裁を會長とし、大藏省高等官並に日銀を中心とする委員會構成に就いて規定したものである。
  - 三は手形割引に要する擔保物件、貸付利率、日銀の注意事項並に内地外に對する日銀代行機關について規定されてある。
- 補償額を、五億圓と算定した基礎に就いては、大正十五年末の全國銀行の預金總額約百二十億圓を百億圓と概算し、その五割の引出を受くるものとして、日銀の損失は更にその一割と看做したものであるが、而も之を従來の振合ひから觀ると、その引出は預金總額の三割五分に止るから旁々損失額は前記の額で十分であらうと計算したものであつた。

この外政府は臺灣に於ける銀行を救済するため五月九日法律第五十六號を以て臺灣の金融機關に對する資金融通に關する法律を公布し、期限一ヶ年政府補償二億圓を行ふこととなつたが、これが臺銀



救済の重要法案となつた。

### 偏在資金還元方策

三月十五日以後、金融界の動亂に依つて、巨額の預金が引出され、それが一部少數の有力銀行及び預金部、信託會社等に集中されて、非常なる資金偏在傾向を示現した。右資金偏在状況は、全國銀行に於ては四億二千萬圓の預金が減少し、六大銀行（第一、三井、三菱、安田、川崎第百、住友）に於ては三億九千萬圓の増加となり、約八億圓の預金が引出された譯であつた。右八億圓の行方は六大銀行に於て前記の如く、更に預金部へ一億八千萬圓、殘餘の二億圓が信託會社若くは自己保管となつてゐると推察された。

斯くの如く一流銀行は手許豊富であり、二流銀行は何れも貸出を引締める傾向にあつて、問題は主として大銀行、預金部に集積せる預金を如何にして地方に還元し資金偏在傾向を是正するかにあつた。

當時三土藏相が七月末政友會幹部會に於て説明した資金還元方法は、大體左の如きものであつた。

一、預金部の増加預金二億四千萬圓（二月末より六月末迄）の半額一億二千萬圓を地方債、地方各組合の低利借換及び産業資金に充て、更に第二次方策として、預金部の公債を賣り其の資金を以て地方資金の還元を圖る。

二、昭和二年度に於て公債一億五千萬圓の半額七千五百萬圓が預金部引受豫定であつたのを、金額引受に変更し、郵便局の公債賣出を中止する。

三、勸、農、興の特殊銀行を動員して債券を賣出させ資金の潤澤なる銀行及び預金部に於て之を引受け地方に還元する。

四、地方債の認可條件を緩和し、事業の性質に依り償還確實なるものを許可する。

右の外臺銀整理の結果として一億三千萬圓のコール資金が一流銀行の手許に入るから、これを動員する。又休業銀行に就いてもその再開を急いでゐるから遠からず開業し金融疏通に資することとなる。云々。

右方針に依つて、大藏當局は大體預金部並に各特殊銀行の債券發行機能を活用することに決定し、八月初旬黒田次官より三土藏相の左記聲明書を發表すると共に、地方長官にもこの旨を傳達して實行せしむることとした。

### 三土藏相の聲明

過般金融界の動搖以來、金融圓滑を缺き資金の偏在を來し、其の結果産業の發達に影響する所あるべきを以て、政府は種々の方策を講じこれが匡正に努めつゝあるが、その一方策として我が金融機關全般の活動を希望すると同時に、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行及び日本興業



銀行をして差當り左記要項に依り其の機能を發揮せしめ、一般金融機關と協力して財界の現状に適應せしめんとす。

第一、共通事項

- 一、この際特に産業資金貸付の普及を圖るため、債券を發行して資金を吸収すること
- 一、舊債を整理して負擔を軽減せむとする者に對しては出來得る限り便宜を圖ること
- 一、普通銀行に於ける不動産擔保の貸付に對し借換を奨励すること
- 一、銀行整理のため、重役が私財を提供して資金を調達せんとする場合に於ては出來得る限り便益を圖ること

一、貸出範圍を緩和すると共に、努めて手續を簡易迅速ならしむること

第二、勸銀、農銀及び北拓に關する事項

- 一、必要なる地方に營業所を増設し、益々資金需要者の便宜を圖ること
- 一、農、水産物、工業製品を擔保とする手形の割引又は短期貸付を活用すること
- 一、農、工、漁業者に對する十人連帯の無擔保貸付を活用すること

第三、勸銀のみに關する事項

- 一、農銀に對する代理貸付資金は從來より低利且つ充分に供給すること

第四、農銀のみに關する事項

- 一、現在市制施行地貸付金額が殆ど其の制限の限度に達し、新規貸付の餘裕なきに至れる地方の農工銀行に對し適當に制限を緩和し、資金需要の實情に應ぜしむること

第五、興銀のみに關する事項

- 一、震災以來實行し來れる大工業並に中小工業に對する資金融通を益々擴張するの方針を採らしめ、以て長期工業金融に資すること

休業銀行整理方針

金融恐慌に依る休業銀行の凍結資金は六、七億圓の莫大なる金額に上り、その預金者層は中小商工業者に於て大部分を占めてゐる關係上、これが整理は焦眉の急に迫られ、大藏當局の最も苦心を拂つた點であり、爾後の歴代藏相の重大な關心事でもあつた。

この休業銀行整理の最後案は大體三土藏相、井上日銀總裁、松本銀行局長の三者に依つて六月に於て大體左の如く決定し、直ちに實行に移すこととなつた。

第一、各休業銀行の進捗を圖ること

各休業銀行に對して(一)重役の私財提供(二)債權債務の整理を行はしめ、正確なる「バラ



「シスシート」を作成せしむ

第二、各休業銀行整理の結果獨立して營業を繼續し得る見込みあるものは獨立開業の便を圖り、其の他は一の整理銀行を設立してこれに合併する方法を採ること

第三、休業銀行の預金者救済に就きては（一）預金高三百圓若くは五百圓未滿（銀行に依り區別す）の小口のものに對しては、整理後に於てこれを支拂ひ（二）大口の預金者（その限度は各銀行に依りて之を區別するも大體に於て五百圓以上）に對しては支拂猶豫をなす、これが諒解を得るに就きては各休業銀行の重役をして當らしむる。

#### 整理銀行設立大綱

一、範圍 當局に於ては全國に亘る各休業銀行救済の目的を以て一の整理銀行を設立することを理想とするも、その實際問題として、その範圍は東京、名古屋、大阪、横濱各都市に於ける休業銀行とする。

二、資本金

（イ）公稱資本金五千萬圓

（ロ）拂込資本金一千二百五十萬圓

三、整理銀行の株式は發起人（一流銀行主として「シンジゲート」銀行）に於て引受くることと

し公募せず。

四、整理銀行の經營は銀行業務に多年經驗ある人物をして當らしむ。

なほ大藏省は休業整理に就いて預金者間に協定の見込なきものは和議法を適用し、又預金切捨反對者には年賦償還法を適用方省議で決定するところあつた。この外整理促進策として休業銀行所持の震手に對し休業以後の利子を免除することとした。

#### 昭和銀行の設立

斯くて休業銀行の整理促進策たる新銀行設立は、大藏省並に日銀當局の斡旋に依り急速に具體化し、九月二十一日東京銀行集會所に發起人會を開催するに至つた。發起人は東京より小野（興銀）、佐々木（第一）、池田（三井）、串田（三菱）、結城（安田）、星埜（川崎第百）、生田（豊國）、大阪より一瀬（三十四）、岡橋（住友）、加藤（鴻池）、佐々木（山口）、廣岡（加島）、野村（野村）、藤田（藤田）、名古屋より恒川（名古屋）、渡邊（愛知）、生駒（明治）の十七氏で、小野興銀總裁を創立委員長に推し、新銀行の名稱は昭和銀行、資本金一千萬圓、二十萬株とし、株式の割當は五大銀行（三井、三菱、第一、安田、住友）各貳萬株、發起人は平均約五百株其の他は一般公募に附することに決定、その後十月二十九日創立總會、十二月一日より開業するに至つた。昭和銀行は、



二年十二月	屋張屋銀行	營業中
三年二月	豊國銀行	同
同 三月	中井銀行	休業中
同	中澤銀行	同
同 四月	八十四銀行	同
同	村井銀行	同
同 五月	久喜銀行	同
同	近江銀行	同
同	泰昌銀行	同

この外、三年四月中に若尾、藤田兩行の東京地方の支店を引継ぎ、營業中の銀行は買収合併に依り、休業中の銀行は支拂預金額に相當する資産を引継ぎ、これを特別融通に依つて整理することとなつた。これは休業銀行とは内容的には何等の關係なく、結局休銀の預金者を引継いだものであつた。斯くて同行は恐慌後に於ける銀行合同に先鞭を付けたのであつた。

### 第三節 銀行更新に關する三方策

#### 銀行合同促進策

前述の資金偏在傾向の項に於て述べたるが如く、金融恐慌によつて二三流銀行並に地方小銀行の預金は一流銀行を始め地方有力銀行に移動した結果、是等二三流銀行及び地方小銀行の資産信用状態は著しく悪化し、之をこの儘に放任し置く時は、早晚再び今次の如き不詳事を惹起する動因をなす恐れがあり、これが整理は寧ろ休業銀行の整理問題にも勝る重大問題として、豫て銀行局では弱少銀行の整理淘汰に就き研究を重ねてゐたが、八月六日松本銀行局長の名を以て全國地方長官に通牒を發し、銀行合同の積極的促進斡旋方を依頼するに至つた。其の具體的内容は左の如きものであるが、これが昭和に於ける銀行合同の積極的勸奨の第一歩となつた。

- 一、銀行合同は主として地方的に行ふこと
- 一、各地に銀行検査官を派遣し日銀支店、商業會議所其他重要經濟團體と協議の上促進を圖ること

- 一、合同に際して希望する向には資産評價を爲し合同條件を裁定する
- 一、必要と認むる向に對しては積極的に大藏省より合同を勸告すること
- 一、銀行局より各課長、検査官を全国各地に派遣して銀行合同を勸むること



この外大藏省は、九月二十三日附を以て大藏次官の名に依り各地方長官に對して左記通牒を發し、重ねて銀行合同の實現を促した。

銀行の合同促進方に關しては從來種々御配意相煩し居り近年各地に於て其の實現するもの漸く多きを加へ來れるが最近に於ける財界の不況は一般銀行をして其の經營を困難ならしめ殊に本年春季に於て金融界未曾有の變動ありたる以來は小銀行及基礎の鞏固ならざる銀行に對する世人の信用は俄に低下し預金の移動其の他の事情に依り小銀行の分立せること及不確實なる資産を擁して經營することの不適當なる事を痛切に感知した次第に有之此の機會に於て銀行の合同を一層十分に實現せしむると共に合同の際不良資産の整理を爲さしめ以て金融機關の整備充實を期せしむることは最も緊切の儀と存せらる。政府に於ても此の際一層積極的に之が獎勵幹旋に努むることとし差當り各地に官吏を派遣して親しく其の衝に當らしめ居候次第に付貴官に於ても右趣旨御了知の上貴管下銀行中既に御配慮に依りて合同計畫進行中のものは速に之が實現を期せしむると共に諸種障礙のため進捗せざるものに對しては此の際萬障を排除して實現せしむることとし又全く未著手のものに對しては可成進んで合同に参加せしむることに一層の御盡力相成且其の合同の成立に付十分御幹旋相煩度尙從來動もすれば合同の機會に於て不良資産を十分銷却整理せざりしたため後日に累を貽し合同後の業績思しからざる實例も有之様見受けられ右は甚だ遺憾の儀なるも銀行

の合同は資産の整理にも好機會を與ふるものなるに付合同の際はその形式方法の如何に不拘各參加銀行の資産の整理を嚴重に行はしむる様致度に付右併せて御配慮と共に合同の經過及狀況等時時御報告相成度依命此段及通牒候也

追て本件は日本銀行及日本勸業銀行に對しても盡力方依頼致置候間是等の銀行（最寄同行支店長等）とも御打合の上聯絡を保たるゝを便宜と存候條御了知相成度尙合同の方法其の他に關しては大正十三年七月二十六日藏第九二七五號通牒の趣旨を御參考に供され度申添候

この通牒は從來の大藏省の銀行合同方針に一示唆を與へるものとして注目されるところである。即ち從來政府の勸奨の下に成立せる合同銀行は其の成績は餘り芳しくなく、中には却つて業績の甚だしく不振に陥りしもの等があつて、世上兎角の疑惑を挿むものを生じたのは、大藏當局の見るところとして、合同に際し、當事者が當然爲すべき資産の整理を怠慢にしたことに起因するものであつたので、今後における合同參加銀行の資産整理を特に嚴重に要請したことであつた。この通牒の結果昭和二、三兩年に涉り合同參加銀行數は實に五百六十七行に上り、これに依つて三百五十七行の多數銀行が消滅を見たのである。

### 銀行減配態憑



銀行合同の促進と共に、銀行内容の改善策として大藏當局は基礎充實を目的に銀行利益配當の減配を勸奨することとし、六月三日附を以て大藏次官の名の下に銀行の減配に關し各地方長官に對し左の通牒を發した。

本年三月以來東京大阪其の他の地方に於て銀行の破綻續出し次て四月に至り一般的預金取付を惹起し財界は竟に混亂の極に陥りたるも緊急機宜の處置に依り幸に其の安定を見たる次第に候處、今回の事變に鑑み銀行當局者は銀行の基礎を鞏固ならしむるため、その經營上幾多改善の要あるを認め之が爲先づ利益配當の減少を實行せんとするの機運漸次顯著なるに至り候、是に於て日本銀行及び有力なる銀行に於て率先唱導して専ら盡力を爲す趣なるに付貴官に於ても同銀行の本店又は支店と篤と御打合せの上銀行當局者をして進んで本計畫に参加せしむる様御盡力相成度依命此段及通牒候也

追て普通銀行及貯蓄銀行の外信託會社無盡業者及有價證券割賦販賣業者等にして貴管内に本店を有するものに對しても右銀行同様減配方御配意相煩度御配意の成行及利益配當方針等決定せるものに付ては時々御報告相成度、なほ日本銀行支店の事務管掌區域御參考の爲別紙及御送候也

斯くて大藏當局は其の第一歩として特殊銀行並に有力銀行に減配を懲應するに至つたが、殆ど不賛

成のものなく、その率は表面各銀行の任意としたけれども、大體の方針は一割以上のもの二分減、一割以下のものは一分減に決定し、二年上半期配當より實行された。

この大藏省の減配懲應は從來より屢々行はれたに拘らず、成績十分ならざる感があつたが、今回は環境の變化とは云へ特殊銀行を始めとし一齊に減配の舉に出た。即ち二年上期末全國銀行數千四百七十九行中減配を斷行せるもの、普通銀行千八十八行、貯蓄銀行八十四行で、この内特殊銀行並に五大銀行の減配率は左の如くて、實によくこの主旨は徹底したものであつた。

特殊銀行

	二年 上期	元年 下期
日 銀	一、〇〇割	一、二〇割
正 金	一、〇〇	一、二〇
勸 銀	四五	五〇
北 拓	九〇	一、〇〇
臺 銀	—	五〇
興 銀	六〇	八〇
鮮 銀	四〇	五〇



殖産

八〇

九〇

五〇

農銀二十六行中

減配十三行

据置十三行

五大銀行

第 一	一、一〇	一、三〇
三 井	一、〇〇	一、二〇
三 菱	九〇	一、〇〇
安 田	一、〇〇	一、二〇
住 友	九〇	一、〇〇

なほ全國銀行に就いて見れば左の如くてある。

減配率	一分未満	一分以上	二分以上	三分以上	四分以上	合 計
銀行 數	一五六行	六六五行	一八三行	五二行	一〇八行	一、一六四行

銀行營業改善

當時全國銀行數は二年末千四百二十七行、支店出張所六千四十三ヶ所を算してゐた關係上、偶々不當なる競争を行ひ、これが延ては銀行の基礎を薄弱ならしめる主因を爲してをり、大藏省は預金協定

を勵行せしめると共に行政的手段として支店、出張所の新設は當分認可せざることに決定したことも注目すべきである。一方、銀行の營業改善に就いては自主に任せてゐたが、銀行自身も恐慌に依つて自覺するところあり、全國各地方に於てそれ／＼改善策が實行されつゝあつたが、其の代表的な東西銀行間の申合せは左の如く三年一月一日より實行を見た。

- 一、同業者の貸付金は擔保附とする
- 一、コールは成るべく擔保附とし翌日物、無條件又は七日以内据置のものとする
- 一、再割引又は仲介に依る單名手形の流通は濫用の弊を生じ易きを以て支拂人直接申込に依るものの外はその割引を避けること
- 一、預金勧誘の目的を以て行員を外部に派遣せざること
- 一、得意先に對し年始、中元、歳暮等の恒例的進物を廢止すること但手帳又は之に類するものは例外とする

この外、各種預金の利息計算其他取扱方法並に爲替取引に對する改善に付いても申合せがあつた。又當時普通銀行並に貯蓄銀行は業務の性質上別個に考慮すべき點が多かつたのに鑑み、貯蓄銀行は別に組合を組織することとなり、東京に於ては安田貯蓄、東京貯蓄、川崎貯蓄、東京貯蓄の四行を以て組織された。



#### 第四節 新銀行法の公布

##### 金融制度調査會

新銀行法は金融制度調査會の手に依つて立案されたものであり、同調査會は昭和の銀行史上特筆すべき重要性を帯びてゐるから一應これを知つて置く必要がある。

大正末期から昭和初代にかけて金解禁問題と契機として、金融機關の整備確立は官民の關心事となり、夙に政府に於ても根本的金融機關の改善策立案に就き金融制度調査會を設置して具體案を協議せしめることとなつたが、その設置理由につき政府發表に依れば、

我が國金融制度の體系は各種の金融機關併立し、一見頗る整備せるが如き觀あり。然れども是等金融機關たるや其の必要ある毎に隨時設置せられたるもの多く、爾來多分の改善を加へられたりと雖も其の間の聯絡統制必ずしも整へりと云ふことを得ず。

而して各機關に就いてこれを見るも、未だ其の機能を十分に發揮せざるのみならず、我が國民經濟の進運に副はざるもの尠からず、加之往々にして其の經營放漫に流れ、延いて財界に種々の弊害を醸成するものあるに至れり。これ金融制度の整備改善を以て、今日に於て最も急務と爲す

所以なり。

然るに金融制度の整備改善の業たる寔に複雑至難にして、其の方策如何は我が國財政經濟に及ぼす影響頗る大なるものあり故に宜しく各種金融の制度竝に實際に就き周到なる調査を遂げ、其の缺陷及び弊害の存する所を明らかにし、以て法制の改廢は固より、諸般の施設に亘り之が整備改善に關する對策を講ぜざるべからず。

と云ふにあつて、元年九月竝に十一月に亘り調査會規則及び議事規則が發表され、委員の顔觸れも決定し、調査會が組織せられた。

而して調査會本會議に附議して決定した調査事項を要約すれば大體左の十二件となる。

- 第一、日銀の中央銀行としての機能を完全に發揮せしむる方策如何
- 第二、普通銀行改善の方策如何
- 第三、手形割引市場及び證券市場整備改善の方策如何
- 第四、工業金融整備改善の方策如何
- 第五、農業金融整備改善の方策如何
- 第六、不動産金融整備改善の方策如何
- 第七、貿易金融整備改善の方策如何



第八、拓殖金融整備改善の方策如何

第九、特殊産業に對する金融を圓滑ならしむるの方策如何

第十、貯蓄銀行並に信託會社改善の方策如何

第十一、庶民金融機關充實の方策如何

第十二、金融制度の改善に依る金利低下の方策如何

右の調査事項は何れも密接な關係を有してゐるが、比較的分離調査の容易なもの、又は緊急を要する事項より順次金融制度調査準備委員會に調査立案せしめ、調査會本會議に附議することとした。斯くて逸早く後述の普通銀行法が立法化するに至つた。この外、庶民金融機關改善策として相互金庫法、公益質屋法の二法策が審議されたが、内公益質屋法だけ議會に提案され、二年三月法律第三十五號を以て公布、現在では厚生省の所管となつてゐる。

なほ又松本脩局長時代に於て、同調査會は日本銀行制度並に特殊銀行改善案として左の件を協議したことは特に注目すべきである。

- 一、正金銀行に就いては輸出貿易を促進する爲、貿易業者に對し低利長期の爲替資金を供給せしむること
- 一、勸業銀行に就いては(イ)同行をして農業及び不動産金融の中心機關たらしむる爲、現に同

一系統の金融機關たる農工銀行を強制合併する件(ロ)農業金融及び工業金融の系統を整ふる爲、同行の業務中工場財團の貸付等工業金融に屬するものは之を禁止し興業銀行に移すの可否(ハ)北海道拓殖銀行合併の可否

- 一、興業銀行に就いては同行をして工業金融の中心的機關たらしむる爲、資源を債券發行にのみ求めしめず資金の需用に應じ資本金を漸増して其の供給を圖らしむること
- 一、臺灣銀行並に朝鮮銀行に就いては兌換券の統一を行ふの可否
- 一、滿洲に於ては中心的金融機關缺如せる爲、開發上多大の障礙を爲し居れるを以て之を補はん爲特殊機關の新設

當時調査會立案に拘るものに兌換銀行券整理法があり、これは二年三月法律第四十六號を以て立法化されたが、この整理法に依つて前述の震災手形政府補償額一億圓を捻出せんとしたことは注目すべき事柄であらう。

即ち日銀が兌換券條例に依つて始めて兌換銀行券を發行したのは明治十八年五月で、爾來四十有餘年の長年月を経、其の間に發行された兌換銀行券の様式は十七種の多きに上り、新券發行高の累計は五十七億圓に達し、この期間に於て大震災、其の外年々各地に發生せる天災事故、又個人の亡失紛失等によつて滅失せる兌換銀行券は相當巨額に達してゐるものと思はれ、一應これを整理し、餘剰金を



以て補償金を捻出せんとするものであつた。

### 新銀行法の公布

普通銀行制度の改善は金融界乃至は經濟界全般に亘つての大問題であり、殊にこれが立案に就いては出來得る限り實狀に即しなればならない點に鑑み、政府は豫て震災前から續行して來た銀行検査に基き、先づ銀行の經營又は業務上、失當若くは違法に屬し又は改善を要すと認められる諸點を綜合して、改正案作成上の基本的資料に供する傍ら當業者に對してその要綱を指示し、豫め銀行各自をして自發的に改善を勵行せしめるため、曩に大正十三年八月中、大藏當局より當業者に對して「銀行業務改善に關する諭達」を發した。

これは政府としては銀行法規の改正を實行するに際し、内容の適正ならざる業者をして徒に狼狽せしめ、延いて經濟界に悪影響を及ぼすことなからしめるやう、豫めこれに備へて指示事項を擧げて諭達を發したものであつた。又この改正法規に就いては實際上の經驗に俟つ所緊切なるものがあつたから、政府は大正十五年六月中、先づその準備委員會を設置し、特に民間業者の中から臨時委員を選任して參畫せしめ、七月中旬以降これが立案に當り、その成案を得て十一月の金融制度調査會に附議し原案通り可決を見たのである。

右法案は、二年の第五十二議會に提案され、衆議院に於て、その中の經過的規定に關し、一、二の小修正を受けた外は、總べて原案通りに成立し、二年三月法律第二十一號を以て銀行法が公布せられ、翌三年一月一日より施行せられることとなつたが、同法に依る資本金の制限については五ヶ年の猶豫期限が附された。なほ施行細則並に其の他附隨法規は左の如く二年十一月夫々公布を見た。

#### 一、銀行法施行細則 省令第三十一號

一、銀行法第三條第一項但書の規定に依る地域指定の件 勅令第三百二十七號

一、銀行法第三十二條の規定に依る銀行の特例に關する件 勅令第三百二十八號

一、銀行法第四十一條第二項の規定に依る人口一萬未滿の地を定むるの件 勅令第三百二十九號

この銀行法は附則をも通じて四十七ヶ條に亘り、舊銀行條例が僅かに十六ヶ條に過ぎなかつたことを思へば、今次の改正が普通銀行法規全般に亘り、根本的にその面目を一新したものであつて、それだけ銀行監督が強化されることになつたのであるが、先づ重要な改正點と施行細則上の要點を摘記すれば大體左の如くである。

一、舊條例に於ては「公に開きたる店舗に於て營業として證券の割引を爲し又は爲替事業を爲し又は諸預り及貸付を併せ爲す者は何等の名稱を用ふるに拘らず總て銀行とす」と規定せられてゐたのを、新法に於ては(一)「預金の受入と金錢の貸付又は手形の割引とを併せ爲すこと」



(二)「爲替取引を爲すこと」この二項目の何れか一方又は双方の「業務を營む者は之を銀行とする」外、「營業として預金の受入を爲す者は之を銀行と見做す」と云ふ新規定が追加せられた。

一、「銀行は其の商號中に銀行なる文字を用ふべし」、従つて「銀行に非ざるものは其の商號中に銀行たることを示すべき文字を用ふることを得ず」と云ふ制限が設けられた。

一、舊條例に於ては「銀行の事業を營まんとする者は(中略)大藏大臣の認可を受くべし」とあつたのを、新法に於ては「銀行業は主務大臣の免許を受くるに非ざれば之を營むことを得ず」と改められた。

一、舊條例に於ては銀行業と他業との兼營に關しては何等の規定をも存しなかつたが、新法に於ては「銀行は擔保附社債信託法に依り擔保附社債に關する信託業を營み又は保護預り其の他の銀行業に附隨する業務を營むの外他の業務を營むことを得ず」と云ふ規定が設けられた。

一、舊條例に於ては銀行の資本金額の最少限度、營業主體の組織に就いて規定する所がなかつたのを——尤も双方共に大藏省内規として相當の制限がある——新法に於ては「銀行業は資本金百萬圓以上の株式會社に非ざれば之を營むことを得ず」と限定せられた。但しこれには例外があつて「勅令を以て指定する地域——現在では東京及び大阪兩市——に本

店又は支店を有する銀行の資本金は二百萬圓を下ることを得ず」となつた。

一、舊條例に於ては銀行の役員の兼職に就いて何等規定する所がなかつたのを、新法に於ては「銀行の常務に従事する取締役又は支配人が他の會社の常務に従事せんとするときは主務大臣の認可を受くべし」と云ふ規定が設けられた。

一、舊條例に於ては、銀行の積立金に關しては商法の會社の積立金に關する規定の適用を受ける外、特に規定する所はなかつたが、新法に於ては「銀行は資本の總額に達する迄は利益を配當する毎に準備金として其の利益の十分の一以上を積立つべし」と云ふ規定が設けられた。

一、舊條例に於ては銀行の營業期に就ては何等規定する所がなかつたが、新法に於てはそれを「一月より六月迄及び七月より十二月迄」と統一せられた。

一、新法に於て新に「銀行の監査役は銀行の業務及び財産の狀況に關する調査の結果を記載したる監査書を毎營業年度二回作成して之を本店に備へ置くべし」と云ふ規定が設けられた。

一、舊條例の下にあつても所謂臨時休業に就いては届出を爲すことになつてゐたが、新法に於ては「銀行が預金の拂戻を停止するときは直に其の旨を公告し事由を具して主務大臣に届出づべし」と云ふ規定が設けられた。

一、新法に於て新に銀行業の免許取消、廢止、銀行の解散並に之に伴ふ清算、破産又は強制和議



外國銀行の本支店その他營業所に關する規定等が設けられた。

一、舊條例に於ては「大藏大臣の認可を受けずして銀行業を営みたるときは其の營業主を千圓以下の罰金に處す」とあつたのを、新法に於ては「主務大臣の免許を受けずして銀行業を営みたるものは五千圓以下の罰金に處す」ることに改めた外、「業務報告書又は監査書の不實の記載、虚偽の公告其の他の方法に依り官廳又は公衆を欺罔したるとき」や、「検査に際し帳簿書類の隠蔽、不實の申立其の他の方法に依り検査を妨げたるとき」は、「取締役、監査役、支配人、清算人又は本法施行外に本店を有する銀行の本法施行地に於ける代表者くを一年以下の懲役若は禁錮又は五千圓以下の罰金に處す」る等の規定が設けられた。

以上は改正の主なる點だけであるが、その中でも特に注意を要する點に就いて二、三解説しよう。先づ銀行の實體に關する規定の中で、従前と著しく趣を異にするに認められるのは、舊條例に於ては單に「證券の割引を爲す」だけでも「銀行」であり得たから、例へばビル・ブローカーの如きも銀行と見做されてゐたが、それが新法に於ては「預金の受入と金銭の貸付又は手形の割引とを併せ爲す」ものでなくてはならないと云ふことになつて、詰り「爲替取引」以外の業務は何れも「預金の受入」と不可分の關係に於て營まれることを要する。殊に舊條例に所謂「證券の割引」は意味が不明確であつたのを、新法に於ては「手形の割引」と改めて、これを「金銭の貸出」と對立せしめたのは、

これに依つて始めて「銀行」の實體が明確になつたものと云つて宜からう。それに就いて唯一つ、新法に於て特異の規定と認められるのは「營業として預金の受入を爲すもの」である。これは元來「銀行」ではなく、従つて銀行と「認める」のではない。この種の機關は取締上「銀行」に對すると同様の取扱をする必要がある場合が少くないので、その取締上これを銀行と「見做す」と云ふ意味に外ならなう。

次に重要なことは銀行の役員の兼職に關する點である。即ちこの規定の中にある「常務に従事する」云々は必ずしも所謂常務取締役のみを指すのではなく、苟くも「常務に従事する取締役」である限り、頭取以下何れの取締役でも總べてこれに該當する。このことは兼職せんとする會社の「常務」に就いても同様であり、又その「會社」は所謂事業會社だけでなく、商法上の「會社」は總べて網羅せられてゐるから、他の銀行又は貯蓄銀行の如きも、勿論その中に含まれる譯である。

扱て、これらの諸規定を通觀しただけでも、銀行に對する取締若くは監督が舊條例に比して遙に嚴重となつたことは明らかである。而もその取締や監督を強化するに就いては施行細則に於て嚴密なる規定を設け、營業の内容を一目瞭然たらしめるやうな仕組になつてゐる。以下更にその施行細則に就いて特に主要なる點を擧げて見よう。

先づ諸貸付金の「當期に於ける増減」に於て、手形貸付、證書貸付、當座貸越の外にコール・ロー



ンを別欄に掲記することは、從來も實行せられてゐたが、新にそのコールに關し「翌日物、無條件又は七日以内据置の短期融通金を記載す」ることになつた。又監査書に於て、貸出先に關して新に重要な諸規定が設けられた。即ち「新舊役員及び此等の關係先に對する債權調」に於て「取締役、監査役支配人」及び「此等の(中略)家族、親族、使用人又は關係會社」に對する債權を明記し、「大口債權調」に於て「同一債務者及び之と同一利害關係を有する者に對する債權合計額が拂込資本金及び準備金合計額の十分の一を超ゆるもの」は總べてこれを記載し、「大口の所有又は擔保株式調」に於て「銀行の所有し若くは債權の擔保として受入れたる一會社の株式が當該會社の總株式の五分の一を超ゆるもの會社名及び株數」を明示し、「不良と認むる債權調」に於て「各債權に付其の期限の到來せざると否とに拘らず債務者、保證人の資産、信用、擔保物の現狀を斟酌し嚴重に査定して回収不能見込又は回收困難額を記載せねばならないこととなつてゐる。

以上の改正は、當時の大藏當局者が議會に於て聲明した如く、これに依つて積極的に銀行の發達を促進し又は進んでその活動を助長する趣旨に出たものではなく、寧ろ主として銀行業に於ける從來の缺點を除去し、又は幾多の弊害を矯正せんとする方針に歸するものであつた。従つて立法當時、即ち金融恐慌前に於ては、當業者又は世間からも多少それが嚴に失する點もあるやうに觀られてゐたのであつたが、金融恐慌の經緯に顧みると、さうした豫想が全く杞憂に過ぎなかつたことが明らかにな

ると共に、尙ほ多少の改正を要すと認められるやうな點も現れてきたので、施行細則に於ては、立法當時に於て豫想しなかつたやうな嚴重な規定を設けて、金融恐慌から得た幾多の經驗を織込むに至つたので、銀行法公布から遅れること半歳餘を経て施行細則公布となつたのである。

右の次第で、この改正は普通銀行をして殆ど面目を一新せしむるの繩墨となつたばかりでなく、汎く金融界を整備する上に劃期的な効果を齎し、我經濟史上に特筆せらるべき事蹟であつたと認められる。

### 貯蓄銀行法

序てながら現行貯蓄銀行法に就いて一言しよう。

大正十年四月公布、翌十一年一月一日より施行せられた貯蓄銀行法により貯蓄銀行は、質的に量的に一轉機を劃することとなつた。

即ち舊法貯蓄銀行條例に於て定められたる貯蓄銀行業務の範圍は明瞭を缺き、普通銀行の業務との分野を判然區別することが困難であつて、實際上貯蓄銀行にして普通銀行の預金吸收機關として利用され來つたものも少くない狀況であつた。然るに新法施行後、貯蓄銀行は制度上普通銀行と全く獨立した組織として存在することとなり、零碎なる資金を安全且つ確實に保管利殖する本來の目的を達成



することとなつた。

改正點の主なるものは、貯蓄銀行の業務に就いては据置貯金及び定期積金に關する規定はその儘とし、其の他を「複利の方法に依り預金を受入ること」及び「一回十圓未滿（従前は五圓未滿）の金額を預金として受入ること」と改め、右以外に貯蓄銀行として營むことを得る業務の種類を、定期預り金、保護預り、債權の取立、公共團體又は産業組合よりの要求拂預り金に限定し、且つこれが支拂保證の義務として、保護預りを除く以外の諸預り金に就き、その「金額の三分の一以上の金額に相當する國債を供託すべし」、但し供託金額中、受入金額の五分の一を超ゆる金額に付ては地方債、社債又は株式を以てこれに代へてもよいこととなつてゐる。又資金の運用に關しては、

- 一、國債、地方債、社債又は株式の應募、引受又は買入
- 二、國債その他右の各種有價證券を質とする貸付
- 三、不動産を抵當とする貸付
- 四、預金者に對しその預金額を限度とする貸付
- 五、銀行への預け金又は郵便貯金
- 六、銀行引受手形の買入

等に限定せられた。斯く業務に關する制限を明らかにすると共に監督又は取締等に關する規定や罰則

などを嚴重にし、貯蓄銀行の設立に對する主務大臣の「認可」を「免許」に改めると共に、その資本金は五十萬圓以上、組織は株式會社たるを要することとした外、貯蓄銀行が「其の財産を以て債務を辨済すること能はざるに至りたるときは」、前述の各種の預金契約に基く「銀行の債務に付各取締役は連帶して其の責に任ず」るばかりでなく、この責任は「取締役の退任登記後二年間仍存續す」るものとした等、幾多の重要な改正が施されたが、その代り一方では、貯蓄銀行に對し營業收益税額の二分の一を免除する等の特典が與へられた。

斯くて、本法は、大正十一年一月一日から施行せられたが、右の如く貯蓄銀行に對する諸制規を嚴重ならしめると共に、大藏省は銳意その整理合同を促進するの方針を採つた結果、解散や貯蓄銀行同士又は普通銀行の合併に因つて、施行以來貯蓄銀行數は次第に減少し、施行直前の大正十年末には全國で六百三十六行を算したが、元年末には百二十四行と云ふ激減振りを示したものであつた。

この貯蓄銀行法は、大正十年十二月勅令第四百五十五號に依つて、臺灣及び樺太にも施行せられた。又新銀行法の公布に依つて二年三月法律第二十四號で貯蓄銀行法並に同年十一月省令第三十二號を以て同施行細則中の一部の改正を見た。



### 銀行検査課の設置

従来銀行検査に關しては、大藏省銀行局の専任事務官（奏任）がその衝に當つてゐたが、銀行法施行竝に金融恐慌の経験に基いて銀行検査を一層嚴ならしむるの必要を認め、二年度豫算中に金融機關検査官増員に要する經費として二十八萬一千圓を要求し、通過と共に二年五月勅令第百二十二號を以て官制の改正を行ひ、大藏省銀行局に検査課を新設し、専任銀行検査官十八人（勅任一人、奏任十七人）を置くに至り、初代検査課長に關場偵次氏（後の大久保銀行局長）の就任を見た。斯くて専任銀行検査官の下に六十名の検査官補（判任）が任命され、金融界の不安人氣薄らぐを待つて新制度による實地及び書面の兩検査に着手するに至つたが、當時決定せる新検査制度の要綱は左の如きものであつた。

- 一、全國一千五百行の普通銀行を約三百行を以て一單位とし東北、關東、近畿、山陽、西部の五地方に區別す。
- 二、一地方を三班に區分し一班に一検査官を置く。
- 三、別に検査課長の下に總務部を置き検査官を屬せしむ。
- 四、各種金融機關は右の地方區分に從つて検査を行ふも左の五種は例外とす。
  - イ、資本金五十萬圓乃至は二百萬圓に満たざるがため新銀行法によつて五ヶ年後に消滅すべき

普通銀行は合併勸奨其の他特殊の政策を加味すべきが故に是が検査は總務部に於て直接行ふ。

- ロ、日銀、正金、興銀、勸銀、鮮銀、臺銀の特殊銀行も地方的區分より除外す。
- ハ、信託會社に就いては普通銀行が整理を眼目とすべきに反し助長を計るべきものなるを以て是亦別個に検査を行ふ。
- ニ、無盡業者、債券割賦販賣業者、市街地信用組合は直接検査せず、地方官廳を通じて之を行ふ。但し時々實地模範検査を行ひて之に倣はしむ。
- 五、新に銀行臺帳なるものを作り常に各種の各銀行個別に質問を發して其の銀行業態、重役の人格等に至る迄微細に之を記入し、善惡、信用程度の大小により等級を設けて検査官をして責任を以て擔當地方銀行の現状を記載せしむ。
- 六、検査は銀行臺帳に基き一般検査の外に不良銀行に對する特殊検査を行ひ効果を多からしむ。而して検査の基準として左の内規四種を制定するところあつた。

#### 一、普通銀行検査規程

#### 一、農工銀行検査規程

#### 一、市街地信用組合検査規程



一、無盡業者検査規程

斯くてこの検査制度の勵行と共に銀行の整理合同に一層拍車を加へられ、銀行法に依る資本金充實の最低發動期限たる八年一月迄に相當數の銀行が消滅を見るに至つたのである。

當時の無資格銀行

新銀行法は愈々昭和三年一月一日より施行細則と共に施行を見ることになつたが、これに依つて前述の如く、資本金額の最少限度が設けられ、通例銀行業は資本金百萬圓以上の株式會社であることを要し、特例に依つて東京市及び大阪市に本店又は支店を有するものは二百萬圓、人口一萬以下の地に本店を有するものは五十萬圓でも差支へないこととなつた。

當時この新銀行法に抵觸する所謂無資格銀行は第五十二議會に於ける政府の説明に依れば左の如く八百九行の多數に上つてゐたのであつた。

- 一、二百萬圓に増資すべき銀行（東京市及び大阪市に本店又は支店を有するもの） 八〇行
- （イ） 東京市及び大阪市に本店を有するもの 六六行
- （ロ） 東京市及び大阪市に支店を有するもの 一四行
- 二、百萬圓に増資すべき銀行（人口一萬以上の地に本店を有するもの） 二四九行

三、五十萬圓に増資すべき銀行（人口一萬以下の地に本店を有するもの） 四八〇行  
この外、新銀行法に依れば、普通銀行の他業兼營は、同法施行後三年間の猶豫期限を以て禁止せらるゝこととなつてゐるが、大藏省の發表する處に據れば、他業兼營銀行數は二十七行で資本金總額二千八百六十五萬七千圓、その内銀行業資本金二千四百四十四萬七千圓、他業資本金四百二十一萬圓にして銀行名は左の如くてある。

地方別	商	他業	科目
北海道	壽都銀行	倉庫業	
東京	早川ビル、ブローカー銀行	代辨業	
同	柳田ビル、ブローカー銀行	金融仲介業	
大阪	藤本ビル、ブローカー銀行	代辨業	
兵庫	廣銀行	倉庫業	
同	姫路倉庫銀行	同	
新潟	北越倉庫銀行	同	
同	北越商業銀行	同	
同	新井銀行	倉庫業及貨物運送業	

第四節 新銀行法の公布



千	葉	東葛銀行	倉庫業及委託販賣業
栃	木	栃木倉庫銀行	倉庫業
愛	知	日光川倉庫銀行	倉庫業及委託販賣業
同		岡崎倉庫株式會社	倉庫業委託販賣業及運送業
同	靜	岡崎米穀肥料委託株式會社	同
同		駿豆肥料株式會社	倉庫業、米穀肥料蠶絲委託販賣業
同		三十五銀行	倉庫業
滋	賀	蒲生銀行	倉庫業及運送業
岐	阜	吉田倉庫銀行	貨物保管業
長	野	庚子銀行	倉庫業
同		東北銀行	同
宮	城	青葉銀行	同
島	根	松江銀行	同
同		山陽商業銀行	同
和	歌	和歌山倉庫銀行	同

徳島 二木銀行  
 佐賀 地所株式會社  
 同 八坂銀行  
 倉庫業  
 有價證券買賣業及代辦業  
 肥料、雜穀、地所買賣業

この無資格銀行八百九行並に他業兼業銀行二十七行は夫々五年乃至三年の猶豫期間内に法定の資格を獲得しなければ銀行として消滅する運命にあつたが、大藏省の方針としては、新銀行法は一面銀行整理淘汰を目的としてゐる所から成るべく單獨増資は許さず、合同に依つてその目的を達成するやうにと慫慂し、他業兼業銀行に至つては廢止させる方針を堅持し、他業兼業に於て一、二の銀行を残し銀行業務を廢止させるに至つたことは整理淘汰強硬の一端を覗ふことが出来る。

なほ大藏省では新銀行法並に施行細則が劃期的なものであり、法文も相當複雑多岐に渉る關係上、各種各様の疑義が生ずることを慮り、その都度大藏省で應答することは煩に耐へざるところであり、地方長官の手許でこれを解決せしむる方針で豫て審議中であつたが、二年十二月二十日成文を得ると共に全國地方長官に通牒を發するところあつたが、その成文は左の五ヶ條からなり、又銀行法の施行に就き三土藏相から一般に聲明するところあつた。

- 一、銀行法及施行細則に關する事項
- 二、業務報告書に關する事項



- (イ) 營業報告書
- (ロ) 貸借對照表
- (ハ) 損益計算書
- (ニ) 支拂準備に關する明細書
- 三、監査書に關する事項
- 四、銀行法施行細則上過渡の場合に關する事項
- 五、貯蓄銀行に關するもの

## 第二章 保倉熊三郎局長時代

(在任三年一月—五年三月)

次の保倉局長時代は、三年一月一日より施行された新銀行法が劃期的なものだけに、その主旨内容の普及徹底に苦心を要したのと、金融恐慌に依つて生じた休業銀行の整理方策の樹立及びその後始末に盡力した點に注目される。

### 第一節 新銀行法の施行

#### 全國銀行主任官會議

大藏省ではさきに地方長官宛に新銀行法の疑點解釋に就き通牒を發したが、なほ未だ新銀行法の改正點に就いて種々誤解を招く法文上の疑點多きに鑑み、これが一般の誤解を除き且つ各地方銀行主任官に改正點の精神を徹底せしめ、其の運用宜しきを得さしむるため、三年三月十二日より三日間全國銀行主任官會議を開催した。



大藏省より黒田次官、保倉銀行局長並に銀行局關係高等官及び各府縣銀行主任官五十餘名出席、銀行局長より一場の挨拶があり、次いで加藤普通銀行課長より新銀行法の疑點解釋に就き説明を行つたが、當日井上日銀總裁も臨席して昨春の金融恐慌の情勢より一般銀行が休業の止むなきに至つた経過殊に銀行の情實貸、一口に對する大口貸出等が如何に惡結果を及ぼすかに就いて講演を行ひ、新法に關する各主任官の質問に對して應答し、その結果やうやく當局の意のあるところを體して歸任するに至つたが、なほ銀行家自身大藏省を訪問して疑點を訊すと共に銀行存續に關して請願するもの銀行局に殺倒する有様であつた。又大藏省ではこの外全國の手形交換所に對して銀行局の高等官を派遣して新銀行法規の内容を説明するところあつた。

### 銀行土曜半休認可

この新銀行法に關聯して銀行土曜日半休の問題が起きた。

即ち新銀行法規定の銀行營業時間は、午前九時より午後三時三十分であつて、全國手形交換所は豫て行員健康増進の意味より大藏省に對し土曜日半休の件を認可申請中であつたことにあるが、これは三年七月省令第九號を以て認可された。右内容は銀行法施行細則第十三條に但書を加へ土曜日は正午十二時迄短縮することを得とし、なほ營業の都合に依りこれを伸張することを妨げずとし、三年七月

十日より實施された。右に伴ひ全國の銀行は、七月十四日の土曜日より半休を實施したが、一方これに對して取引所等の反對陳情もあつたけれども、當局並に銀行の容るゝところとならず、遂に取引所もこれに追從するの已むなきに至り、東株では八年一月より實行した。

### 朝鮮銀行令の改正

又一方、銀行法は内地に施行せらるゝと共に前述の如く、臺灣並に樺太にも勅令に依つて施行を見たが、朝鮮に於ては總督府の行政權強化の建前から總督府独自の見解に委せてゐた。總督府でも内地の新銀行法と睨み合せて銀行令（大正元年十月制令第五號）を全面的に改正公布すると共に、引續いて貯蓄銀行令も左の如く改正公布施行した。

一、銀行令 昭和三年十二月制令第六號

一、銀行令施行規則 同年十二月府令第八十號

一、銀行令第三十七條の規定に依る銀行の特例 同年十二月府令第八十一號

一、貯蓄銀行令 同年十二月制令第七號

一、貯蓄銀行令施行規則 昭和四年六月府令第六十二號

而してこの制令は内地のそれに比し重要な差異があつた。



普通銀行

- 一、資本金の制限 内地にありては原則として百萬圓以上、例外として五十萬圓以上を認めてゐるが、朝鮮に於ては原則として二百萬圓、例外として百萬圓以上を認めてゐる。
- 二、法定支拂準備金 朝鮮にては支拂準備金を法定し、現金又は確實なる有價證券を以て預金の一割に該當する準備金を保留せしむることとしてゐる。

貯蓄銀行

- 一、預金支拂準備其の他は内地同様であるが、資本金は内地の五十萬圓以上に對して百萬圓と規定されてゐる。

右、最低資本金實施に關する猶豫期間は五年とし、銀行令は、四年一月一日より施行、貯蓄銀行令は四年五月府令第四十二號を以て同年七月一日より施行を見た。

第二節 銀行検査の實施

大藏省實地検査開始

銀行局では検査課の整備なると共に三年二月に入り愈々實地検査を開始するに至つた。

當時關場検査課長の苦心は相當察して餘りあるものがあつた。検査官は不熟練であり、特別任用の途はあるとは云へ銀行よりは適當なる人物なきがため、検査官は全部官吏で、銀行業務を一通り飲み込ませるには苦心を要したのであつて、これがため實地検査は遅れたのである。

この實地検査勵行は銀行政策の一指針となつたことを注目すべきである。

即ち、實地検査に依つて、銀行内容が以外なる悪化を辿りつゝあることを示すと共に行政處分を受けるものが漸次増加し、昭和三年中に行政處分を受けたる銀行數四十八行を算し、近年に見ざる不良銀行の摘發が行はれたると、今後更にも實地検査の勵行に依つて、其の數は増加が豫想される一面、この検査實行に依つて銀行の合同も大に促進することとなつたからである。

然らば、この以前の検査如何と云ふに、

この三年中に行政處分を受けた銀行の中に神田銀行（資本金一千萬圓内拂込六百二十五萬圓）があるが、この銀行の破綻から考察して大藏省の銀行監督は唯だ名目のみに過ぎなかつたことが考へられる。即ち検査課の設置前は銀行局の高等官二、三名がこれを擔當し、其の他主税局を除く各局の事務官一名位が兼任の儘銀行検査をも行ふ仕組であつたから、當時一千行以上を算した銀行監督には無理なことは明らかで、それだけ又杜撰なものであつた。この神田銀行はその最も良い例であつたのである。神田銀行は頭取神田鐮藏氏の株式投機失敗から銀行としても痛手を蒙り、昭和二年頃から大口預



金の支拂は全然不能となり、遂に債権者から破産が申請されて初めて新規取引停止をこゝに命じたのである。

斯くて神田銀行は破産を宣告され、債務總額一千三百六十三萬餘圓と發表を見たが、當時銀行検査が萬全を期し得られたなら債務額は過少で済んだことと思へる。

なほ神田銀行は擔保附社債信託の受託會社であつたから、大藏省は委託物件の受託會社變更の措置を採るところあつた。

### 日本銀行の銀行検査

これと共に日銀の銀行検査に就いて一言しよう。

日銀では従来より支店検査と代理店検査を行ひつゝあつたが、支店検査は自己の支店検査であるから一應論外とし、代理店検査は自由に營業範圍迄これを爲し得らるゝ筈であるが、事實は検査員不足のため日銀の委託事務のみの検査に過ぎなかつた。偶々金融制度調査會に於て日銀は中央金融機關としての立場から、全國の銀行に對して全面的に内容検査を行ふべきであるとの論も生じ、一方、一營利銀行に全面的にそれを許容するは穩當でないとの論も出て、結局左の如く日銀代理店並に日銀との取引銀行に對して日銀と任意契約を結びこれを行ふことに決定を見た。

- 一、現在日銀は代理店に對して單に國庫金の取扱検査に限り實施せるも今後は營業検査をも行ふ。
- 二、現在の日銀との取引銀行に對して新規に營業内容検査契約を締結し其の検査を勵行すること。
- 三、今後日銀と新規に取引を開始する銀行は取引開始の當初に於て營業検査可能の契約を締結する。

斯くて日銀は總裁直屬機關として考査部を設置し、大藏省の認可を受けて内規改正の上三年五月より直に検査を開始するに至つた。而して其の検査分掌に關しては日銀支店の検査は検査部、代理店はその直轄日銀支店で、取引銀行に就いては考査部で夫々擔當することになつた。當時この検査を實施するに當り地方銀行の苦情を抑制する意味から大物を狙ひ、諒解の上三井、三菱の兩有力銀行から検査を開始した。

### 第三節 銀行の整理方針

#### 保倉局長時代の銀行合同方針



三年一月一日現在に於ける全國普通銀行は千二百八十三行で、新銀行法施行に依る無資格銀行は六百十七行とその約半數に上つてゐたものであるが、政府はこれに對して前述の如く、極力合同の方法を採らしめる方針を以て進んだ。當時政府は、資金都市偏在傾向の弊を避くるためなるべく各地方に於て相互合同を爲さしむる方針を採ると共に合同に際しては、極力不良資産の整理をなさしめ、合同後に於ける資力の充實、資産の良化を計ることを合同の大綱方針とした。この方針に準じて各地方の小銀行合同は進められた。即ち昭和二年に於ては金融恐慌の齎らせる結果として大都市二流銀行の一流銀行合併と云ふ現象となつたが、同局長時代には大都市有力銀行の合同は見られず、合同に依る地方的有力新銀行の出現を見たのである。當時、合同に依つて左の如く五百萬圓以上の地方有力銀行の出現を見た。

年 月	地方別	銀行名	資本金	新銀行	資本金
昭和三年四月	長野	中 信	一〇、二五〇	千圓	
		綿 内	五〇〇		
		長野實業	四、二〇〇		
		榮	一、〇〇〇		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		西 條	五〇〇	信 濃	一四、〇〇〇

同	同	鴻 商	一、〇一〇		
		永 績	一五〇		
		小 諸	四、〇〇〇		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	青 森	二、〇〇〇		
		泉 山	七〇〇		
		八戸商業	一、〇〇〇		
		階 上	五〇〇		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		
同	同	同	同		
		同	同		
		同	同		
		同	同		</



同	大野	五〇	北陸企業	七、〇〇〇
同	北國	一、三八〇		
同	北陸貯蓄	五〇〇		
四年九月	鹿兒島	五、〇〇〇	鹿兒島	五、六二五
同	鹿兒島	一、〇五〇		
同	南薩			

斯くて昭和三年中の消滅銀行百九十七行、四年中は九十七行を算した。

### 休業銀行の整理一段落

金融恐慌に依つて惹起された休業銀行は三十六行（臺銀を除く）に上り、休業當時の預金總額五億六千四百餘萬圓、口數八十七萬二千であつたが、大體昭和三年五月迄に東京渡邊銀行を除外して整理一段落となつた。即ち整理を遂げ、又は整理案が確定し整理進行中のものは休業銀行中二十八行で預金額五億一千二百七十五萬圓、口數七十八萬に達し、整理狀況は、

- 一、單獨開業 十五行
- 一、他と合同 八行
- 一、解散整理中 二行

- 一、和議整理 一行
- 一、破産宣告 二行

殘餘は八行、預金額五千三百六十萬圓、八萬八千餘口、其の内大口は東京渡邊銀行の預金額三千八百萬圓、口數三萬二千餘であり、残りは少額なものであつた。この東京渡邊銀行も三年六月遂に破産整理のことに餘儀なくされるに至つた。

### 休業銀行整理方法

當時大藏省に於ける休業銀行整理方法としては、各銀行の事情に依つて異なるが、普通の場合、資産中の缺陷を整理償却して資産負債の均衡を得さしめることとし、其の方法として一面資産の増加方法として、

- 一、重役の私財提供
- 二、所有物件の價格増加

を考慮實行する一方、評價益を出すと云ふことが適當でない場合、バランスを取つて行くには負債を減ずる方針をとることとし、その方法としては

- 一、株主勘定に依る負債減少



二、株主以外の預金者其他に對する負債減少

一の例 諸積立金の取崩し又は減資

二の例 預金者其他債權者の債權切捨

を主眼として整理案樹立の目標とした。これと關聯して注目すべきは昭和銀行の設立と並んで、便法支拂が講じられたことである。便法支拂とは如何なるものかと云ふと、休業銀行の整理に際して預金の一部の免除を受くることに就いては預金者全員の同意あることが最善の策であるが、大口預金者よりも小口預金者に對して有利な條件で支拂を受けさせることは全員の同意は無理であり、これには法律問題又は實行上種々困難が伴ふ結果、普通の預金支拂と異なる方法が講ぜらるゝこととなつたのである。即ち便法支拂の措置としては

一、破産を防止する爲休業銀行をして和議の申立をなさしめる

一、小口預金は休業銀行自身拂戻を爲す

一、大口預金は休業銀行の預金債權を擔保として昭和銀行より融通する

なほ、この要點を説明すれば、和議成立は和議債權者集會の出席債權者の過半数、總債權金額の四分の三以上の同意を必要とし、破産防止のための和議條件として預金の支拂方法は絶對的に平等でなければならぬから、休業銀行自ら小口預金の支拂を行ふも大口預金の支拂を爲さずと云ふことは、小

口預金を和議法と分離して有利に解決せんとする當局の親心であつた。而して大口預金者に對する昭和銀行の融通金を一應昭和銀行の預金に振替へさせて拂戻す方法を採用したことは、出來得るだけ昭和銀行の預金として止め置き度いと云ふ趣旨と、昭和銀行をしてこれに依つて日銀より特別融通の途を講じさせるためにあつた。即ち特別融通は預金支拂準備のために必要な場合融通すると云ふことであるから、一應昭和銀行の預金と云ふ形にして、其の預金支拂準備のために特別融通を受ける形式をとつたのである。

特別融通利率の引下

この特別融通利率は休業銀行整理に相當影響を與へるものであり、當時に於ても論議を醸しつゝあつた。

即ち日銀の特別融通利率は昭和二年十二月大藏省令第三十六號により、昭和銀行並に十五銀行に對しては年三分（日歩八厘二毛強）となつてゐるが、其の他の銀行は國債擔保貸と同様に日歩一錢七厘となつてをり、銀行整理の目的貫徹を圖るため、是を一律に三分とすべきであるとの論も起るに至つたが、斯くては特別融通本來の趣旨に悖り且つ日銀の金融統制力恢復の點よりするも適當ならずとして大體左の方針に依つて決定することに三年四月大藏省で決定を見た。



- 一、休業銀行にして獨立整理を行ふものに對する特別融通利率は三分とすること（例へば十五銀行）
- 一、休業銀行にして昭和銀行に合併するものの預金支拂のための特別融通利率は同様三分とする（例へば中井、中澤等）
- 一、休業銀行に非ざる銀行にして昭和銀行に合併整理するものの預金支拂の爲にする特別融通利率は國債擔保貸と同率の一錢七厘とする（例へば豊國銀行）
- 一、休業銀行に非ずして單獨に或は合併して整理する銀行に對する特別融通利率は前同様國債擔保貸利率と同率適用のこと（例へば若尾、第二銀行等）

### 第四節 恐慌後の後始末完了

#### 特別融通の締切

法律第五十五號による五億圓補償の日銀特別融通法並に法律第五十六號による二億圓補償の臺灣金融機關に對する資金融通法は、愈々三年五月八日を以て終結を見たが、その実績は左の如くであつた。

	銀行數	融 通 額
日銀特別融通	八八行	六八七、九三〇 <small>千圓</small>
臺灣特別融通	三行	一九一、五〇〇
合 計	九一行	八七九、四三〇

斯くて政府は、特融締切に依つて日銀の受けたる損失額を決定することとし、三年六月十五日勅令第百十五號を以て、特別融通損失審査會官制を公布した。

なほ日銀では、特別融通は今回は回収一方となり、貸出は普通貸出に限らるゝこととなつたため、兩者の事務を區別する必要上より一部局を設置することとなり、其の名稱を特別融通整理部と決定し、新設に伴ふ内規改正を大藏省に申請して、同年五月三十一日認可を得た。

#### 臺灣の特別融通損失額決定

第一回特別融通損失審査會は、同年、六月二十日藏相官邸で開催され、特融損失決定に關する議事規則を附議可決後、政府提出の臺灣、臺灣商工、華南三銀行に對する特融損失補償に關する左記議案を附議したるに各委員より猛烈なる質問續出、結局、左記の如き警告的條件を附して原案を可決せるに至つたが、その損失補償總額は一億九千二百二十七萬圓に及んだ。



議案

- 一、臺灣銀行に對する特別融通の損失一億八千五百萬圓補償に關する件
- 二、臺灣商工銀行に對する特融の損失三百五十萬圓補償に關する件
- 三、華南銀行に對する特融の損失三百萬圓補償に關する件
- 四、上記三銀行に對する日銀の利子、諸手数料負擔の件

警告

今回巨額の國民の負擔により臺銀外二行に對し救済を爲すに至りたる事情は甚だ遺憾とするところにして、今後大藏省、臺灣總督及び銀行當局は、斯くの如き事を再び發生せしめざるやう十分監督指導せられたし。

震災手形處理委員會

又この審査會と併行して曩に震災手形の處理方針を決定した、震災手形處理委員會は、爾後其の方針に基いて會議を開催し、四年一月に於て、辛酉銀行關係の震災手形八十九萬餘圓並に東京渡邊銀行の震災手形四百五十四萬餘圓を回收不能と認め日銀に對してこれを補償することに決定し、こゝに全く同委員會の任務は終了することとなつたが、會議終了後三土藏相が發表した處理の概要は次の如き

ものであつた。

即ち二年九月三十日に於て、日銀から融通を受けてゐた銀行數は三十三行、其の融通金額は一億八千四百七十一萬圓にして、内回收不能として一應損失に歸すべきものとして決定した金額は、十九行分一億五百二十二萬圓、又震災手形善後處理法に依つて貸付けることに決定した金額は十八行分七千六百十一萬圓であつた。斯くて辛酉、東京渡邊兩行分を除く三年末迄に日銀に對して損失を補償した金額は九千四百九十一萬圓で、其のために交付した公債額面は一億四百五十一萬圓餘、又善後處理法に依る貸付のため銀行に交付した公債額面は七千八百二十八萬圓であつた。

而して辛酉及び東京渡邊兩行關係の損失を補償した後に於て、政府が日銀に對して補償する總金額は大體に於て九千九百八十二萬餘圓と豫定され、法律所定の一億圓の制限内で處理されたものであつた。而して今後の政府の方針は、一旦日銀に對して補償をした震災手形と雖も支拂能力ありと認められた場合には、從來からも嚴重に取立てたり、又實狀に應じて年賦償還契約を締結し、更に債務者に誠意なしと認めたるものに對しては、已むを得ず訴訟を起して取立を期することとしたが、現在ではこれが一般會計收入金となつて現はれて來てゐる。

又右委員會は、任務終了に依つて四年十二月勅令第三百三十九號を以て廢止された。



### 第五節 特融終結後の金融情勢

#### 當時の金融界

金融恐慌後に於ける金融界は、資金偏在傾向と相俟つて異常なる金融緩慢を辿り、日銀の特融資金の放出に依つて益々これが増長され、さなきだに財界不況にて資金の需要乏しき折柄遊金は市場に横溢し、金利は益々低落すると云ふ情勢を示した。なほ又當時の財界は、二年の金融界の整理行はれてより、各方面とも漸次改善の跡が覗はれると雖、過去數年間に渉る不景氣が相當深刻であつただけ、都鄙を通じての一般購買力は衰へ商取引は頗る不振の状態を持續せる結果、事業界はその全能力を發揮すれば生産過剰に陥る状態で、漸く生産制限を以て維持すると云ふ有様であつた。當時銀行の整理進捗が信用の收縮と云ふ形態で事業界を萎縮せしめたことも一端の原因がある。斯くて金融緩慢、金利安の傾向は事業界を活氣付けるに至らず、愈々不景氣たる様相を呈し、金利は低落し、遊資は大銀行に滿々とし、小銀行及び小經營者は著しい資本の不足に悩み、日銀の割引手形總額の約七割が非常的手形で、これがため日銀は重い負擔に苦しむと云つた情勢で、又特別融通は市場の實需に應じて貸出されたるものでないため、動々ともすれば通貨膨脹の懸念を生じ、これがため日銀の通貨統制力は著しく鈍るに至つた。

#### 資金偏在傾向の濃化

斯くの如く特融が遊資加重の作用を爲す一面、事業界の資金需要は擡頭する模様なく、預金は増加する一方貸出は伸張せず、一般に預金と貸出の開きは増大する結果として遊資は有價證券投資に向つた。

銀行所有有價證券地方別(單位百萬圓)

交換所名	銀行所有有價證券地方別(單位百萬圓)		比較増加額
	三年六月末	二年六月末	
東京	一、四六六	一、〇二〇	四四六
大阪	六二二	四三二	一九一
横濱	二八四	二五四	三〇
名古屋	二〇八	一六八	四〇
神戸	四一	三〇	一一
廣島	三九	二七	一二
關門	二三	一八	五
新潟	二六	二三	三

第五節 特融終結後の金融情勢



第二章 保倉三郎局長時代

計	二、七〇九	一、九七二	九二
其他	一七〇	一三八	七三七
合計	二、八七九	二、一一〇	七六九

(資料) 東京銀行通信録四年十月號

然らば有價證券買入の財源たる預金が同期間中に如何に増加したかと共に、東西有力銀行に於ける預金の集積振りを知らう。(單位千圓)

銀行名	有價證券		預金	
	三年六月末	前年同月末比較増	三年六月末	前年同月末比較増
第一	一四五、五〇三	△、一五三	五六一、五二	五五、六七五
三菱	二六、七二	△、六四〇	五五、一五二	六八、七二六
三井	三三、九三	△、八三	六八、五九	六、二七
安田	二六、七〇	△、〇三	七五、二三	六〇、三三八
川崎	六六、二七	四、二二	三二、一〇三	九、六二
三井	二二、八八	△、五三	七〇、三五	五、八八
山崎	一一、二四	△、六八	三七、〇六	六、六九
住友	三三、三〇	△、七二	五五、四一	五、五九
池田	五、三六	△、九三	二八、二四	三、〇七

野村

計

計	三、〇七五	一〇、四四〇	二六、三七	四一、三五
特別銀行	一、六二、七三	四九、三〇	四、三二、九四	五三、六六
普通銀行				
貯蓄銀行				
合計				

即ちこの東西有力銀行十行の一ヶ年間に於ける預金の増勢は、實に五億三千三百餘萬圓の激増であり、これに對する有價證券投資は、四億九千五百餘萬圓と、その全力を擧げて證券買入に向つたものである。これに依つて銀行が如何に運用難に當面せるかを知るであらう。

而して同年六月末に於ける全國銀行の預金現在高は九十億九千六百六十六萬二千圓で、この内、この有力銀行の預金は半ばを占めて居り、資金偏在の一端を覗ふに足る。

なほ又諸統計に付き之を見よう。

全國銀行昭和三年十二月末預金貸出高 (單位千圓△印減)

	特別銀行	普通銀行	貯蓄銀行	合計
預金計	一、三〇〇、二七	九、三三、四八	一、二四一、二六	二、七七一、三三
前月比較	△ 三六、九三	△ 五、〇二	△ 七、〇六	△ 二、五五、八四
前年同月比較	△ 一七五、一〇九	△ 三〇九、四七五	△ 一五八、二八	△ 二九一、四八四
貸出計	三、四八〇、二六	七、五五、三七	三三三、五九	二、七七一、〇六
前月比較	△ 八、四八四	△ 八七、八七三	△ 一三、五八九	△ 八、二〇〇
前年同月比較	△ 一八一、三七	△ 五七、六九	△ 六五、九三	△ 六八三、〇三

第五節 特設終結後の金融情勢



昭和三年中の金銭信託の増勢 (單位千圓)

昭和二年十二月末	七〇九、九八七
同 三年 六月末	八六七、〇四七
同 七月末	九〇四、八〇六
同 八月末	九二七、五七八
同 九月末	九五二、二一三
同 十月末	九七五、五九四
同 十一月末	一、〇〇三、七二三
同 十二月末	一、〇〇八、八八六

昭和三年十二月末郵便貯金狀況

人員	三年十二月末	前年比較(増)
金額	三六、二八二千人	二、二四四千人
平均一人當金額	一、七四二、七八一千圓	二一九、七四三千圓
	約四八圓	三圓

第六節 政府の匡救策

市場遊資の引上げ

斯くの如き資金の偏在竝に遊資の横溢は、通貨の膨脹より一般物價の騰貴を促し、所謂金融景氣の擡頭によつて財界の整理は鈍化する傾向にあつた。政府はこの是正策として國債引受シンジケート銀行團(當時十四行)引受に依り三月六千萬圓、五月七千萬圓、合計一億三千萬圓の新規國債を發行し市場遊資を吸収する處あつたが、日銀でも政府の政策に呼應して三年中に約二億八千萬圓に上る所有國債を賣却し市場資金の引上げを行つた。斯くて日銀に於けるインフレ抑止の手持國債の賣却は二年以來凡そ四億四千六百萬圓の巨額に上つたものである。一方政府は郵便貯金の激増から、これが地方還元を圖るため預金部資金の運用計畫樹立に當り、普通低利資金其他各種の地方資金の融通に振向けることに留意すると共に、各特殊銀行の債券發行に依る遊資の吸収策を採り、萎靡沈滞せる產業界に積極的に資金を融通せしめるところあつた。當時不動産銀行に於ける債券發行高は六億一千五百萬圓と二年の夫れに比し倍額以上に達したものであり、夫れ丈け不動産銀行自身の業績は向上するに至つた。即ち低金利を利用して既發高利債の低利借換に成功し、これが資金原價を低下せしめ、延いては貸出の伸張と収益の増大を來す結果となつたからである。

當時の債券發行高 (借換を含む、單位千圓)

勸業債券	農工債券	興業債券	拓殖債券	合計
六、五〇	六〇、三三	五、一〇〇	八、〇〇〇	一四、四〇一



昭和元年	昭和二年	昭和三年
四八、七四三	六八、九四五	一〇五、二二七
六九、〇三四	一三三、八八九	二五、六九七
三〇、六〇〇	六九、〇〇〇	一一五、〇〇〇
四、三九五	三三、四九四	三〇、〇七
二〇一、六二	三〇六、二五八	六二五、四四

(資料) 銀行局年報

日本勸業銀行の積極的活動

勸銀調査に依る、昭和二年末現在の本邦不動産抵當債務推定額は

銀行名	金額 (千圓)	割合 (%)
日本勸業銀行	五五〇、〇二九	九・五一
全國農工銀行	五五八、三三三	九・六五
北海道拓殖銀行	八七、〇九六	一・五一
日本興業銀行	一一六、三四九	二・〇一
普通及貯蓄銀行	一、六四七、三〇三	二八・四八
保險、信託會社	三七三、〇三六	六・四五
其の他	二、四五二、二二一	四二・三九
合計	五、七八四、三六七	一〇〇・〇〇

てこのうち普通及び貯蓄銀行の占むる割合は二八・四八と最大を占めてゐたものであるが、金融恐慌の結果地方銀行は不動産貸付より漸次手を引くやうになつたため、資金都市偏在傾向濃化と云ふ一因からも、地方金融は著しく不圓滑となり、農村の不況は漸次深刻化するに至つた。こゝに於て不動産金融機關たる勸銀及び農銀の積極的活動が要請せらるゝに至り、時の馬場勸銀總裁の活躍は注視すべきものがあつた。

即ち勸銀では政府の匡救策に順應して、二年末より三年初めにかけて、鶴岡、濱松、久留米、下關に出張所を新設して地方金融に進出し、低金利情勢から貸付利率の引下げを行ひし外、不動産根抵當定期貸の開始、貸付手續の簡易化等を計り、積極的に債務者の便宜を計ると共に、地方産業者に對する高利債借換資金の供給、預金部資金の仲介等に極力全力を盡す一方、行内機構の整備改善を斷行し各種の内規を制定し事務の簡捷と綱紀の振肅とを圖つた。當時貸付事務の簡捷化として本店貸付課長は獨斷で一口一萬圓以内の貸付、同一債務者に對する三萬圓以内の貸付、支店長は一口三萬圓以内の貸付、同一債務者には五萬圓以内の貸付が出来ることとなつた。

斯様に内外に渉る業務改善の結果、三年中の新規貸付高は二億四千萬圓の巨額に上り、同年末に於ける貸付金現在高は二年末の八億圓より八億六千九百萬圓となり、四年末には九億一千六百萬圓と漸増した。なほ新設出張所中には非常な好成績を収めたものもあつたので、其の權限を擴大して事務の



簡捷を圖り、債務者の便宜と貸付金の増進を期するため、三年八月に濱松、下關の兩出張所を支店に昇格せしめ、十月には臺灣南部にも進出し、臺南市に支店を新設し、臺北、臺南兩支店をして同島に於ける不動産金融の衝に當らしめた。當時同行の低金利利用の既發高利債借替は創立以來の大成功を納めたものであつた。

### 農工銀行の擡頭

全國農工銀行も政府の意を體し、勸銀と互し高利債の借換と新規債券發行に依つて積極的に不動産金融に資するところあつたが、前述の如く農工債券の發行高は勸農合併政策遂行の結果、全國農工銀行數は減少すると雖、三年中二億五千八百餘萬圓に及び、勸業債券發行高よりも五千三百餘萬圓の増加を示し、地方金融に相當根強い地盤を持つたことが看取される。即ち農工銀行は大正九年迄は四十六行を算してゐたが、勸農兩銀行任意合併法の公布に依り大正十年には四行、同十一年には十三行、同十二年には二行、昭和二年に於ては二行の合併を見、随つて現在は約半數の二十五行に減少したに拘らず多額の債券發行額を見たことは、

一、金融恐慌後に於ける資金偏在の結果、地方に於て募集するよりも中央に於て募債の方が有利且つ多額の資金を吸収し得ること

二、勸農合併の結果として、殘存せる農銀の信用加はり、爲に中央市場に於ても募債し得るに至つたこと

三、信託會社及び證券引受業者の業務發展に伴ひ債券引受能力の増大せること  
等が擧げられ、資金偏在の還元策として好望視されたものである。この結果貸付金も増大傾向を辿り二年末六億一千百萬圓、三年末六億六千七百萬圓、四年末七億圓と漸次業績は進展の一途を辿つた。斯く農銀の信用増大に伴つて、大藏省では三年六月の預金部運用委員會に於て、地方低利資金の農銀代理貸を廢止し勸銀農銀共同様の立場に於て直接貸を行ふことに決定した。これは從來地方低利資金の貸付に就いては三萬圓以上は勸銀より直接貸を行ひ、三萬圓以下は農銀が勸銀の代理貸を行ふこととなつてゐたのを、今回三萬圓以上以下共兩者に於て直接貸を行ふことに改正されたのである。

### 不動産協會の設立

當時馬場勸銀總裁は金融恐慌の一端は不動産金融から招來せることと、從來からの不動産金融の不圓滑から卒先して不動産金融改善策を企圖し、事ある毎にこれを力説したのであつて、四年初頭に於ける所觀が雄辯にこれを物語つてゐる。其の内容は大體左の如くである。

都市に偏在せる遊資を地方に還元して金融を緩和し、地方産業を助長するは現下極めて喫緊の方



策であるが、地方に於ては不動産が唯一の擔保物件で之を措て他に適當の金融資源を求むることは甚だ困難であるから、地方金融の疏通は結局これを不動産の資金化に俟たねばならぬのである。加之普通銀行は新銀行法の實施に伴ひ其の不動産抵當債權を資金化して行かねばならず、又日本銀行の如きも恐慌の際不動産抵當債權を擔保として貸出した多額の特別融資金の回收を控へてゐるのであるから、此等の見地よりするも不動産の取引機關を設立して抵當權の證券化と相俟つて其の取引を容易ならしめ、依つて不動産金融を圓滑ならしむるは眞に刻下緊要の方策にして亦最も時宜に適する計圖なりと信ず

これより曩、不動産金融の研究機關として、不動産金融に關係ある法人を會員として、三年七月日本不動産協會が組織せられたが、その規約内容は左の如くである。

日本不動産協會規約

- 一、本會ハ日本不動産協會ト稱ス
- 二、本會ハ不動産ノ取引及金融ニ關スル事項ヲ調査研究シ其ノ改善ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 三、本會ハ前項ノ趣旨ニ賛同スル者ヲ以テ之ヲ組織ス  
本會ニ入會セムトスル者ハ總會ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
- 四、本會ニ客員ヲ置クコトヲ得

276590

客員ハ總會ニ於テ之ヲ推薦ス

- 五、本會ノ經費ハ會員之ヲ分擔ス
- 六、本會ニ幹事若干名ヲ置キ會員ノ互選トス

當時の不動産金融の實情を観るに、我が不動産金融は僅々數十年にして長足の進歩發達を遂げ、不動産金融に従事する機關も専門の不動産金融機關の外に、副業的不動産金融機關として興銀、信託會社、保險會社等あり、更に普通銀行、貯蓄銀行も巨額の不動産貸付を行ひ、金融機關の制度は略整備の觀を呈して居たが、其の内容を仔細に検討すれば相當改良すべき點が多分に存して居た。即ち前述の不動産抵當債務總額の内、専門不動産金融機關たる勸銀、農銀、北拓の占むる割合は總額の僅か二〇%六七に過ぎず、其の大部分は他の金融機關に依つて行はれてゐるのであつて、此の事實は我が不動産金融に幾多改善の餘地の存することを示唆するものである。而して不動産金融に不備缺陷の多いのはもとより種々の原因が存して居る。即ち

- 一、資金需要者が資金の性質を考へ、最も適當なる機關に就いて融資を需むる迄に至つて居ないこと
- 二、金融機關の機能が未だ充分發揮せられて居らないこと
- 三、不動産、其の物の性質上公正なる價格を決定し難く、取引がやゝともすれば圓滑に行はれないこと



- 四、従つて不動産に投下された資金は、其の資金化が困難なること  
五、不動産に関する法制に不備缺陷があり、不動産を擔保として融通する者の利益が充分保護されて居ないこと

等が數へられてゐるが、就中三、四、五の如きは、その最も重視すべきものである。斯く不動産金融が右の如き實情であつたから、日本不動産協會は成立後直ちに其の活動を開始し、現行法制の範圍内で比較的容易且つ迅速に實行し得る不動産抵當債權證券化の方法並に不動産の賣買取引を公正且つ簡易ならしむる方法に付き審議を重ね、同年中に既に成案を得たが、經濟界の情勢が不利で直ちに實行を許さぬものがあつたので、遂に實現に至らなかつた。而し乍ら協會結實の果として後述の不動産抵當證券法の制定を見るに至つた。

#### 日本興業銀行の貸出制限率擴張

資金偏在傾向是正並に産業界に對する資金導入策は着々效を奏し、不動産貸付に重點を置く各特殊銀行は債券發行に依る負債の増加、貸出金の伸張に依る資金の膨張を見た。而し各特殊銀行は貸出伸張すると云つて無制限にこれを行ふことは出来ぬこととなつてをり、夫々單行法に依つて取締られて

居るのであつて、興銀でも政府の方策順應の結果として、遂に貸出高は法律所定の制限を超える豫想となつたので、大藏省に業法改正方を要望するに至つた。斯くて大藏省は第五十六議會に興銀法中改正法律案を提出し、通過と共に四年四月法律第四十三號を以て公布した。

右の改正は興銀法第九條の二中、不動産貸付の限度は拂込資本金額の二分の一とあるを三分の二と改正せるものであつた。即ち同行は従來工場に屬する敷地又は建物並に市街地の宅地又は建物を擔保として拂込資本金額の二分の一迄貸付け得ることとされてゐたのを、今回の改正に依つて三分の二迄貸出制限率が擴張されたものである。斯くて同行の三年末に於ける貸付現在額は二千四百餘萬圓で其の貸付餘力は六十萬六千餘圓に過ぎなかつたのが、改正の結果其の貸付限度は現行の二千五百萬圓より三千三百餘萬圓に増加することとなり、同行の不動産金融は相當の餘力を生ずることとなつた。

#### 第七節 金解禁直前の銀行界

##### 四年の金融界

金融の變態的緩慢は政府の匡救策によるも抄々しき進展を見せず、四年に入り一般金利低下歩調から、東西組合銀行は二月協定預金利率の引下げを行ひ、各地の銀行も亦追隨するに至つたが、株式市



場は金解禁に對する揣摩臆測から低金利の恩恵に浴さず、唯人氣は債券市場に集中して高利社債の借換を誘致し、起債條件の緩和から事業會社の整理に資したところ少くなかつた。然るに社債の活況も五月を境として一頓座を來し、上半期中約六億九千萬圓に上つた社債發行額は下半期には半減して約三億五千萬圓に下つた。

斯くて下半期に入り内閣更迭に依り金解禁機運の進行に伴ひ、株式に對する人氣は一層沮喪し、一般商品の季節的取引も當用必需に限られることとなり、物價低落と共に資金の移動閑散を極めたため、四年中に於ける全國手形交換所の手形交換高は前年に比し五十三億圓を減少して六百三十一億圓を示した。

金解禁の機熟せるとした金融界は、上半期中より長期資金の回收及びこれが新規放出を手控ひ、短期資金の消化に全力を挙げたものであつたが、下半期に至つては其の勢ひ益々甚しく、折柄政府の爲替買上代金の受入に依つて一層これが増長せられ、遊資過剰の歎を嘆きつゝ金解禁の年を迎へることとなつた。

### 銀行の内容充實

事業界の萎靡不振は、惹いては財界の動脈たる金融界にも波及する結果となり、上半期は普通、臨

時收入共成績良好であつたが、下半期に入りては證券市場沈滞に依る證券關係の收益減少並に公社債市價低落のため有價證券價格償却の増大から業績低下を見た。

然し乍ら財界不況は一般の整理縮少を要請し、銀行界もこれが制肘を受け、左の如く内部充實の一點に留意することとなつたが、當時三年末全國銀行數一千三十一行より四年末八百八十一行と百五十行減少せるにも拘らず、資本金其他には大した變化もないのに諸準備金の充實は雄辯にこれを物語るものであるが、一方大藏當局の銀行整理合同の方法並に新銀行法の施行に依るものとも見られる。

	資本金	拂込未済資本金	諸準備積立金	利益金
昭和四年十二月末	四八九、四〇〇	八二、四八	九一、八八一	一八九、四七
同 六月末	四八七、四〇〇	八〇、七四八	九三、七〇五	二〇三、一七
同 三年十二月末	四八八、四〇〇	八二、六	九三、二八五	二一〇、三三

(資料) 全國銀行資産負債表 (單位千圓)

かゝる内容の充實は後述の銀行發展となつて現出した。

### 國際決済銀行に本邦銀行參加

曩の歐洲大戰は、獨逸の敗戦と云ふ終止符に依つて落着を見、この結果、獨逸は聯合國に對し今後



五十八ヶ年に涉り、一ヶ年約十七億馬克より二十四億馬克の賠償金を支拂ふ義務を負ふに至り、我が國も聯合國參加國として、獨逸より賠償金を受取ることとなつた。この賠償取扱機關として國際的信託會社と見らるゝ國際決済銀行が資本金一億弗を以て瑞西國バーゼル市に設置せらるゝこととなり、日、英、米、佛、白、伊、獨の七ヶ國に於て各八百萬弗宛を投資し、殘額四千四百萬弗は其の他の十三ヶ國に於て引受くることに決定し、その國の中央銀行が代表として株主権を有することとなつた。然し乍ら我が國の日銀の出資に對しては同行の法律上、營利なる株式を所有し得ない建前になつてゐる關係上、大藏並に日銀兩當局の協議により、結局この本邦出資割當額一千六百萬圓（一萬六千株）の引受は、國債引受シンデゲート銀行團（正金、興銀、三井、三菱、第一、安田、川崎第百、住友、三十四、山口、鴻池、愛知、明治、名古屋）の十四行に於て均分に引受け端數は興銀、正金に於て二分することに決定を見た。

斯くて第一回拂込は五年三月中に終了し、同行第一回重役會は前記七ヶ國の代表者に依つて開催され、我が國よりは倫敦日銀監督役田中鐵三郎氏出席した。

#### 東西手形交換所の金解禁即行決議

金輸出解禁に對する我が國の論議は、大正八年米國の金解禁實施以來機會ある毎に擡頭し、片岡藏

相に於て初めてこれを具體的に採り上げるに至つたが、金融恐慌の勃發に依つて、總て御破算となつたことは前述の通りである。然るに財界は前述の如く、一應整理過程に入り落着きの徴候を示せると金融界も資金偏在傾向とは云へ緩慢を續けたので、金解禁問題は三年五月の特融期間の経過と共に再び活潑に論議せられ、その具體的な第一聲は、遂に三年五月下旬に行はれた蠶絲業者有志大會の決議となつて現はれた。次いで各團體もこれに呼應して、同様の要望を行つたが、遂に十月二十二日に至り、日頃慎重な態度を示してゐる金融界は、東西手形交換所組合銀行の連名を以て、左の如き解禁即行の決議を行ひ、これを三土藏相に手交するに至り、解禁論は愈々高潮を呈するに至つた。

政府は即時金輸出禁止を解除せらるべし

（理由）金輸出解禁の問題は數年に互りて解決せられず、ために爲替相場の變動甚しく、關係業者は一定の計畫を立つる能はず、其の蒙れる損失甚大にして、惹いては經濟界の眞正の恢復を阻止せること尠ならず、然るに今や經濟界の整理は漸次進捗し國際收支の狀況さまで不利ならず、又世界列強は皆金解禁を實行せるを以て我が國のみ獨り變態を持續すべきに非ざるなり、但金解禁は爲替相場の平價に近づきたる時機に於て決行するを得策とすべきも、若し漫然斯の如き理想的状态を期待し、或は其の他の事情を顧慮して非解禁を續行するに於ては、其の影響たるや、此の際解禁を斷行するによりて惹起すべき影響に比し寧ろ重大なるものあるべし。故に今日に於て



多少の犠牲を忍ぶも解禁を執行するは最も緊急の事なりと信ず、仍て政府は即時解禁を断行して以て多年の懸案を解決せざるべからず、若し解禁を即行し難き已むを得ざる事情ありとせば、改善の策として、遅くとも來年の輸出入轉換期を超えざる期間に於て断行の適當なる時期を即時確定公示せらるべし、世上或は解禁即行の如きは餘りに急劇なる變動を經濟界に與ふる嫌なきに非ざるを以て、成るべく速に解禁の決意を爲し、其の準備行爲を完成して後之が實行を計るべしとの議論あるも、時期を確定せずして準備行爲に著手すとせば、直に内外の投機者流に悪用せらるゝことは既に經驗せしところなり。而して愈解禁を断行するに當りては之が對策として政府は、其の財政に緊縮の方針を採り公債を増發せざるべきは勿論、商工業者、金融業者及び一般國民も舉りて勤儉節約の主義を把持して、毫も通貨膨張の虞なからしむることを其の第一義となし、朝野一致確固たる決心を以て之に臨まざるべからず

この決議に示すが如く、政府に對して金解禁の即時断行を要望すると共に、解禁期日の明示と國內策としてデフレーションを首唱した極めて強硬なものであつた。

## 第八節 金輸出解禁

### 金解禁の根據

錢上の決議に對し、政府の經濟最高諮問機關たる經濟審議會も贊同の意を表し、各經濟關係團體も解禁要望の決議を行つたが、當時の解禁論は何れも金輸出禁止に依る弊害を痛切に體驗しこれを除かんとする叫びであり、これに伴ふ不可避の犠牲を飽く迄も忍ばんとする眞摯なものであつた。然も是等の解禁論は根據を爲替相場の變動防止に置いてゐる點、解禁期日の明示を要望してゐる點、及びそれが所謂評論家達の理論的要望でなく、金解禁問題に最も密接な利害關係を持つ經濟界に於ける實際家の主張であつたと云ふ點で極めて重要性がある。加ふるに三年六月には佛國も愈々解禁して世界の有力國家は悉く解禁國となり、且つ六年一月期限の第二回四分利英貨公債二億三千萬圓の借換も亦この問題が解決せぬ限り交渉が困難であると見られたのも一主因であつた。斯く解禁論が一般的に論化せるに對して政府は終始曖昧な態度を續けたので、圓貨は國際スベキユレターの好個の對象となり、大幅の激動を續けたので海外取引は萎縮、入超は持續し、大正九年二十一億七千八百萬圓に達してゐた正貨は、四年六月迄に十一億圓を失ふ結果となつた。當時金解禁要望と共に、國際貸借改善策として船舶金融並に輸出補償に就いて政府に建議したことは注目すべきである。

斯る様相のうちに不戰條約案の違憲問題に依つて漸く壊倒の厄を免かれた田中政友會内閣は滿洲某



重大事件の措置に就いて再び窮地に陥り、遂に四年七月總辭職を執行し、こゝに於て大命は、濱口雄幸氏に降下し、民政黨内閣の成立を見た。濱口内閣は、組閣勿々、財政の整理緊縮、國債の整理、國民に對する消費節約、金解禁斷行等の十ヶ條に渉る施政方針を發表し、殊に金解禁は國家財政及び民間經濟を建直す必要の基本的要件なりとして積極的に乗り出すに至つた。即ち政府は自ら中央及び地方の財政に一大整理緊縮を斷行すると共に財界の整理を促し、又公債政策を變更して新規募債を打切る等、一切の財經策を緊縮の一點に集中し、國民に向つては一大節約運動を敢行したのである。

### 金解禁の準備

政府の企圖は財政の整理緊縮と國民の消費節約とによつて輸入を抑制し、國際收支の調整を圖らんとするにあつた。就中四年度の實行豫算は公布豫算に比し九千萬圓を節約し、更に五年度の豫算編成では緊縮方針の徹底に努め、四年度實行豫算より更に七千二百萬圓の減少を行つた。殊にこの豫算は公債及び借入金を含みぬ歳出入の均衡した文字通りの緊縮豫算であつた。一方政府は在外正貨擴充のため、正金をして民間外貨資金の買上げを行はしめたので、四年六月末に八千三百萬圓（政府、日銀合計）に減つてゐた在外正貨は十一月中旬迄に二億三千七百餘萬圓に迄回復し、これに從來所有の分から此の間に支拂つたものを差引くと在外資金は三億四百萬圓に上つたものであつた。この間爲替昂

騰見越て輸入は見送られ輸出は逆に激増したから、貿易尻は入超一億七千餘萬圓と戦後曾てなき好調を示し、然も十月下旬の米國株式市場の暴落は、解禁後の金流出を誘ふものとして懸念されてゐた海外の金利高を解消せしめ金解禁には頗る有利の情勢となり、解禁準備も着々進捗したので、政府は英米兩市場に向つてクレジット設定の交渉を開始した。兩市場共金利低下の傾向にあり、又我が國の金解禁に對しては好意的援助を惜まなかつたので交渉は順調に進行し、紐育銀行團二千五百萬弗、倫敦銀行團五百萬磅合計一億圓のクレジット設定が正金との間に締結成立し、又英米中央銀行もモーラル・サポートを與へる旨表明するに至つたので、金解禁の準備はこゝに全く完了を見た。

當時政府の金解禁準備工作の一として日銀特別融通を如何に處理するかが問題であつた。これは日銀の統制力が及ばない現在の儘では正貨の流出を來す事情があつたから、左の如き方法に依つて處理すべきであるとの論が行はれてゐた。

- 一、既に回收不能のもの、又は其の見込なきものを一時損失として切捨て、政府の補償國債賣出に依つて民間の資金を回收すること
- 二、民間大銀行の預金を一定期間日銀の預金とすること
- 三、大藏省證券の發行に依つてこれを吸収すること

然し結局日銀をして公債の賣出し其の他に依り通貨の收縮を圖り、同時に速に特融を回收して、四



年末には其の残高を五億圓臺に減少せしめんとしたが、何にしる特融總額のうち約四割が不動産であつたから處分容易でなく、其の實績は左の通りであつた。

	金額	行數
昭和三年五月八日銀特融額	六八七、九三〇	八八
同 四年五月八日現在額	六二一、六〇〇	六一
同 四年十二月末現在額	五九八、一七九	五八

## 不況深刻化

政府の緊縮政策實行に伴ひ一般財界も是に順應し、事業界には操短又はその増率を爲すものが續出し各種の商取引は著しく手控へられた。一方對外爲替は政府の解禁政策に好感して昂騰を續けたので商品市場は爲替高の影響を受け、又證券市場は事業界の収益減と金利高を豫想して相次いで低落した。特に金融界はデフレーションに備へる手許資金充實の爲手持證券を資金化し、又貸出も事業界の前途を警戒して回收並に選擇に努めたので、證券界及び商工業の資金難は益々加重して不況は一層増長し、新東株は七月既に百圓を割る有様になつた。即ち金融の基調は依然として緩慢で資金は潤澤を極め當座預金の利子廢止論も出る程であつたが、解禁後の手許準備と警戒との爲資金の放出が差控へられた

から、商工業並に證券界は資金の吸収に悩む變態情勢を惹起したのである。斯くの如く四年以降の我が財界には後年に記録せらるべき大デフレーションが展開され、所謂「不景氣」の文字は國民の合言葉とさへなり、六年十二月十三日再び金の輸出が禁止せらるゝ迄の間財界は未曾有の恐慌過程を経験せねばならなかつた。當時資力あるものと雖も夫々操短、共販又は販賣協定等の共策手段によつて辛じて存立の基礎が與へられてゐる實情であり、況んや中小商工業の資力薄弱なるものは、中小銀行の破綻せるもの多きに加へ、政府の合併促進策より従來からの融資銀行消滅せると銀行の放出手控へに依つてその苦痛は察するに餘りあるものがあつた。この結果日本商工會議所では中小商工業の金融打開策に就いて政府に建議するところあり、不況の深刻化は一般勤勞生活者にも重大なる影響を與へ、中小商工業者の救済の聲は遂に社會問題化するに至つた。

大藏省に於てもこれが對策として、預金部資金動員の外、大都市銀行に對し中小商工業者に資金融通を慫慂するところあり、安田銀行ではこの情勢に鑑み、逸早く其の子銀行の日本晝夜銀行をして、我が國創始の試みとして、五年一月より對人信用に依る小口信用貸出の開始を爲さしめた。

## 金解禁斷行

前述の如く政府は金解禁の準備完了すると共に、四年十一月二十一日大藏省令第二十七號を以て金



銀の輸出取締令を撤廃し、其の施行期日を左の如く五年一月十一日と定めた。  
左の大藏省令は之を廢止す

- 大正六年大藏省令第二十六號（銀貨幣又は銀地金輸出取締等に關する件）
- 大正六年大藏省令第二十八號（金貨幣又は金地金輸出取締等に關する件）
- 大正七年大藏省令第三十八號（金若は銀を主たる材料とする製品又は金若は銀の合金輸出取締に關する件）

附則

本令は昭和五年一月十一日より施行す

これと同時に濱口首相、井上藏相より夫々聲明書を發表し、日銀は英米銀行團に對するクレデット設定に對する感謝を含む、東西銀行團よりは政府の方針を絕對支持する旨の各聲明書を發表した。斯くて永年に渉る懸案であつた金解禁問題はこゝに全く解消し、大正六年九月十二日金輸出禁止せられ、てより實に十二年五ヶ月を経過し、經濟常道への第一歩は力強く茲に於て始めて踏み出された。

日本銀行の解禁準備

政府は金解禁を契機として政府所有の在外正貨を日銀に移管し、日銀は今後在外正貨の利用に依つ

て對外的に爲替調節を圖ると共に他面金本位維持の爲に通貨調節を適當に處理するに至つた點を注目すべきである。即ち我が國では政府自ら巨額の在外正貨を擁し、これを以て海外拂ひを行ふのみならず直接正貨の買上げ拂下げを行ひ、以て爲替調節を行つて來たが、今後は原則として政府は正貨を保せず、其の海外拂ひは爲替送金の方法を採つたことである。

而してこの日銀に於て肩代りした在外正貨賣渡方針に關しては、大藏當局、日銀及び正金の三者間で協議の結果、日銀より正金並に一般銀行にも直接に賣渡すこととなり、その賣渡價格は大體現送點を目安としたが、其の時の情勢により日銀で適當に算定したもので、現金拂ひ即時賣渡を原則とし、事情に依つては先物賣買にも應じたものであつた。

なほ日銀では金解禁に伴ふ兌換準備のため、一億圓の金貨鑄造を爲し、在來の金貨二億圓と合せ正貨準備中に三億圓の金貨を所有し、大口需要者には地金又は金塊を以て賣渡す方針を決定した。斯くて五年一月十日現在に於ける日銀の正貨準備は十億七千三百三十三萬三千圓を示した。



### 第三章 大久保債次局長時代

(在任五年三月—九年五月)

大久保局長の在任は足掛け六年の長年月に涉り、其の間金輸出解禁を巡る經濟界の幾變轉に處し、金融機關に對する行政運営は萬遺憾なく、其の輔導育成に甚大なる足跡を残してゐる。而して其の最も特筆すべきは新銀行法施行に依る資本金法定猶豫期間内の無資格銀行の消滅であつた。即ち昭和二年銀行局検査課長就任と共に、銀行内容強化に一路邁進し、あらゆる困難と戦ひ、五ヶ年間の猶豫期間内に六百十七行の無資格銀行を淘汰したことは實に偉大なる功績と云はねばならない。このことは將來の銀行史の一頁を華々しく飾ることと思ふ。

#### 第一節 國家補償法の發動

##### 絲價安定融資補償法の適用

金解禁準備工作として政府の取り上げた緊縮政策に依つて不況は一層深刻化を來した。この挽回策

として産業界の振興、金融の疏通と云ふ兩面が考へられ、金融面よりの生き吹きが當面の對策として早急に採り上げらるゝ處である。これに對しては政府資金の融通乃至は民間資金の活用以待たねばならぬ、然れ共不況の一字と云ふ處から民間資金の動員は何等の補償なくしては不可能視され得るところであり、こゝに於て國家補償法の發動を見ることとなつた。

即ち金解禁の時期切迫、米國經濟界の惡化等より四年九月頃より生絲相場は一路漸落歩調となり、當業者は自力に依つて爲し得る共同保管の實行、全國的操業短縮等の自衛策を講じたが何等の効果なく、市況益々惡化し五年三月一日の横濱清算市場は投げと新規賣物の殺倒て恐慌的慘落を演じ、先物相場は遂に百八圓十錢と大正五年以來の新安値を示現した。こゝに於て政府も生絲が輸出品の大宗たる農家經濟上に及ぼす影響に顧み、愈々三月五日農相官邸に絲價委員會を開き絲價安定融資補償法(四年三月法律第十四號)を適用することを決定した。その損失補償の條件は大體左の如くである。

一、損失補償は五年六月十日迄に融通した資金で補償金額は擔保生絲一荷口に付千九百圓を限度とし、損失補償には公債交付とす

然して損失補償の相手方となり得る者は正金、産組中央金庫其の他横濱又は神戸に於て現に生絲を擔保として資金の融通を爲す銀行で、農林大臣の指定するものとし、その融通條件は

一、擔保生絲一荷口(千斤)に付融通する金額は一萬二千五百圓で融通形式は生絲の製造又は加工



を爲す者の振出したる一覽拂約束手形

とした。斯くて農林大臣は直に融資銀行を指定し、融資銀行は三月十二日正金東京支店に會合、左の申合せを行つた。

一、融資銀行を以てプールを設立し正金を代表者とし、農林省及帝國蠶絲會社に對する交渉は總て正金に於てこれを行ひ、場合に依りては農林省との補償契約を各行別々とせず正金に於て代表してプールとして締結す。

二、融通金額は差當り十五萬圓（一億五百萬圓）とす。（十五萬圓迄貸出す必要な豫想なるも若し十五萬圓を超過したる場合、更に貸出す筈にて唯補償契約の都合上一應限度を設く）

三、引受額は原則として各行同額とす

四、日歩は一錢六厘とす、但し金融界の狀況に應じて引上ぐることを得

五、融資の形式は一覽拂約束手形とし九十日毎に切替ふものとす

なほ絲價補償法に依る融資銀行として農林大臣より指定せられたるものは左記十二行であつた。

關東側 正金、三井、三菱、第一、安田、川崎第百、十五、橫濱興信  
關西側 住友、山口、三十四、鴻池

この補償法が發動されても絲價は依然低落を續けてゐたので、この年十月一日の農相官邸で開かれ

た絲價委員會では補償法による資金融通の條件及び損失補償の條件を變更し、融通資金辨濟期を七年六月三十日限りとし、擔保生絲一荷口に對する補償金の限度を一千六百十六圓増額して三千五百十六圓とした。而して擔保生絲の處分に依り銀行の損失を補償するため政府は六年三月勅令第十八號を以て補償審査會官制を公布、即日施行した。

### 輸出補償法の公布

これと共に政府は曩に商工業に關する重要事項を調査審議するため勅令を以て創設せる商工審議會に貿易改善策を協議せしむる處あり、二年十月に輸出補償制度要項として同會より輸出補償法の制定方を建議したが、濱口内閣に於て金解禁に伴ふ國際貸借改善と不況打開のための國內産業振興と云ふ立場から愈々立法化され、五年五月法律第六號を以て公布、七月商工省令第七號に依り施行規則の發表を見、五年八月一日より實施せられた。斯くて輸出補償法に依つて政府と契約した銀行はその都度商工省告示を以て發表され、現在では全國各地の銀行は全部契約してゐる有様である。而してこの制度内容は政府は爲替銀行と毎年帝國議會の協賛を経たる金額の範圍内に於て包括的の補償契約を爲し、本邦商品の取引上特に支障ありと認められた地方に輸出を爲すため振出された荷付爲替手形を補償銀行が買取りたる場合、その手形の支拂を受くること不能となつた時、その損失に對し政府に於て



ある限度の補償を爲すもので、この補償額を甲乙の二種に分ち、甲種は金融を目的とし手形振出人等に對し全額の償還請求權を行使し、乙種は保險の意味で一部の償還請求權を行使せざるものである。このため甲種に於ける政府の損失補償は七〇%、乙種の補償は六〇%となつてをり、大體荷付爲替手形を原則とするも、對露貿易にありては本邦駐在のソ聯通商代表に商品を買渡し、其の代價として受取りたる約束手形を割引融通することある關係上、對露貿易には約束手形を認めてゐたが、これは二、三年で消滅となつた。其の後この輸出補償法は貿易並に産業を啓發する處多々あるに鑑み、當該産業の振興のため、五大都市の如きは市豫算を以て三重、愛知兩縣は縣豫算にて輸出補償銀行と契約して損失補償を爲すこととなり、これに依つて貿易業者の損失は一層輕減されることとなつた。

## 第二節 金融の梗塞化

### 金解禁半歳の經過

一月十一日金解禁してより半歳の經過を見るに財界は依然沈滞を續け、海外諸國の不況は自國産業保護のための關稅障壁となつて現はれ、我が國輸出貿易はこれがため阻害せられ、海運界の打撃尠少なからざるものあり、殊に商相場の下落は農家の收入を激減したること甚しく、緊縮政策實行により諸

工場の整理、操短、休業は益々其の數を増加し、五年四月一日現在に於ける全國失業者は三十七萬二千二百二十七人と昨年九月一日現在に比し十萬三千五百三十七人の飛躍的增加を示し、此の間政府は中小商工農業者へ低利資金融通乃至は失業者の歸農策として農林省より七千萬圓を融通する等夫々對策を講じたが何等の効果も期待出來ず、政府も殆ど其の對策に手を焼いた始末であつた。

金融界も財界不況を反映して資金需要の擡頭もなく、財界の前途見透難より貸出を嚴にすると共に手許充實に努め、極力資金の回収を圖つたため、手形の更改の如きは一として満足に切替へられたるものなく、殊に單名手形の如きは大抵半額近くに減額された模様であつた。

當時銀行の貸出抑制の原因として絲價安定補償法に依る貸出一億五百萬圓が固定せると金兌換二億二千九百餘萬圓及び新外貨公債の發行に續く内地資金の海外流出等にて市場資金の減少にも金融硬化の一面があつた。

この資金需要減退から日銀の兌換券發行高は金兌換並に在外正貨拂下げ、民間預金増加の諸現象に依つて漸減歩調を辿り、五月十七日には十億三千二百餘萬圓と云ふ大正十年以來の最低發行記録を示現し、九月の金融閑散期に入り十億臺を割り九億六千八百餘萬圓に落ち込むに至つてはその金融梗塞振りは實に甚しかつたと云はざるを得ない。



銀行の成績低下

斯くの如き不況の結果、證券界は極度に悪化傾向を深め、株價の如きは殆ど半恐慌状態に陥り、銀行信託及び保險會社等の大口有價證券所有者の損失は相當額に上るものと見られた。この結果資力薄弱なる地方銀行中には一、二休業するものも現はれた。當時東株で発表した左の上場有價證券を基礎とした數字を見れば四年七月濱口内閣成立當時と五年七月と比較すれば四十一億七千餘萬圓も低落し、銀行決算當日の苦心が如實に看取せられた。(單位百萬圓)

株 式	昭和三年七月		四年七月		五年七月	
	債	計	債	計	債	計
國 債	四、五〇四	一九、四七六	四、三五六	一五、〇九二	四、二二四	一一、五四二
外 債	一、四〇五	一、四七〇	一、三六〇	一、四六六	一、五六〇	一、二二六
地 方 債	一、四七〇	四、九一八	一、四六六	四、八九八	四、四四六	四、四四六
社 債	一、四七〇	四、九一八	一、四六六	四、八九八	一、二二六	一、二二六
合 計	三二、七七三	二七、一七二	二七、一七二	二二、九九八	二二、九九八	二二、九九八

財界の不況は終局に於て預金並に貸出の減少となつて現はれ、これが延いては銀行營業成績にも反

映して左の如く金解禁中の二年間に於ける業績低下は實に甚しかつた。

全國普通銀行收益金並配當金 (單位千圓)

昭和三	四年	五年	六年	昭和三	四年	五年	六年		
總益金	一、三〇二、九四	一、一四、六七	一、〇九一、六二	九六五、六二	總損金	一、一四〇、五七	一、〇三七、九六	一、〇〇五、三九	八四六、〇七
利益金	一、三四、三〇	二、七、八一	一、八、一四〇	一、六三、五二	損失金	一、五〇、二四	一、四〇、五九	一、四〇、五九	一、四〇、五九
配當金	七、八三	九、三三	八、三、七六	七、九五	配當金	七、八三	九、三三	八、三、七六	七、九五
拂込資本金に對する配當金の割合	〇・七〇	〇・六六	〇・六二	〇・五九	拂込資本金に對する配當金の割合	〇・七〇	〇・六六	〇・六二	〇・五九

なほ五、六兩年に於ける全國普通銀行株主配當より推察すれば其の苦難の有様は深刻であつた。

昭和五年	昭和六年		配當シタル銀行	配當セザル銀行	損失シタル銀行
	上 期	下 期			
五七九行	五四三	五〇二	四四一	一三七	一三五
一三七行	一一五	一三七	一三七	一三五	一三五
一一一四	一一一四	一一一四	一一一四	一一一四	一一一四
一一一五	一一一五	一一一五	一一一五	一一一五	一一一五
一一一五	一一一五	一一一五	一一一五	一一一五	一一一五

(資料) 銀行局年報  
第二節 金融の梗概化



### 第三節 政府の低金利利用策

#### 郵便貯金利子引下げ

昭和四年二月に於ける甲種銀行定期預金年四分五厘と改正以來、郵便貯金の年四分八厘の利息は兎角問題視されてゐたが、不況に依る貸出抑制は變態的金融緩慢を生み、一般金利の低下を促進せしめたる銀行業績低下は預金コストの低下策から預金利下げの必要を生ぜしめた。こゝに於て郵便貯金の利子が對照となり、政府に於ても郵便貯金の増勢顯著なると共に一般金利に歩調を合せ愈々利下げを行ふこととなつたが、これは大正四年四月、四分八厘と改正後實に十五年目であつた。斯くて郵便貯金利下げは五年八月十二日の閣議に上程、左の方針を決定し、これに關する聲明書の發表を見た。

- 一、郵便貯金利下げは十月一日より實施すること
- 一、利率は年四分二厘
- 一、据置貯金、植民地貯金の利率もこれに準じて引下ぐるること
- 一、預金部資金の貸付金もこれに準じて引下ぐるること、既往の貸付金に就いても適當に講究すること

#### 聲明書

一般金利の低落に順應して郵便貯金利率を引下ぐべきは豫てより懸案であつたが、金輸出禁止のため財界の動搖甚しく金利の趨勢圖り難かりしたため未だ改訂の時期に至らざりしも、本年一月金解禁斷行後に於ても金利は依然として低利にあり、これを國際的に見るも低金利は一般の趨勢にして當分繼續するものと認めらる。仍て一般の金利に對應して郵便貯金利率も引下げを妥當とす。

而して政府は五年九月二十五日勅令第百八十二號を以て郵便貯金利子を改正し、この利子を六厘下げの年四分二厘とし、植民地も六厘引下げの年四分四厘四毛と改訂した。

大藏省もこの結果、五年九月三十日省令第十七號を以て預金部預金取扱規程を一部變更し普通預金年二分五厘を年二分に、定期預金年五分を年四分二厘に夫々改正した。この資金原價の低下に依つて預金部は各種貸付資金に涉つて利率引下げを行ひ、失業救済等に資する等積極的に活動する處あつたが、又一方資金の郵便貯金偏在の是正を目論見つゝあつたが、郵便貯金の増勢は不況時と云ひ乍らも堅實なる歩調で増加を辿つた。尙これと共に日銀でも十月七日利下げを行つた。

#### 大藏省證券の入札



この不況の結果は政府豫算上にも響き、租税並に官業収入の減退となつて現はれ豫算遂行上重大なる支障を生じ、大藏省證券の發行を以て一時彌縫することとなつたが、その發行額多額に上る現状から低金利を利用して入札發行制度を採用することとした。この發行方法は我が國に於ては明治三十五、六年の兩年に於て一時實施したことがあつたが、其の後中絶してゐたものである。

その方法は資金の運用難に當面しつゝある金融界より、より良く低利を集め有利に發行せんとするもので、入札に依つて低利なるものより割當を決定するもので、五年十二月大藏省令第二十四號を以て入札發行規程を公布、六年一月大藏省告示第二號で大藏省證券の割引歩合の項を削り六年一月發行のものより採用するに至つた。

この結果は何日も好成績で應募總額は規定額の倍にも達する有様で從來の發行方法に比し政府の利得は尠少なからざるものがあつた。即ち當時の商業手形割引率日歩最高一錢九厘最低一錢三厘から想像すれば左の如く實に好成績であつた。

發行日	發行額	應募總額	割引歩合			
			最低	最高	平均	均
一月十七日	100,000	100,100	五厘	六厘	五厘	五七弱
二月十六日	85,000	115,000	五厘	六厘	五厘	五七弱
三月十七日	80,000	110,100	五厘	六厘	五厘	五七弱

三月三十日	六五,000	一八六,000	五厘	五厘	五厘	五四五
五月二十日	六五,000	一三六,三〇〇	四〇	四〇	四〇	四〇
六月十九日	六〇,000	一一五,〇〇〇	三三	三三	三三	三三
七月十八日	六五,000	一一六,五〇〇	三三	三三	三三	三三

#### 第四節 金融機關の自治的協調

##### 横濱正金銀行の正貨現送と金融懇談會の開催

金輸出解禁後は外國銀行に依り屢々正貨現送が行はれたが、輸入季節に入り、買爲替の需要多きため、正金は解禁後八ヶ月にして始めて正貨兌換現送を行ふこととなり、同行はこれに對して五年九月二十三日左の聲明書を發表した。

##### 聲明書

過日來海軍條約問題に關聯して政變あるべきやに宣傳するものあり、又金輸出再禁止等の流説もありたる爲か、各方面に於て例年よりも早く輸入爲替を取極めんとする氣配を生じたる等の事情に因り市場に於て買爲替豫約の需要多く本行は専ら之に賣應じたり、昨今其の勢は大に減退した



れども、既約額相當に嵩みたと尙來るべき輸入季節に於ける爲替需要に應ずる準備のため今より漸次に正貨現送を爲すこととせり

右の正金に於ける正貨現送を始めとし、目下の金融界の現状に於ては各銀行の協力を必要とする諸問題輻輳せるに鑑み、日銀では同行主催を以て特殊銀行を加へたる有力銀行の參集を求め、當面の問題に就いて意見の交換を行ふ金融懇談會が五年九月二十五日日銀に開催された。これが金融懇談會の嚆矢を爲すものであるが、次回の同年十月よりは國債引受シンジケート銀行團を以て構成した。

而して従來は國債引受時に於て國債引受シンジケート銀行團が日銀に參集の折、時事問題を捕へて意見の交換を行つたものに過ぎなかつたが、今後は毎月乃至は隔月、政府當局も問題の如何によつては參會し、意見の交換を爲すこととなつた。

斯る運動の擡頭は同業利害一體關係から生れ、後述の融資聯盟の結成となつて示現した。

### 融資聯盟の結成

即ち一つの銀行が一事業會社に對する巨大貸付は應々にして銀行破綻の因となることは屢々見受けられるところであり、財界不況に依つて見透し困難なる秋に當り普通銀行は預金銀行としての立場上より積極的に融資に乗り出すことは至難であるが、不況打開策として窮極は金融問題に俟つところが

多い。當時に於ても事業會社の金融難が深刻化し、經濟界の惡化殊に株式の落潮が甚しかつた爲、政府は何等かの救濟的措置を講ずる必要に迫られると共に、金融業者としても資金運用難に當面しつゝある際であつたから優良なるものに對しては融資の意向を有してゐた。

斯くの如き空氣が醸成されつゝあつた時、政府は五年六月日銀にシンジケート銀行を招き、井上藏相より政府の財界不況打開策としての産業合理局の設置其の他の方法を以て鋭意合理化に努力中であるが、合理化の方策としては畢竟金融問題であるが爲、金融業者は既往貸出債權乃至は新規貸出すべきものと問はず合理局（商工省内に設置）の専門家に依つて該産業を調査せしめ、これに對して資金的援助を與へる外、なほ進んで積極的に事業の誘導を行はんとすることを要請したるに對し、各銀行家は夫々意見の交換後左の申合せを行つた。

- 一、銀行家は既に融通を必要とする會社の整理促進に就いては銀行間に聯盟を作ること
- 二、金融業者の競争を互に抑制し協調の精神を以て事業の整理を幫助促進すること
- 三、銀行家は目下の證券市價の低落は寧ろ不當の恐怖より來ること少からずと認むるが故に事業に就いて相當調査研究せる投資家に對しては金融の便宜を與ふること

斯くて融資聯盟は五年秋結成さるゝに至り、その目的とするところは有力金融機關が共同して被融通會社の經營を積極的に指導し、その更生を促進するにあつて、その第一次シ團結成は結城興銀總裁



の出現に依つて樺太工業會社に適用を見た。

### 産業調査協會の設立

この外東西有力銀行は融資聯盟結成を期として、資金融通の申込のあつた事業會社の内容調査を行ふと共に既に融通を受けたる事業會社に對しても調査監督を行ふため、銀行、信託、保險等の金融業者を網羅して産業助成共同調査機關とも云ふべき産業調査協會が東西有力銀行、信託、保險の二十九と日銀を加へ三十會社を會員として五年十月創立され、理事長に元勸銀副總裁柳谷卯三郎氏が就任し六年の新春を迎へると共に積極的に調査が開始された。

右の融資聯盟の結成乃至は産業調査協會の出現も當時の慘憺たる事業界の様相を記録するものであり、五年十一月關西銀行大會に於ける土方日銀總裁の演説中に當時の事業界と金融に就いて赤裸々に之を述べてゐることは注目すべきであらう。即ち

元來我が國の企業經營は固有資本よりも借入資本に頼り過ぎてゐた傾がありました結果現今の如き事業界不振の際には常に金融上の壓迫を強く受くる道理でありまして、事業其のものの採算難よりも寧ろ金融難で困つて居るものが多いのも之が爲であります。借入資本の整理は要するに事業と金融の提携と云ふことに歸着致しますが、從來我が國には此の兩者の提携に就きまして誤つ

た二つの傾向がありました。其の一つは事業が自己の機關銀行の資金を直接事業に投資するものでありまして、此の種の投資に伴ふ弊害は過去に於て屢々經驗した所であります。今一つの傾向は事業家と金融業者との間に密接なる連絡がなく、兩者の關係が單に資金の貸借關係に止るものであります。河れも雙方に理解が足りない結果でありまして、眞に事業と金融とが提携致しますには此の關係を改善することが極めて肝要であります。事業家が唯當面の所用資金を調達するのみの考で銀行を利用致しますと、他日其の資金の回收に遭ひ若しくは新規資金の供給が杜絶致しました場合には忽ち窮境に陥ることは明らかであります。又銀行家が事業資金を投じます場合に、収益を擧ぐることにのみ没頭し、眞に事業を育成するだけの理解と同情とに乏しければ、我が國産業界の健全なる發達は庶幾することを得ないのであります(中略)最近金融業者の間に産業調査協會なる共同の機關が設立せられました事業會社の實體を調査することになりましたが、今後の此種の機關の活動によりまして事業經營の合理化を促進すると共に、金融業者の事業金融に對する態度をも改善して、兩者を提携せしむる第一歩を印することになりますれば詢に喜ばしき次第である(中略)何事にも協調的精神を保持することは、財界不況の對策として此の際最も緊要であらうと考へます。先般來一部金融業者の間に所謂融資聯盟なるものが出來まして事業金融の上に共同動作をすることになりましたことなども、要するに此の協調的精神を表現したものであ



りまして、確に機宜の處置であらうと存じます。(中略) 從來屢々申上げました如く相互の利害を共通にすることが協調を保たしむる楔子となるのでありますから、銀行業務の遂行上常に同業者共同の利害に鑑み、此の重大なる時局に處して金融界全般の安靜を保つことに尙一層心懸くることに致したい。

右に述べられてゐる如く融資聯盟と産業調査協會は事業會社救済のため結成せられたのであるが、それは必然的に金融機關の産業關與を強化する結果となつた。同時に事業界も亦大正末期の慢性的不況期に萌芽した企業の合理化運動は、自衛的にもこの不況を契機として一段と促進せられ、産業界には事業整理、操短擴張、冗員淘汰、勞働強化を通じてカルテル又はトラストを形成するものが急増し、産業合理化運動は金融機關の直接的關與の有無に拘らずこの不況期を契機として新段階に入るの觀を呈したが、それは脆弱産業の消滅と存続産業の獨占的形態への再編成を意味し、且つ又金融資本の産業支配傾向を濃化するものであつた。然し乍ら融資聯盟の一助を爲す産業調査協會は其の成績豫期に反して擧がらず、遂に滿五ヶ年の存続期限満了と共に消滅するに至つたが、これは大事業會社の財政並に其の事業全般に涉る調査が如何に長日月を要するかを示唆したものであつた。

#### 水曜會の結成

從來より銀行に於ける協調的精神の發露として各地に手形交換所が設置され、この組合銀行に依つて土地の習慣並に金融情勢の如何に依つて預金利率の協定等を行ひ、業務改善に資する一方、親睦機關たる使命を負ふたが、然し貸出利率に就いては銀行に依つて大抵區々に別れてゐたのである。然るに不況を契機として一層協同動作を要請された結果、東京に於ける甲種銀行たる第一、三菱、三井、安田、川崎第百、正金、鴻池、住友、山口、三十四の十大銀行間に本店銀行は營業部長、支店銀行は支店長を以て貸出利率を協定其の他一般營業に關し打合せを行ふ水曜會が政府の郵貯利下を期として結成された。

貸出利率は従前は預金利率又は日銀公定歩合の上下と共に變更するを常としたが、この結成に依つて今後は金利の實勢につれて、隨時合理的に變更し、以て弾力性あるものとしたのであつた。その會合は大體毎月第一、第三の水曜日に開催された。

この水曜會の前身とも云ふべきは正金を加へたる東京四大銀行の會合で、こゝに於て製絲資金貸出利率を決定したことを嚆矢とし、他銀行はこれに準じて貸出利率を決定して來た。

斯くて水曜會は製絲資金を始めとし、當座貸越日歩、貸出最低利率と漸次その協定を進めて行つた。大阪に於ても東京の水曜會の例に倣ひ、前記銀行間に於て二水會なる協調機關が結成され、その第一回會合は六年七月に於て開催せられた。



### 全國貯蓄銀行協會の創立

貯蓄銀行の會合は從來各地方で開催されてゐたが、五年五月に於て初めて全國の貯蓄銀行大會が大阪に開催され、次で第二回大會が六年四月東京に開催、この席上に於て貯蓄銀行協會創設が正式議案に上り附議決定の上、全國貯蓄銀行六十五行を以て社團法人として貯蓄銀行協會が組織を見、その第一回協會總會を六年十月東京銀行集會所内に開催した。

其の協會創設理由としては

普通銀行、信託會社、無盡業者、信用組合等が何れも自治機關を設け、時代の變遷に備へつゝあるに當り、貯蓄銀行業者が業務創始以來星霜久しきに彌るも、同業者間に協同的施設なかりしは時勢に順應せざるものなることを痛感し、同業者間に此の種の施設を促進せんとするの機運漸く熟すると共に一面主務省の徳意あり、此の機會に於て本會を設立、貯蓄思想の普及と貯蓄銀行利用獎勵を爲すと共に貯蓄機關の理論と實際とを研究し、且つ同業者間の親交及び相互の連絡提携を圖り以て一層公益を擴めんとするにあり

と云ふにあつて、協會定款も右の要旨を盛り、目的事項は左の如くとされた。

第二條 本會ハ貯蓄銀行制度ノ發達ヲ圖リ公共ノ利益ヲ増進スルヲ目的トシ左ノ事項ヲ行フモノ

トス

- 一、貯蓄思想ノ普及並貯蓄銀行ノ利用ヲ獎勵スル爲適當ナル方法ヲ講スルコト
- 二、貯蓄銀行業ノ理論及實際等ヲ研究シ其ノ改善ニ資スルコト
- 三、貯蓄銀行業社相互ノ親交ヲ圖リ事業上ノ連絡提携ヲ密ニスル爲適當ナル施設ヲ爲スコト
- 四、其ノ他必要ト認めタル事項

當時協會の正式會員六十五行（六年四月現在全國貯蓄銀行九十行）であつた爲、毎年協會總會と貯蓄銀行大會とは同時に開催され、全部の貯蓄銀行の加入を見て九年に至りて、貯蓄銀行の全國大會は解消された。尙これと共に創立當初貯蓄銀行協會と稱したものであつたが、十二年四月の協會總會に於てこれに全國の名稱を冠することとなり、當局の認可を得て同年六月より全國貯蓄銀行協會と稱することになつた。

### 第五節 日本興業銀行の進出

#### 結城總裁の登場

興銀は特殊金融機關たる立場上、國家代行機關として財界不況に際し、その特殊機能を十分に發揮



して事業會社救済に積極的に乗出すべきに拘らず、時の興銀總裁鈴木嶋吉氏は從來特殊金融機關が國家に信頼し過ぎて往々にして破綻に瀕せる事情多きに鑑み、自重し過ぎた結果、樺工問題並に中小商工業金融問題其他に就いて井上藏相と意見相違し、土方日銀總裁の仲介もあつたが、結局物別れとなり、遂に五年九月井上藏相は鈴木總裁を被免し、土方日銀總裁の斡旋に依り安田銀行副頭取を辭任し浪人中であつた結城豊太郎氏を興銀總裁に任命した。

こゝに於て結城興銀總裁は政府の意のある處を汲ひと共に内外に涉り積極的に活動を開始し、融資聯盟の結成又は銀行、保險、信託等の全金融業者を網羅して時局金融に對する打合せ等を行ふ金融五日會の創設などその活躍振りは相當見るべきものがあつた。當時結城興銀總裁は馬場勸銀總裁と對蹠的關係にあり、兩者の動きは特に注目すべきものがあつた様だ。

### 事業會社の救済

金解禁の餘波は事業會社の内容を不良ならしめたる結果、銀行は貸出を警戒し、事業會社の年内期限の單名手形は、前述の如く回轉意の如く運ばず、その年末金融對策は關係方面より注視されてゐたが、興銀では政府、日銀と打合せ日銀より各銀行家に、興銀よりは事業家に夫々諒解を求め、大體左の如き成案を得た。

- 一、ブローカーを通じて地方銀行間に流通せる單名手形にして回収を迫られたるときは興銀は相當のものに對しては其の借換に應ず
  - 二、興銀は事業會社より要求あるときは工場擔保を以て資金の融通を爲すべく、而も此の擔保附手形の割引は成るべく之を低利にて行ふ
  - 三、興銀は右の資金に充當するため主として割引興業債券を發行し、若しくは日銀より手形の割引又は國債擔保の貸出を仰ぐ
  - 四、大藏當局は割引興業債券の發行限度二千五百萬圓の擴張を認むること
  - 五、日銀は取引銀行に對して單名手形の回収を急がざるやう諒解を求むること
  - 六、興銀は短期興業債券の引受けを極力市中銀行に依頼すること
- 斯くて興銀では年末金融對策として單名手形救済資金に充當のため割引興業債券（三千萬圓）を五年十一月二回に涉り發行したが、發行方法は從來の慣例を破つて直接全金融機關に賣出したが發行前から諒解あつたこととその賣行は頗る良好であつた。

斯くの如くにして五年九月結城總裁就任以來十二月末迄に貸出したる應急資金は合計六千八百七十萬圓に及び其の被融資會社は約五十會社に達し、事業界の危機として目された同年末は無事經過することを得た。而して此等の融資は金融資本の産業支配傾向として切實に現れた。即ちこの融資は年内



一時的供給たるに止めず、被融資會社の基礎を鞏固ならしむるを目的とし、右諸會社の内容を精査して十分なる整理を行はしめ出來得る限り改善を奨励し以て合理的經營に進ましむるは勿論、金融上に於ても從來の過大なる短期借入金をも有する會社に就いては或は此の輕減を圖り、或は長期社債に借換を行はしめる等又一方減資、減配、無配等經營上の改善に關して注意を喚起し、殊に社債發行を引受くる場合は之を擔保附とするは勿論、減債基金の積立をも勸告し、社債權者の利益を擁護して金融資本の動員を容易ならしむる處あつたが、これは亦事業金融機關たる興銀の常道でもあつた。

又興銀は前述の如く事業會社の救済に積極的になり出したが、其の資金が正當有效に使用せらるゝや否や、又其の元利金が圓滿に回収し得るや否やは債權者債務者双方に取りて重要であるばかりでなく、是等事業會社の更生は我が國事業界をして經營を合理化に誘導するの端緒となるべきものであるから、被融資會社の經營の全體或は會社計理上の監査を爲さしむる必要上、行員の内より有爲堪能なる者を當該會社の樞機に參與せしむることとなり、五年十一月に融資會社の業務監督として理事松本弘造氏を樺太工業會社の専務取締役として送り込むに至つた。當時從來からも興銀より被融資會社の役員として在任の儘任命されたものもあつたが、五年下期から此の方面の送り込み人事は相當積極化した。左の數字は當時の事業金融に對する興銀の進出を物語るものである。

四ヶ年間に於ける期末貸付及割引手形現在高 (單位千圓)

昭和四年		五年		六年		七年	
上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
貸付高總額		割引手形總額		合		計	
二五、四四	三〇、三三	七五、五三	七二、五八	三五〇、六〇	三〇、六三〇	三九、六三	三五、三五
三〇、九二	三〇、八四	六、七二	三三、七〇	四六、六七	四六、〇〇	四八、二九	四六、〇九
三三、八七	三三、八三	一〇、七四	二八、二六	二四、四二	一〇、〇一	三九、六七	三九、六七
三九、八五	三九、六七	二四、四二	二八、二六	一〇、〇一	三九、六七	三九、六七	三九、六七
三九、六七	三九、六七	二四、四二	二八、二六	一〇、〇一	三九、六七	三九、六七	三九、六七
三九、六七	三九、六七	二四、四二	二八、二六	一〇、〇一	三九、六七	三九、六七	三九、六七
三九、六七	三九、六七	二四、四二	二八、二六	一〇、〇一	三九、六七	三九、六七	三九、六七

(資料) 日本興業銀行最近十年史

### 融資の積極化

事業會社の疲弊と共に資金薄弱なる中小商工業者に於ける疲弊困憊は不景氣の深刻化に連れ一層加重し、これが救済は社會問題化すると共に切實なる要望となつて現はれた。中小商工業者融資に就いては從來は政府資金に依つて賄はれて來たものであつて、その貸付機關としては興銀、勸銀、産組中央金庫、各地農工銀行、北拓等の政府機關乃至は前記金融機關經由普通銀行に於て融資を擔當せるも



のであつた。

興銀に於ける中小商工業者に對する融資は昭和元年より漸次積極化を帯び、營業上新局面を開き政府資金が其の貸出を打切つた場合と雖も自行資金によつて融資を續けて來たものであるが、結城總裁の就任と共にこの方面にも進出體制を取るに至つた。即ち五年下期に於て不況に伴ふ物價下落に依る製品値下りのため金融梗塞せるものを救済せんが爲、各業者十人の團體貸付を開始し、各人の責任額を定め、一定金額を擔保附を以て貸出すことに決定せる外、規模の大中小を問はず一般工業の金融に當り、營業者の人的竝に信用と其の業績に重點を置き積極的に活動を開始した。當時之を全國的に行ふ關係から三年五月の名古屋支店開設に引續き七年二月に福岡支店を設置するに至つた。其の間の實情は左の數字が雄辯に物語つてゐる。

期末中小商業資金貸出現在高 (單位千圓)

昭和四年	各期末現在高		各期末累計高	
	口數	金額	口數	金額
上期	一、七二	一九、二六一	二、四七	三、一七
下期	二、一〇〇	三三、七〇	三、〇三三	五、八四三
五年上期	二、五二	二二、九八	三、六四	三九、四〇七
下期	二、七七	三二、九五	四、二二六	四一、七〇七

六年上期	二、六二	三三、四六四	四、五二	四五、三九三
下期	二、三三	三三、一五	四、八四五	五〇、二四三
七年上期	二、一〇	三三、五九	四、九六四	五二、一九七
下期	一、六四	二二、四二	五、〇三五	五三、二四八

備考(七年下期は政府資金を含む)

(資料) 日本興業銀行最近十年史

又當時不況の結果、全國酒造業者の多數が經營難に陥り、年四期分割納付の酒造税の調達にすら苦しみ、同業者は酒造組合を経て大藏省に低利資金融通方を懇請し來り、政府は六年三月より興銀を通じて清酒を擔保として特別融通を行はしむることとなり、同月第一回分として預金部より三百萬圓を融通することとなつた。其の貸出條件は興銀に於て擔保酒を信託讓渡を受け、各地酒造組合が代理占有を行ふ形式をとり、擔保價格は一石三十圓とし、稅務署長の確實と認めたるものとした。

斯くて貸出は開始されたが、實際融資額は百八十七萬圓と餘り振はなかつた。これは地方銀行が興銀に倣ひ酒擔保貸出を開始せると酒造組合が保證する關係から組合幹部が大酒造家なる場合は同業者を驅逐せんが爲金融拒絶の傾向にあつたことに基因せる結果で、これが排除と共に一層新貸出に努めつゝあつた。



資金偏在傾向に伴ひ金融は漸次緩慢となり一般金利も低下傾向にあつたが、船舶金融上の金利は依然高率を保持するのみならず、經濟界の不況に伴ふ海運界の不振、延いては船腹過剰を招き業界の沈衰甚しきものがあり、この救済策として政府は五年五月船舶金融利子補給案を決定し、興銀及び其の他銀行の造船資金融通に對し貸付金額五百萬圓を限りて、補給金を支出することとなつた。即ち總噸數五千噸以上、半載速力一時間十四海里以上の鋼製貨物船の造船資金であつて、その補給金は貸付金額に對し年一分五厘に相當する金額で貸付には大藏大臣の承認を要した。

右の貸出が開始されても斯界の不況は益々深刻を加へ金融は梗塞し海運業者の困難は一層加重し、殊に中小船主の窮狀は察するに餘りあるものがあつたから、興銀では大藏省の諒解を得て五年十二月より左の如き運航資金の融通を開始した。

- 一、近海一、二區を除外したる遠洋に就航する運航者（備船者をも含む）に限り貸付くるものとす
- 一、資金貸出希望の運航者に對し一航海の運送契約全部を提示せしめ右契約運賃の五割乃至六割を限度として貸付くること
- 一、期間は一航海、利率は市場金利
- 一、貸付の形式は運航者振出し約手の割引とすること

一、可及的に擔保設定を希望するも無擔保の場合は運航者より運賃取立の委任狀を提出せしめ且貸付金額に相當する運賃に對し本行をして優先的債權を確保せしむること

即ち運賃収入の限度に於て融資するもので、大體百萬圓を之に充當し往航運賃の最高六掛を日歩二錢見當て融通したものである。

右の如く興銀の船舶金融は船舶抵當に、造船に、運航にと漸次其の貸出範圍を擴大し、船舶金融の開始當初たる大正七年下期末現在五百八十四萬五千圓を示したものが七年下期末に於ては五千五百三萬八千圓の巨額を算するに至つた。

## 第六節 朝鮮銀行浦鹽支店引上げ

### 浦鹽支店検査問題

五年も不況と正貨現送と云ふ二問題で越年せんとする秋に當り、突如外交問題も折込んだ朝鮮銀行浦鹽支店問題が惹起された。同支店は鮮銀營業部門に對する有力支店であつたからその歸趨は注目された。

同支店は、大正三年第一次歐戰勃發し露國參戰により、我が對露輸出貿易激増の結果、鮮銀は浦鹽



斯德所在長崎十八銀行松田頭取の名義に依る個人企業の松田銀行部（資本金十萬留）を大正五年三月買収の上、一時同名義で營業したが、其の後浦鹽支店と改稱したものである。

歐戰の結果、遂に帝政政府没落し西伯利亞政府出現に伴ひ同政府の認可を得て本邦既存支店たる鮮銀、正金、香上の三行は營業を續けてゐたが、種々の事情から正金は、大正十三年三月、香上は同十四年九月支店を閉鎖するに至り、獨り鮮銀のみは哈爾濱支店の浦鹽經由特産物金融其の他の關係上、露國に對しても利便とする處多きを以て全露唯一の外銀支店として存續してゐたのである。

然るに漁業問題に關聯して日露兩國間に紛擾起るや、勞農政府は五年に入り神戸市所在の自國銀行たる極東銀行支店の引上げを行ひ、この交換として、鮮銀浦鹽支店の引上げを懲慝し來つたが、鮮銀としては既得權の侵害であるとして譲らなかつた。

斯る抗爭のうちに露國官憲は五年八月突如浦鹽支店の業務に就き辛辣なる検査を始め、五十餘日に互つてこれを繼續し、九月に入り過去十ヶ年に互つて許可されて來た鮮銀特權の露國自由相場買賣並に外國向送金を嚴禁し來り、其の後に於ける壓迫は益々甚しく十二月には遂に同支店の閉鎖を命令し來つた。

### 浦鹽支店の引上げ

斯くて事件は愈々重大性を孕み、政府も漁業問題と絡んでルーブル換算率並に浦鹽支店問題と共に外交交渉を進め、迂餘曲折を経て日露兩國間に圓滿に解決を遂げ、鮮銀は左の解決案に基き任意に同支店を閉鎖することに決定し、六年五月二十五日迄に同支店の清算を行ひ同年七月十五日無事閉鎖引上げを完了した。

- 一、鮮銀は浦鹽支店の任意的撤廢をなす
- 二、右に對し鮮銀支店の清算事務は鮮銀自身に於て之を行ふ
- 三、「ソヴェット」政府は問題の追徴金二百五十萬ルーブルの賦課要求を撤回す。鮮銀行員に對する起訴等は之を停止す
- 四、鮮銀支店の撤廢に對し「ソヴェット」側は鮮銀支店の動産不動産に一手を觸れざるものとす
- 五、鮮銀は浦鹽支店撤退迄に支拂を了せざる預金にして「ソヴェット」側預金者の分は之を國立銀行に供託し、其の他の預金者の分は東京支店に於て支拂を爲す
- 六、鮮銀浦鹽支店引上げの期日を以て當問題に關する懸案一切を解決するものとす

然し鮮銀は現在露領に店舗を有してゐないが、露國との通商取引に關する金融援助の根本方針には毫も變りなく、其の後に於ても能ふ限りの便宜を供與した。



### 第七節 第五十九帝國議會

#### 抵當證券法の制定

金融疏通問題に關聯して不動産の資金化は夙に要望され、三年十二月に於ける金融制度調査準備委員會にても不動産金融の整備改善策として抵當證券制度の活用が議題となり、不動産協會も積極的に政府に建議し、井上藏相もこの點痛切に感じて居たから抵當證券法竝に右に伴ふ不動産銀行の業法改正を金融制度調査會に提案し、同會は結局政府原案通り之が可決を見、第五十九議會に提出され、通過を得て公布施行されたが、右法案は同議會の金融法案の最大を爲すものであつた。

而してその抵當證券の内容は土地建物又は地上權を目的とする抵當權を有する者は、債務者等と特約ある場合には、登記所に抵當證券の下付を申請することが出来る。其の抵當證券が發行された場合には證券に記載したる抵當權は債權と共に其の裏書に依つて讓渡され、従つて爾後一々讓渡の登記を必要とせずして轉讓され得る。又抵當證券に裏書を爲した者は抵當權の實行により債務の辨濟を受けたる殘餘の不足額に就いて辨濟の責任を負擔するものであるから、其の裏書人に信用ある場合には、一々擔保たる不動産に就いて調査をなさずとも安心して抵當證券に投資することが出来る。

なほ證券發行後は抵當權及び債權の處分は證券を以てするに非ざれば之を爲すことを得ざるものとし、又權利の行使には證券の所持を必要とするのであるから、抵當證券は一種の有價證券であつて其の性質が手形と類似してゐる。故に手形に關する多くの規定が準用されてゐるが、また民法第七十七條の規定によれば、物權の得喪及び變更は登記を爲すに非ざれば第三者に對抗することが出来ないことになつてゐるが、本證券による抵當權は此の大原則の例外を爲してゐる。要するに抵當證券は不動産抵當附債權を手形の上に表はした様な證券である。

斯くて議會の協賛を経て公布され、六年八月一日より施行を見たがその關係法規は左の如くてある。

一、抵當證券法 六年三月法律第十五號

一、抵當證券法施行細則 六年七月司法省令第二十二號

一、抵當證券法の施行期日及施行地域 六年七月勅令第百八十三號

#### 不動産銀行の業法改正

抵當證券法施行に關聯して金融制度調査會では不動産金融改善策として政府に對して左の建議を行つた。



一、不動産を抵當とする債権（抵當證券を含む）を質とする定期償還貸付を勸銀、農工、北拓の業務とすること

二、抵當證券の買入を勸銀、農工、北拓の業務とすること

抵當證券の買入れは之を貸付と看做し、各行の貸付に關する法律の規定を適用すること

三、勸銀、農工の機能を一層發揮せしむる爲、必要に應じ其の支店又は出張所を増設せしむること

四、普通銀行の不動産抵當貸付に付ては、原則として之を拂込資本金及び積立金の限度に止めしめ唯所在地方の状況及び當該銀行の資本の構成状態等に照し、定期預金額を相當右限度に加ふることを適宜考慮するの方針を變更せざること、右制度に付ては法律規定を設けず検査及び監督の方面により漸次之を勵行せしむること

斯くて大藏省では右の要旨を汲み、成文化し同議會に提出、夫々通過と共に六年八月より施行した。この法律は不動産銀行の營業範圍が相當擴大されたものであつた。

一、日本勸業銀行法中改正法律 六年三月法律第二十一號

一、農工銀行法中改正法律 同 法律第二十二號

一、北海道拓殖銀行法中改正法律 同 法律第二十三號

その内容は、何れも抵當證券の買入を認めたことは同じであるが、勸銀にありては、不動産の貸付

に對しては拂込資本金及び積立金總高に相當する金額に限つたものを、之を二倍に擴張し、十人以上の連帶貸出に對し、五年以内の定期償還のみであつたのを、十ヶ年以内に於ける年賦償還を認めた。農工銀行にありては勸銀と同様、不動産貸付に對し拂込資本金及び積立金總高の二倍迄許容せると、農工債券發行限度十倍を十五倍に擴張した。

北拓に對しては農工と同じく債券發行限度を十倍より十五倍迄とした等が主なる點であつた。

### 貯蓄銀行法の改正

金融制度調査會ではこの外貯蓄銀行法の改正方に關し左の如く建議した。

一、貯蓄銀行は特殊事情のあるものの外、一縣一行の程度に達せしむるを以て理想とし、漸次之が達成に努むること

二、貯蓄銀行本店所在地以外の府縣に於ける支店、出張所及び代理店は成るべく之を認可せざる方針を採り、既に認可し居れるものと雖、他府縣内に於ける代理店の如きは事情の許す限り整理せしむること

三、貯蓄銀行が外務員を使用して貯蓄の勸誘又は集金を爲す場合には、其の地域を一定せしめ、遠隔なる地に外務員を出張又は駐在せしめ、勸誘又は集金に従事することを得ざる様取締ること



四、貯蓄銀行の業務中に (イ) 國債、地方債又は特別の法令に依り設立したる法人の債券の割賦販売を加ふること (ロ) 右有價證券の募集の取扱又は其の元利金の代理支拂の取扱を認むること

五、資金及有價證券の運用範圍を擴張すること

六、大藏省預金部への預け金を以て供託有價證券に代用することを認むること

この内容を盛つた貯蓄銀行法中改正法律案は六年三月法律第四十一號を以て公布、六年七月より施行されたが、貯蓄銀行法施行細則も六年六月大藏省令第二十號に依り一部改正された。

主なる改正點は債券の割賦販売を認めたる結果、有價證券割賦販売業法の一部適用を受けることとなつたことと、資金の運用範圍を擴張したることである。即ち

- 一、有價證券の給付を受くべき債權者に對し既に拂込みたる賦拂金を限度とする貸付
- 一、道府縣市町村に對する一年内の貸付
- 一、割賦償還の方法に依る二年内の貸付
- 一、信託會社へ爲す金銭又は有價證券の信託及び信託會社の引受ある手形の買入
- 一、割賦償還の貸付に對し相當制限を設けたこと

なほ施行細則の改正は有價證券割賦販売と運用規程の擴大から其の取締は一層嚴重となり、業務方法記載事項に勧誘又は集金の地域、方法及び經費に關することの一項を加へたことにある。

又この改正に依つて貯蓄銀行は大藏省預金部預金取扱規定に依り定期年四分二厘、普通年二分を以て預金部に預金し得るに至つたので従來コール市場に放出した資金を引上げ又は所有公債を賣却して同部に預入するもの多きに加へ、業法改正以來の該金額は約五、六千萬圓に上る現狀に鑑み、大藏省では預金部の運用難と金融市場壓迫の懸念濃厚となつて來た關係から、六年八月大藏省令第三十一號を以て預金部預金取扱規程第十二條の改正を行ひ、法律に依り預金部へ預金の預入を認められたる法人の預金に附する利子は普通預金年一分、定期預金年三分七厘とし、即日之を施行した。

### 新銀行法の實施延期運動

新銀行法の法定資本金猶豫期間の逼迫に伴つて無資格銀行は議會開會中を利用して猶豫期間の延長を策し、賛成者六十五行を得て全國地方銀行聯盟なるものを組織し、六年二月大要左の如き宣言書を發表すると共に、其の旨を貴衆兩院に陳情した。

輓近地方町村の疲弊は其の極に達し諸種の寒心すべき社會問題を惹起しつゝあるは邦家の爲遺憾に耐へざるところなり、今や全國地方銀行の大部分は銀行法資本金法定の制限と、大藏省の單獨



増資不認可の方針の下に銀行内容の如何を問はず、昭和七年を以て解散、合併その一を擇ばざる可からざるの運命下に置かれたり、不用意なる合併が、如何に大なる弊害あるかは幾多の先例が雄辯に之を物語り居る所にして、今更多言を要せず、餘す所僅に一年有餘の期間を以て是等の銀行にして消滅せんか、地方金融は忽ち杜絶し、産業の萎靡不振は個人經濟の不振を伴ひ、由々敷き惡諸相を惹起するは火を賭るより明らかなり、我が國の經濟界は世界的不況の影響と、我が國獨特の事情に依り深刻なる悲境に陥り、短時日を以てしては到底解散合併共に實行不能の状態にあり宜敷銀行法猶豫期間を延長して堅實なる發展を圖り、以て地方産業の振興に貢獻するは、最も緊要のことなりと信ず

茲に所信を披瀝して天下に宣言す

## 決 議

## 一、銀行法猶豫期間の五ヶ年延長を期す

右の運動は議會内に反映し、一部衆議院議員より、地方銀行合同方針の緩和及び該期限の延長に關し大藏當局に對し要望したが、當局は期限延長の件は絶對反對であるが、單獨増資に就いては考慮の餘地ありとして當局の方針を明らかにした。然し尙一部議員より猶豫期間十ヶ年延長の法律案の提出を見たが、衆議院は迂餘曲折を経て通過したが、貴族院に於て委員附託となり、委員會は審査に着手

せず流産となつた。

## 第八節 議會後の銀行政策

## 銀行の整理進捗

財界不況の結果として、全國の銀行は利潤低下から經營困難となつて來たことは既述した通りであるが、緊縮政策の強行が資力薄弱なるものに對する壓力は大であることは豫想し得るところであつて、而も地方銀行は農村不況より預金額減少から窮迫著しく五年七月迄に於ける休業銀行は五行に過ぎなかつたが、年末接近と共に増加し五年中に於ける休業銀行十二行預金總額約五千萬圓に上り、又睡眠銀行と云はるゝ開店休業の銀行九行を擧げ得るに至つては如何に銀行界に對しても不況が深刻であつたかが看取される。

金融恐慌後毎年十行以上の休業銀行が發表されてゐるが、其の内重役の不始末の外大部分は不動産貸付の固定に原因してゐる實狀から大藏省の抵當證券制定の根據も實にこの點にあつた。然し休業銀行の一面に金融恐慌の經驗に基く預金者の自覺と銀行検査の勵行から招來したことも一理由として數へられる。



當時銀行自體もその保全策として當局の懇諭に俟つことなく、自發的に整理の方法を講じ、以て其の基礎の確立を圖るものも多く散見した。即ち買入減資の強行と自發的の合同の二方策で、兩者共不況切抜策としては最善なものであつた。

この結果、六年六月末現在に於ける新銀行法に依る無資格銀行は二百三十九行に減少したが、其の内譯は左の通りである。

- 一、資本金を二百萬圓以上とし、且組織變更を要するもの四行（但し東京、大阪に本支店を有するもの）
  - 二、資本金二百萬圓以上となすを要するもの十九行
  - 三、百萬圓以上となすことを要するもの八十一行
  - 四、百萬圓以上とし且組織變更を要するもの十三行
  - 五、五十萬圓以上となすを要するもの百八行
  - 六、五十萬圓以上とし且組織變更を要するもの十三行
  - 七、單に組織變更を要するもの一行
- 更に之を地域別に見ると十行以上を有する所は、東京府の二十四、兵庫縣の二十三、山形縣の二十、静岡縣の二十一、福岡縣の十一行で、既に整理に依つて無資格銀行の存せざる地方は、岩手、愛

知、三重、島根、山梨、徳島、香川、宮崎の九縣を算した。

#### 今後の整理方針

大藏省では第五十九議會の公約に依つて、從來の整理方針に多少の變改を加へて其の基礎の堅實優良なる銀行に對しては單獨増資を許可することとなつたため、地方銀行中には合併を避けて此の方法に依らんとするもの漸次多さを加へんとしつつあつたが、大藏當局はこれに對し左の如き嚴選主義を以てのぞんだものであつて六年中に單獨増資を許容されたもの七行に過ぎなかつたことは此の間の消息を物語るものであらう。

- 一、預金の總額が少くとも拂込資本の三倍以上にして増資後と雖も其の均衡を失せざるもの
- 二、隨つて貸出も亦比較的大なることを要し而かも不良貸に非ざること
- 三、資本金に對する収益割合良く増資後と雖も單獨營業を繼續し得る見込あるものなること
- 四、當該地方に於て競争的立場にある有力銀行なく、從來より其の地方の中心的金融機關としての地位を確保し來れるもの

右嚴選主義採用の結果、地方銀行中に於ては解散を要望するもの多く、其の大部分は解散後金融業に轉身せんとし當局に認可申請を爲すもの多かつたが、當局は預金拂戻の具體案樹立の上、信用組合



又は商會社として之を許容した。

尙三年二月より行つた銀行の實地検査は、六年三月迄に五大銀行を除き全國的に一應終了したので、今後は特殊の銀行を目標として検査を行ふと共に既に完成せる基礎的調査に基き之を補正する方法を採用することとした。

### 第九節 金輸出再禁止

#### 英國の金本位制停止

變態的金融緩慢と低金利は不況の深刻化と共に六年に入つても猶續き、東京社員銀行は四月一日預金利子の引下げを行ひ、全國主要都市も亦之に追隨するに至り、日銀の民間預金三億八千萬圓を越えろと共に兌換券發行高は九億四百萬圓に收縮し、六月にはコール日歩三厘と云ふ空前の安値さへ出現したが、これは有力銀行への預金集中にも原因するが、畢竟銀行が貸出を手控へた爲であつた。斯く金利が低下した上に金流出も一段落を示したので我が國金本位制の危機も一旦は去つたかに思はれた。然るに六年九月に突發した二大事件、即ち十八日の滿洲事變と二十一日の英國金本位離脱によつて我が國の金融情勢は劃期的轉換の關頭に立つた。

金解禁以來財界の實情は前述の如く日を逐つて悪化し、金本位制維持に對する不安は既に一般財界の底流となりつゝあつたが、英國の金本位制停止は推定二億圓に上る我が國の在外磅資金を倫敦に抑留したのみならず、磅下落による對外貿易の打撃は、深刻なるべきことが豫想せられた。然も從來世界最強の通貨として認められてゐた磅さへも、世界恐慌の前には金本位を停止せざるを得なかつたと云ふ事實が著しく財界を衝撃したのである。澳太利の銀行破綻に口火を發し獨逸を席捲し更に英國を混亂せしめた世界貨幣恐慌も、獨逸の恐慌や米國の戰債モラトリアムが行はれてゐる迄は未だ我が國に於ては對岸の火災視せられてゐたが、英國の金本位制離脱は世界金本位制の没落、従つて我が國の再禁止を豫想せしめ、茲に我が通貨爲替史上に記録せらるべき弗買圓賣戰が展開せられ、この攻防の結果は我が國の金本位制を崩壞の瀬戸際に迄押し詰めた。

#### 金本位擁護に關する申合

また英國金本位停止の三日前に突發した滿洲事變は、事變其のものより生ずる打撃よりも寧ろ之を契機として支那全土に波及する排日氣勢より受くる損害は重大なるものありとされ、内外市場は兩事件を折込んで我が國の金輸出再禁止近きにありとして、圓爲替暴落を期待する圓賣弗買の爲替思惑が猛然と擡頭した。政府竝に日銀では金再禁止の意思なきを再三聲明するところあり、海外に對しては



日銀倫敦及び紐育在勤監督役より夫々「日本政府及び日本銀行は其の輸出禁止を必要とするが如きことは斷じてなき旨」の公式聲明を發表し、思惑的弗買敢行に對して正金をして爲替維持のため、必死の防戦賣を實行せしめるところあつたが、時既に遅く財界は完全に自信を喪失し、且つ倫敦に資金を封ぜられた打撃も加つて正金には弗買が殺倒し、茲に解禁後最後の而して最も痛烈なる金流出が起つたのである。

これが爲、日銀では十月六日、十一月五日と矢繼早に各二厘宛の公定歩合の引上げを行ひ又正金は爲替の賣方針を變更して貿易關係以外の弗爲替賣を制限する等弗買用資金の調達を抑へると共に投機分子の混入を極力防遏して弗買運動に對抗し、又爲替思惑銀行には資金の援助をなさざる旨を聲明し、外貨邦債を日銀擔保から除外し、更に民間銀行の預金利子引上げを強要し、民間銀行も遂に十二月十四日定期五厘其の他日歩計算のもの各一厘の引上げを行ふ等、あらゆる手段を講じて決済資金の調達を不可能ならしめて思惑筋を抑制したが、依然弗買は容易に終熄せず、年末接近と共に金融の前途は逆睹しがたきものが豫想されるに至つた。こゝに於て實業家側の提議によつて六大都市實業家有力量と政府との間にこの難局打開の懇談會が十月竝に十一月兩度に涉つて開催され、井上藏相より最近の經濟界とこれに對する政府の方針を説明し、實業家よりは財界安定に關して政府に對する希望を述べ、各自腹藏なき意見交換後、左の申合せを行つた。

## 金本位制擁護に關する申合せ

英蘭銀行の金賣買停止後我が國國際貸借關係の順調なるに拘らず、我が國正貨の海外に流出する金額の頗る巨額に上りたるため我が金本位制に付種々の論議を爲すものありと雖も、目下金の輸出禁止を必要とする理由なきのみならず、輕々に之を行ふことは對外爲替相場の下落と激動により我が國經濟界の根柢に變革を來すものにして、殊に目下滿洲事變に伴ふ國際政局の重大なるに鑑み我が國人は此の際金本位制を擁護することの必要を認め、其の目的のため官民一致協力すべし

之に續いて東京手形交換所でも十一月の經濟調査會に於て、東京銀行界代表たる池田理事長より財界有力者懇談會の模様に就いて報告あり、經濟調査會としても右擁護に關する決議を行ひ、これを發表しては如何との動議もあつたけれども、結局前記の決議に對して共鳴の意思を表示するに止めて散會した。

## 金輸出再禁止斷行

斯る財界各方面のモラル・サポートを得たるに拘らず、九月下旬以來僅か三ヶ月餘の間に四億圓近い正貨が流出し、これが急激なるデフレーションを惹き起し、七月初迄持續した變態的金融緩慢は一



舉に引締に急轉し、株價は金解禁直前の位置に比し二割九分強、物價は同じく二割七分強と云ふ激落を演じ、財界は悲境のどん底に陥つて最早我が國の經濟界は金本位制固守によるデフレーションの打撃にこれ以上堪え得ない限界に迄達した。

然も金融の前途は益々逼迫を豫想せられ、且つ正貨流出に依る銀行預金の減少は一層激甚を加へた上に日銀の正貨準備は五億圓を割らんとし、この上現送を繼續することは財界に如何なる危機を來たさしむるやも知れぬ情勢を現出した。一方又事業界の不振は當然に國家財政に影響を及ぼし、租稅收入、官業收入の激減によつて財政は漸次窮乏化し、七年度豫算の編成には何等かの形式による公債の増發が不可避の情勢となり、財政方面に於てもデフレ政策の強行はその矛盾を急激に擴大して來たのである。

斯くて弗攻防戦は政治的色彩を孕むに至り、十一月中旬野黨たる政友會が再禁止の斷行を、又與黨たる民政黨が金本位絶對擁護を夫々黨の決議として發表するに於て完全なる政治問題と化した。かゝる逼迫した情勢の裡に政民聯立内閣論を動機として若槻内閣は崩壊し、十二月十三日犬養政友會内閣が成立した。

同内閣は刻下緊急の對策たる金輸出再禁止を決定し、同日官報號外を以て左の如く公布し即日之を實施した。

大藏省令第三十六號

金貨幣又は金地金を輸出せむとする者は大藏大臣の許可を受くべし

前項の規定に違反する者は三月以下の徴役又は百圓以下の罰金に處す

地金として販賣し又は使用する目的を以て金貨幣を蒐集、鑄潰又は毀傷したる者の罪亦前項に同じ

一 附 則

本令は公布の日より之を施行す

政府は右に伴ふ銀行券の金兌換の禁止に關し協議の結果、右に關する緊急勅令を奏請することとなり、其の理由を左の如く聲明した。

我が國は金輸出解禁以來内外の情勢により財政經濟極度の行詰を來たし、最近は巨額の正貨流出に伴ひ金融梗塞甚だしく、財界は深刻なる影響を蒙り、此の儘推移するを許さざるに至れり、依つて現内閣は金の輸出禁止を行ひ時局を匡救するの急務なるを認め昨十三日組閣の劈頭に於て金輸出取締に關する大藏省令を公布せり、然れども日本銀行其の他の發券銀行の金貨兌換に關する規定を其の儘となし置くとときは、兌換の要求により正貨準備は更に減少するの危険あり、我が國保有正貨の現狀に照し憂慮に堪へざるを以て、銀行券の金貨兌換を當分の間一般的に禁止し大藏



大臣の許可を得たる場合に限り兌換を認むることとするの必要あり。而して數日以來の日本銀行に於ける兌換要求の實情に鑑み法律案を帝國議會に提出するの暇なきを以て緊急勅令により速に斷行するの要あり。

この趣旨に基き同十七日の官報號外を以て日銀、鮮銀及び臺銀は當分の内大藏大臣の許可を得たる場合を除くの外、兌換銀行券の金兌換を爲すことを得ざる旨勅令第二百九十一號を以て公布すると共に、金を主たる材料とする製品、又は金の合金輸出の場合に於ても亦大藏大臣の許可を受くべき旨同月二十一日大藏省告示第三百十號を以て公布し、これと同時に日銀に對しては金地金賣却の場合には兌換同様大藏省の認可を要する旨の通告を發した。

### 正金の弗賣越問題

この金兌換停止に依つて、さしも激甚を極めた攻防戦も遂に弗買側の勝利に歸して終熄し、第二次金本位制は再開以來僅か二十三ヶ月で再び崩壊したのであつた。然しこの一片の法令に依つて金輸出禁止は解決したものでなく重大なる問題が後日に残されることとなつた。

即ち正金は政府の命令に依つて爲替統制賣を行つて來たもので、九月二十一日の英國金本位制停止以後僅か三ヶ月足らずに賣應じた金額は五億一千萬圓の巨額に上つたものであつて再禁止當時に於ける正金の弗賣越額二億六百萬圓を今後如何に處理するかが問題であつた。當時正金の弗統制賣の内容は左の如くであつた。

- 一、五年七月三十一日より六年十二月十二日に至る弗總賣高七億五千四百萬圓
- 一、現送總金額四億六千五百萬圓（内譯七月三十一日から十月二日迄に一億一千百萬圓、十月三日から十二月十二日迄三億三千四百萬圓、十二月二十四日二千萬圓）
  - 一、輸出入爲替の出合に依り決済したるもの一億三千三百萬圓
  - 一、現送を要する金額一億五千六百萬圓

即ち正金は一億五千六百萬圓の金現送を行はなければ弗賣に對する爲替差損は莫大に上るものと推算され、政治道徳上からこれが解決は重視せられてゐたが、其の後土方日銀總裁の政治的手腕に依つて大體正金は九月二十一日以後の統制賣中自行の勘定に屬するものは解合又は輸出ビル及び海外市場に於ける電信爲替買入を以て整理し、其の殘餘は大藏省の認可を得て七年一月下旬三千九百萬圓の正貨を現送して表面的に現はれず、圓滿解決を遂げたことは當時の財界の現狀より見て喜ばしいことであつた。

### 三井の聲明



この金解禁は後述の如く一面無理があつたことが推察出来るが、當時三井銀行並に三井物産會社の金現送額が餘り多額であつたため、世間より疑惑の眼を以て見られ、これがため三井物産では世間の誤解を一掃するため六年十二月左の聲明書及び弗爲替取極表を發表した。

聲明書

三井物産會社に於ては現下の不況時に於ても輸入貿易は年額約一億五千萬圓（輸出貿易は一億九千萬圓）に達し、其の月額一千二、三百萬圓に上れるが、從來、買入資金は日本より送金せず積出地の銀行より逆爲替を取り日本に於て之を決済し來りしが、近年逆爲替の取組困難となり、殊に英國金本位停止後其の狀勢は頗に甚しきを加へたる結果、已むを得ず日本より送金する必要を生じたるを以て、年内常用實需引當として横濱正金銀行より輸入爲替約一千四百八十萬弗を買入れ、輸入代金の支拂に支障なからしめんことを期したり。然るに金の流出防止は國策として必要なるにより正金銀行と懇談の結果、當社の輸入爲替に對しては必ず之に相應する輸出爲替を提供することとし、雙方相殺の結果、當社の輸入品に關する限り將また當社の買入れ弗貨に關する限り絶對に金の輸出を來さざるやう取計ひ我が國策に順應する次第にして、今後も此の方法を實行することになしつゝあり、隨て世人が當社に對し弗の見越買を云々するは誤解の甚しきものにして正鵠を失すること甚しきものなり

内地各店爲替取極高（單位千弗）

（自昭和五年八月一日—至六年十二月二十三日）

正金銀行

五年八月一日—六年九月二十日  
六年九月二十一日—同十二月二十三日

他銀行（三井、臺灣、朝鮮、シチー、香上）

五年八月一日—六年九月二十日  
六年九月二十一日—同十二月二十三日

合 計

五年八月一日—六年九月二十日  
六年九月二十一日—同十二月二十三日

以上の外九月二十一日以降正金銀行輸出入即座組合せのもの

× 兩者の差額に對し生糸輸出ビル提供の約なり  
第九節 金輸出再禁止

銀行賣  
（註）物産の買入れたる弗

銀行買  
物産の賣却せし弗

五年八月一日—六年九月二十日	五、一四五	一五、四九一
六年九月二十一日—同十二月二十三日	一四、八四〇	六、四五〇
他銀行（三井、臺灣、朝鮮、シチー、香上）	一九、九八五	一一、九四一
五年八月一日—六年九月二十日	一三、五四〇	三五、四七三
六年九月二十一日—同十二月二十三日	一三、五四〇	三、三六五
合 計	一八、六八五	三八、八三八
五年八月一日—六年九月二十日	一四、八四〇	五〇、九六四
六年九月二十一日—同十二月二十三日	一三三、五二五	× 九、八一五
以上の外九月二十一日以降正金銀行輸出入即座組合せのもの	八七五	六〇、七七九
兩者の差額に對し生糸輸出ビル提供の約なり	八七五	八七五



なほ右に敷衍して三井銀行では七年三月の定時株主總會に於て池田取締役會長は左の如く述べてゐる。

(前略) 最後に英國金本位制停止後當行の弗買付に對し、世上非難の聲を聞きたるも、右は前期中遊資の一部を短期運用のため紐育經由裁定取引により、英國に於て主として短期證券に投資し、同時に右引當に弗先賣約定をなせしが、英國金本位制停止の結果、英米國に於ける金の流動杜絶し、裁定取引著しく困難を來したれば、已むなく前記先物弗賣約定決済に必要な限度の弗買約定をなすに至りたるも、電燈電力會社々債利拂金並に取引先輸入爲替取極のため弗買買入をなしたるに過ずして、凡そ普通商取引の域を脱せず、何等思惑買を試みたるものに非ざることを茲に附言するものなり

### 金解禁を顧みて

我が國の金解禁は不況の深刻化と金準備減少の一大記録を残して、遂に世界恐慌の嵐の中に崩壊し去つたのであるが、抑々この金解禁には相當無理があつたことが覗はれる。

即ち第一の原因は我が國の實力が舊平價による解禁に耐へ得る迄強力でなかつた。この爲デフレ・ション強行に依る不況を豫想以上のものとした。第二の原因は四年秋の米國株式市場の暴落を契機と

して勃發した世界經濟恐慌によつて我が財界は緊縮恐慌と世界恐慌との挾撃を受けるに至つた。その上解禁當時に於ける外貨準備に對する誤算がこれである。

解禁當時に於ける我が國の準備は、前年の輸出ビル買上政策によつて在外正貨は三億四百萬圓に達し又在内正貨は日銀の正貨準備として十億七千三百萬圓を擁し、四年の平均發行高に對する準備比率は八五%と堂々たるものであつたが、前述の三億四百萬圓と發表された在外正貨の大部分は、實は正金が他の爲替銀行より相場を勉強して輸出ビルをかき集めたものであつたから、急に外貨が増加した譯でなく四年下期の輸出代金が其の儘政府の手に入つたと云ふに過ぎなかつたから、民間銀行會社の必要とする對外支拂は結局正貨現送によるの他なかつたものであつた。又この金解禁は井上藏相が焦り過ぎたところもあり、財界の一部でも危惧してゐた者もあつたが、一面井上藏相が政策として採り上げたものだから、大藏事務當局と十分なる諒解が遂げられてなかつたといはれてゐることを記憶すべきである。而し乍ら後述の如く金現送資金は専ら銀行手許資金で賄れてゐたものであつたから、日銀の利上げ並に年末接近に伴れ金融逼迫は著しく、年末には國債利廻は六分臺に急騰、日銀の貸出十億九千八百萬圓の新記録を示現、又コールは二錢五厘と云ふ恐慌レートを現出したことから考へて、若し政變が翌年に持越されたならば我國經濟界は餘程の變化が來したと思はれる。又一方この金現送は日支事變下に入り我が國外貨調達に一役を買つてゐることは見逃すことが出來ない。



銀行勘定の變化

斯くて最後の現送を終へた日銀の正貨準備は四億二千九百萬圓に下り、解禁當時に比し實に六億四千四百萬圓の正貨を喪失したのであるが、現送資金は何によつて賄はれたかを全國銀行勘定に依つて見よう。

全國銀行主要勘定 (單位百萬圓)

月	諸預金	諸貸出金	有價證券	預け金	現金
六年六月	二,六〇三	二,〇七六	四,九一九	七五	六六
七月	二,四七四	二,〇八八	四,九八八	七五	六六
八月	二,三〇五	二,〇八〇	四,九五五	六九	六八
九月	二,三三三	二,〇七〇	四,九二〇	七五	七三
十月	二,〇七四	二,〇九八	四,九〇六	六二	七三
十一月	二,〇三三	二,〇七四	四,八八九	六二	七〇
十二月	二,〇九五	二,〇四七	四,八三三	六二	六八

即ち預金に於て約六億三千萬圓と略正貨準備減少額に匹敵する額だけ減少し、これに對し不況の結果、貸出の回收が不可能の爲、専ら銀行手許に於て調達したことが現はれる。なほこの外不足分は

日銀の借入金に依つて賄はれたことが次の統計に依つて判然する。

日銀一般貸出高 (單位千圓)

月	月末残高	最高	最低
六年七月	六九,〇三	六九,〇三	六八,三四
八月	六八,五二	六八,五二	六八,四八
九月	六五,六六	六九,六七	六七,二五
十月	七三,二四	七三,九七	六四,五八
十一月	九五,三四	九五,三四	六九,〇三
十二月	九四,五五	一〇六,二五	六二,〇五

第十節 低金利政策の遂行

高橋藏相の金融政策

金再禁止後に於ける金融政策は各方面から重視さるゝと共に滿洲事件費支辨に基く公債政策より大なる轉換が豫想された。

金輸出再禁止せると雖も預金は七年に入るも減少傾向は緩和の模様なく、貸出金は却て増加傾向を



迎る有様で、銀行の諸勘定は金流出に伴ふ預金の激減と深刻な不況とに依つて銀行業績は一段と悪化し、全国各地に金融小恐慌が発生し、議會は解散せらるゝ等より、當時の世相は險惡を極め、經濟界を不當に中傷する流言蜚語は横行し、財界不安の念は實際以上に煽揚せられてゐた。

斯く銀行の手許逼迫並に金融界の異常は各銀行をして警戒方針を採らしめるに至つた。これに對する高橋藏相の包藏する金融政策はデフレよりインフレに轉換を意圖しつゝあつた。即ち

- 一、不動産銀行活用に依る積極的融資
- 一、大藏省證券の入札發行を中止して、日銀引受とする
- 一、日銀條例を改正して、貨幣制度の一大改革を行ふ
- 一、高金利の修正

なほ右政策は財政の膨脹より一層積極性を帯び、七年を出發點として我が金融政策はこゝに一大轉換を見ることとなつた。

### 赤字公債の發行

財界不況の深刻化と滿洲事變勃發から、内外共に時局多端となり、國際情勢の緊迫化から軍備擴張は必至の勢となり、又七年五月には五・一五事件の不祥事が起り、所謂非常時局を形成し、政府は從

來の消極的緊縮財政を一擲して積極的膨脹財政へと轉換することとなつた。

七年中に臨時議會を開催すること三度に及び、非常時の様相は益々濃化し、七年度の最初の豫算は議會解散の爲前年度豫算に基き其の實行豫算を約十四億三千萬圓としたのであつたが、臨時議會開催の結果、遂に豫算額は我が財政史上未曾有の二十億一千八百萬圓に及んだ。

而してその歳入不足額六億八千四百萬圓は之を公債の發行に依つて賄ふこととなり、茲に我が國最初の試みである歳入補填公債、即ち赤字公債の發行となつた。而も之が發行方法は從來の如き國債シンジケート銀行團の引受に依らず、其の大部分を日銀引受とし、政府の支拂資金を金融市場より吸收することなく創造する方法を採ることとしたのである。之は當時の財界は不況に喘いてゐた時であるから増税を行ふことは全く不可能であり、又これだけの公債を直接金融機關に引受けしめることも極めて無理なことであつたからである。

斯くて第一回赤字公債は七年十一月に於て發行を見たのであるが、日銀では今後の公債政策を考慮して公債消化機關の擴充を圖ることとなり、國債シン團に三井、三菱、安田、住友の四大信託會社を加へることとし、七年七月より實行した。

### 高金利の修正と國債優遇策



前述の如く膨脹財政の實施に依り年々七億圓以上に及ぶ巨額の赤字公債の日銀引受に依る繼續的發行は、一方政府の公債利拂高の著増として、歳出に於ける國債費の負擔増となるから市場金利の低下を圖り、低利公債を發行して財政上國債費の負擔減少を圖ることが必要となつた。又金利低下に依る景氣振興としても極めて必要なことであつた。

加之、日銀引受の方法に依つて公債發行は漸次各種金融機關に依つて消化されなければならず、之が圓滑に行はれるためには公債の信用を維持することが必要であるが故に、第六十二臨時議會に國債の價格計算に關する法律案を提出し、協賛を経て七年七月法律第十六號を以て公布するところあつた。右の如き政府の公債消化に順應するため、日銀では昨秋の金本位維持のための高金利政策を放棄し七年三月其の公定歩合を二厘方引下げ一錢六厘と變更するに至り、政府も其の間の釣合ひをとり、兌換券限外發行税を六分より五分に引下げた。

なほ日銀では一般金融の疏通に資すると共に一面國債優遇の趣旨の下に國債擔保貸出を行ふ場合、三十日以内の短期資金に限り金額の如何に拘らず最低率（當時一錢七厘）を以てすることとし、同時に大藏省證券に就いても取引先に對しては商業手形割引歩合（當時一錢六厘）に依る割引の方法を以て買入の途を開く旨七年四月末の東京手形交換所經濟調査委員會の席上で深井日銀副總裁より發表した。

これは日銀内規に依れば從來其の取引先銀行に對し、商業手形再割引以外の方法に依り資金融通の場合に於ては取引の性質、期限の長短金額の多少等に依つて適用する利率を裁量することとなつてをり、隨つて其の標準たる期限金額等は金融の狀態と取引先の狀態に依つて時々變更されてゐたものであつた。斯く三十日以内の國債擔保貸出に對しては最低日歩を適用することに改正したが、この目的とするところは（一）各銀行をして支拂準備としての國債所有を容易ならしめ（二）有力銀行の日銀利用の二點に歸着するが、この制度を採用せしめるに至つたことは當時高橋藏相をして七年四月の日本經濟聯盟に於て左の如く云はしめてゐる。

（前略）我が財界の一大缺陷と認むべきものは我が國の金融機關に統制の力が無く相互の連絡を缺いて居る點であります。我が國には中央銀行があり其の外に多數の特殊銀行及び普通銀行が存在して居つて金融機關としての種類及び系統は具はつて居るのでありますが、之等相互の間に十分なる協調が保たれて居ない、民間の大銀行の中には中央銀行より資金の融通を受くることを恥辱と考へるものがあります。尤も倫敦に於ては市中銀行が英蘭銀行から資金の融通を受けることは自行の信用を失墜せしむる所以であるとして之を嫌忌し、却つて英蘭銀行に對する多額の預金を以て中央銀行の貸出資金を援助して居るものと自負するの風が行はれたことがありますので、我が國の大銀行も或は此の例によらむとするものであるかも知れませぬが、我が國と英國とは其



の國情を異にして居るといふことを忘れてはなりません。また我が普通銀行と中央銀行との間には平素に於て十分なる理解が成立して居らぬものもあります。爲、一旦資金の必要を生ずるときは、自行の獨立を以て資金の調達を爲さなければならぬ結果急激なる債權の取立を行ふ等各種の弊害を醸すに至るのであります(後略)

續いて日銀では一時動搖してゐた地方金融界も漸次平靜となり、一般金利も引緩み傾向顯著となり民間預金も増加傾向を辿り割引市場も緩和され、金利の前途はなほ軟化するものと豫想されてゐる現狀に鑑み、七年六月再度利下げを行ひ、其の割引歩合を一錢四厘と改定し、金本位維持末期の異常的高金利を修正するに至つた。

### 劃期的低金利の展開

政府の低金利誘導策は七年八月郵便貯金の利率を従來の四分二厘を一舉三分に引下げ、これを十月より實施することとなつて現はれ、續いて日銀も八月、同年三度目の利下げを爲し、割引日歩を更に二厘引下げの一錢二厘と改訂したが、これは同行創立以來の低率であつた。茲に於て東西預金利子協定銀行も協定利率の引下げを行ひ、再び金再禁止以來の定期預金利率甲種四分二厘となつた。其の後政府は同年十一月に至り愈々赤字公債を發行するに際し、一層金利低下の促進を圖る目的の

下に公債利率を従來の五分より四分五厘に引下げたのであるが、膨脹財政實施に因る政府資金の撒布は金融緩慢を著しく促進し、金利の急速なる低下傾向を導いた。此の爲七年末には東西銀行間に預金利下げが喧傳され、八年に入り此の問題は關東銀行側によつて具體的に取上げられたが、關西銀行側に於て預金利下即時斷行の事情未だ切迫し居らざる旨の自重論有力であつたため、八年一月十六、十七日の兩者有力銀行會合に於ける協議により、一般に豫想された預金利下げの問題は打切りとなつた。此の利下げ頓挫の機縁は實に年初來盛に行はれた日銀公債賣却の効果が意外に大であつたことに依るが更に其の根本では、劃期的利下げに依る銀行預金の郵便貯金への移行及び好利廻の證券投資への逃避と云ふが如き、預金に於ける動搖を怖れたこと並に地方銀行に於ては大都市銀行に比べて預金増加が未だ夫れ程でなかつたこと等に基いたのである。

然るに其の後二月及び三月に於ける政府資金の撒布により、市場には再び遊資増加し、三月下旬頃から又預金利下げの氣運起り、遅くとも四月中には其の實現が見越されたが、公社債への買付け旺盛から遊資減少せるに伴ひ、利下げ氣運は頓に薄らぎ、四月に開催された全國手形交換所大會に於ては利下げの交渉が期待されたに拘らず、何等の問題もなく、利下げの機會は再び延期された。

然し乍ら、金融の基調は金利低下の傾向にあり、五月も引續き緩慢の度を加へ、日銀民間預金も二億圓を突破した。斯る事情により市場金利の低下は著しく進み、將來に於ける金利の一層の低下が一



段と印象づけられるに至つたが、更に六月下旬に於ける日銀の公債賣却制限は之に貢献し、金利の先安見越しから、公社債への投資は益々旺盛となり、五分利公債は額面を突破し、社債も一、二流物は五分パー發行が實現することとなつて懸念されてゐた預金の證券逃避の怖れもなくなつたので東西預金利子協定銀行では七月より定期五厘下げの三分七厘其の他の日歩預金は各一厘下げとし實施した。これと共に日銀でも同日利下げを行ひ各種共二厘引下げ商業手形割引日歩を一錢と變更した。又政府は九月に入り公債條件を變更し、その利率四分、價格九十八圓五十錢、期間二十五年とした。

斯くて金利水準の短期間に於ける低下に依り我が國金利史上曾て見ざる低金利時代が到來したのであつて、東西組合銀行の利下げは全国各地組合銀行の追隨するところとなり、八年末迄に利下げを行つた銀行組合数は百四十六の多きに及んだ。

### 日銀の公開市場操作

斯くの如く短期間に金利水準を激變せしめることに成功したのは、云ふ迄もなく赤字公債の續發に依り政府の創造資金の撒布が繼續的に行はれ、而も産業界は金解禁の餘波に依る疲弊快復せざる時であつたから資金需要の擡頭なく、銀行に於ては貸出の増加が見られないのに對して預金は政府資金撒布から一方的に増加したと云ふ状態を續けることが出來たからである。

低金利助長策として日銀引受に依る赤字公債續發は積極的な効果を擧げたものであるが、斯くの如き赤字公債の尨大なる繼續的借入支出は臆て放肆なインフレーションへの進展を不可避とするものであり、財界の基礎の未だ充分改善せられざる際に、斯る放肆なるインフレーションの發現は之を絶對に阻止すべきであることは論を俟たない。故に政府も八年に入るや、日銀をして引受公債をば賣却し以て銀行其の他の金融機關に推積せる過剰資金の引上げを行はしむるに至つたが、これ所謂日銀のオープン・マーケット・オペレーションと稱して當時金融界のみならず、財界一般に多大の衝動を與へた處であつた。蓋し、政府の尨大なる赤字豫算による通貨増發は、一方に於て新たな購買力を附加すると同時に、他方に於ては銀行資金の過多なる推積に伴ふ金利の急速なる低下を醸成し、以て財界不況の恢復を刺戟することが期待されたに拘らず、日銀の公債賣却がこれ等の情勢を緩和乃至阻止したからである。

爾來此の日銀の公債賣却は政府資金の撒布と共に、我が國金融界の二大根幹となり、インフレーション操作に並行して充分金融調節の効果を收め來つたのである。即ち公債賣出に依つて市場遊資吸収と急激なるインフレ進行阻止策として又賣止に依つて低金利促進と延いては産業界振興策としたものである。當時このオペレーションにより長短金利の相反並に起債市場の活況を偲べば十分であらう。



## 第十一節 日本銀行發券制度の改正

### 高橋藏相の意見と特別金融制度調査會の設置

五年一月金解禁を行つてより、日銀の正貨準備は漸次減少し、六年九月以降の減少は特に甚しく、結局金解禁前の十億七千三百萬圓より再禁止後の六年十二月には四億六千九百萬圓となり、七年に入つてからは四億三千萬圓臺に減少し、實に六億圓以上の正貨を失つたことは既述した通りであるが、之等の殆ど全部が貿易尻の決済、海外投資、或は資本逃避等のため海外に流出したのであつた。然るに當時財界不況下、緊縮政策の遂行に依り日銀兌換券の發行高は漸次減少しつゝあつたとは云へ、猶十億圓より十一億圓の間を往來してゐたのであるから、正貨四億三千萬圓に當時の保證準備發行限度の一億二千萬圓を加へても五億五千萬圓に過ぎず、五億圓前後の制限外發行が常態化してゐたのである。

而して五・一五事件を契機として成立した齋藤内閣は一轉膨脹財政を實施し、赤字公債發行に依り直接民間に政府資金を撒布注入して金融市場を緩和し、併せて低金利を助長促進して公債の圓滑なる消化を期待するにあつた。従つて從來の通貨收縮政策は之を改め、正貨準備激減の事情の下に新たな

る通貨政策を確立しなければならなかつた。

斯くの如き事情下に於ける高橋藏相の意見は、國內的には強力なる國家的統制を以て日銀が通貨の用途に應じて積極的の貸出を行ひ、これがためには金利政策を槓杆として通貨の需給を圖り、隨つて之を現行法に見る如く日銀が納税關係乃至限外發行等に拘束せらるゝ不便を除去し、唯國家は日銀の收益中より一定額を徴收することとし、進んでは更に發行税の撤廢を行ふも可なりとするもので、對外的には米國の如き有力なる國家がなほ依然として金本位制を固執する以上、國際貸借の決済として結局金を必要とするは已むを得ざるところであるが、これとても國家的に生産資金の活用に依り産業の發展を期待することに於ては必ずしも現實に巨額の金を死藏するの必要はないとの見解であつて其の通貨制度は依然屈伸準備制度に依らんとするものであつた。

斯くて藏相は右制度を考究せしむるため、大藏省に特別金融制度調査會を設置することとなり、曩に設置された金融制度調査會を廢止する處あり、その理由に付き七年五月藏相は左の聲明を行つた。

金融制度調査會は大正十五年に設置せられ、爾來我が國各方面の權威者に依つて金融制度の整備改善に關する諸事項が調査せられて來たのであつて、其の今日迄の事績を觀るに、其の調査の範圍は普通銀行制度、金融機關の検査制度、兌換銀行券の整理制度、公益質屋制度、貯蓄銀行制度、不動産金融制度、無盡業制度等に及び、或は法制の基礎を確立し、或は指導監督の行政方針



を決定し、或は斯業經營の指針たるべき事項を審議する等、其の我が國金融制度に對して爲したる貢獻は寔に特筆大書すべきものがあり、私は關係者に對し深甚なる感謝の意を表する次第である。然るに今後に於て調査すべき事項として残つてゐる問題は主として特別銀行に關する制度であり、且又調査に要する經費も大部分削減せられたのであるから、今後に於ては其の方面の權威者より成る小規模の委員會に依り、調査未了の特殊事項を逐次調査審議し度いと考へ、此度現在の金融制度調査會を廢止し、新に特別金融制度調査會を設置することに決定したのである。而して即日新調査會規則が發表され、委員並に幹事の顔觸れが發令された。

### 日本銀行券發行制度改正

斯くて第一回特別金融制度調査會は五月十四日藏相官邸に開催し、當局原案に對し審議の結果、原案を承認可決した。政府は直に六月草々開催の第六十二特別議會を經、夫々公布するに至つたが、これは左の如く三勅令案に分割されて公布された。

- 一、兌換銀行券條例中改正 七年六月法律第九號(勅令に依り七月一日より施行)
- 二、日本銀行納付金法 七年六月法律第十號(七下期分より施行)
- 三、日本銀行參與會法 七年六月法律第十一號(勅令に依り七月一日より施行)

一の改正は正貨準備の激減に對し當時平均十億圓の兌換券の發行高があり、之に政府資金撒布に依る發行増加を考慮し、從來の保證發行限度一億二千萬圓を一舉十億圓に大擴張すると共に低金利政策に隨ひ、限外發行稅率を從來の最低五分を三分に引下げ、限外發行の發生が十六日未滿の場合は、一切限外發行稅を賦課せざることとし、十五日を超えて發行を繼續せんとする時は大藏大臣の許可を要し、十六日以後の發行に對して之を賦課することに改めた。

二は前記の改正に依り日銀は相當兌換券發行並に税金關係に於て優遇を受くることとなつた關係上、發行稅制度と納付金制度と併用さることとなつたのである。即ち日銀は銀行券の發行及び政府預金の取扱を獨占し、其の他各種の特權を賦與されてをり、日銀は之に對して無利子法定貸付金、國庫出納事務及び公債關係事務の無手数料取扱を爲す外、保證準備發行稅並に制限外發行稅を納付することとせられてゐたのであるが、なほ日銀は多くの利益を擧げ高率の配當を繼續し來たもので、久しい以前から銀行券發行稅制度を納付金制度に代ふべしとする主張が行はれてゐたものであつた。然してこの納付金法に依れば日銀は事業年度毎に純益より、拂込資本金に對する年六分に相當する金額及び日銀條例第十條の規定により積立つべき金額の最少限度に相當する金額を控除した殘額の二分の一を政府に納付し、且つ純益より右の控除額及び納付額を差引いた殘額が拂込資本金額に對して年四分の割合を超過するときは、更に其の超過金額の四分の三を政